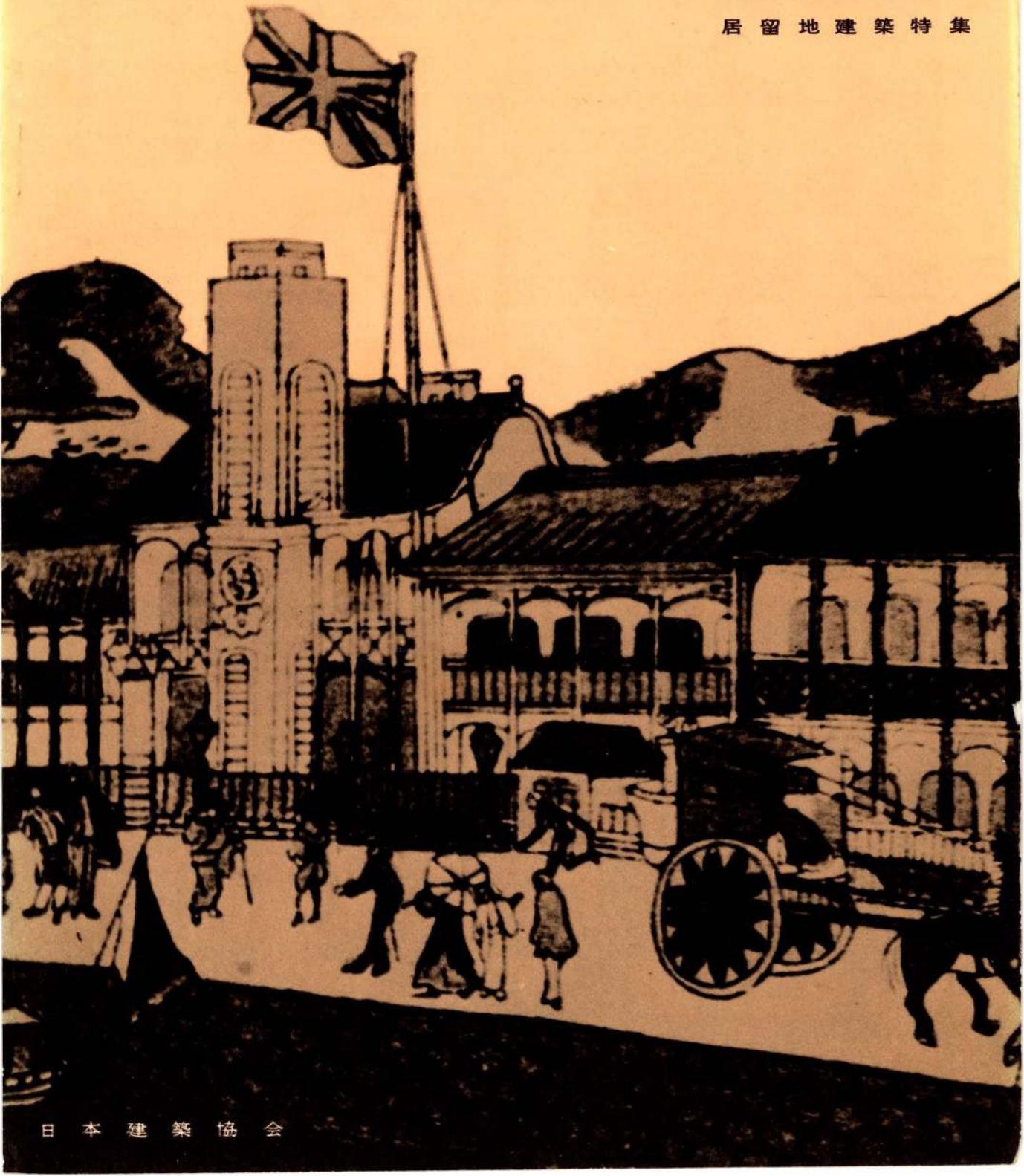
昭和24年3月19日第3種郵便物認可　昭和36年2月20日印刷　昭和36年2月25日発行　第42輯第2号（毎日1回25日発行）

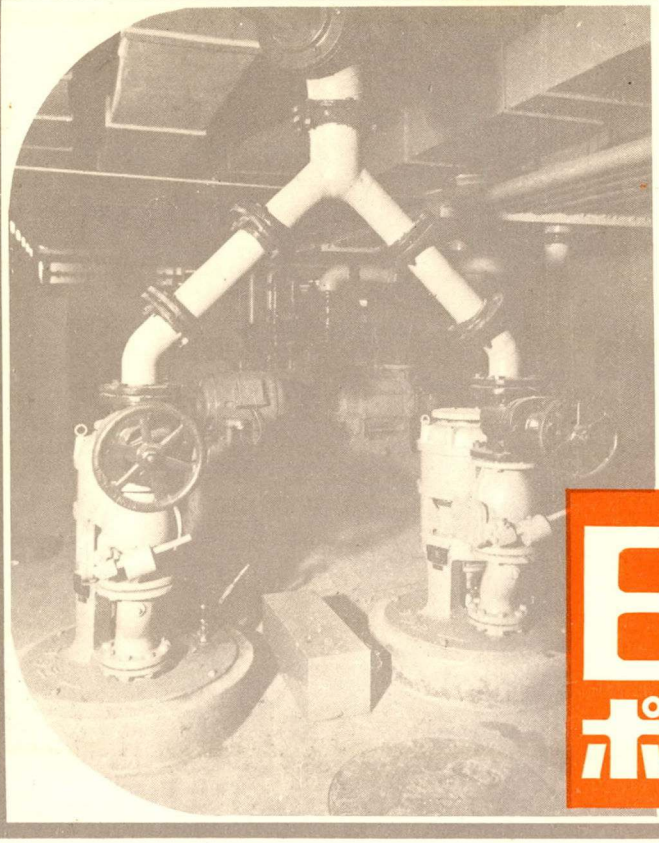
建築と社会

2／1961

居留地建築特集



日本建築協会



近代建築の
機能を生かす…

建築の設備とこれを生かすそれぞれの機器は近代建築美に調和した設計と機能を備えねばなりません。
日立製作所では、ビルディングに不可欠の各種ポンプを、多年の経験を生かして製作し各方面から絶大な称賛を博しております。

日立ポンプ

ＯＶ型渦巻ポンプ
ＤＶ型両吸込渦巻ポンプ
ＧＭＣ型タービンポンプ
モートルポンプ
汚物用ブレードレスポンプ
水中モートルポンプ
ボアホールポンプ

日立製作所

TRADE MARK

DOG

メンブレン式防水

の補強材料は30余年の経厂を誇る

ドッグ印で!!

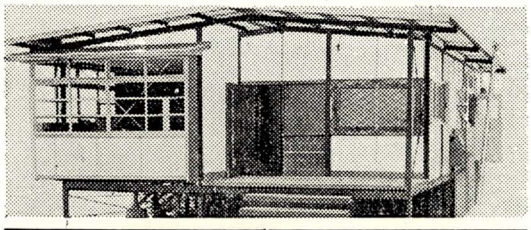
ドッグ印　アスファルトルーフィング
〃　アスファルトフエルト
〃　石綿ルーフィング
〃　砂付ルーフィング
〃　メルタイトルーフィング
〃　キンマレアタイト（高級瀝青金麻布）
〃　ヘッシャンファブリック（瀝青黄麻布）
〃　コットンファブリック（瀝青綿布）
〃　白麻ファブリック（瀝青苧麻布）
〃　ゲオンタイト（伸縮目地板）

地下鉄道、高架鉄道の如き激しい震動箇所でも弊社製品は完璧の防水効果を発揮して居ります

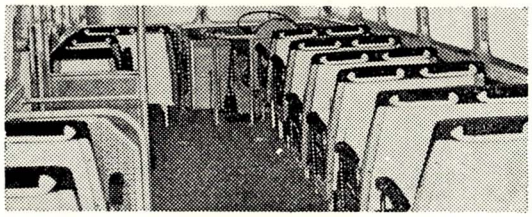
型録・見本・仕様書
御報呈上

株式会社 工英社

本社・工場　大阪市西成区橘通９丁目24番地　電話天下茶屋㊽8861・8862番



アートボンド



米国ＵＳラバー社との
技術提携による
ビニールと金属との積層板

素晴らしい色、ソフトな感じ、しかも耐久性と加工性に富んだ金属板―**アートボンド**が誕生しました。

自由な色や柄をプリントしたビニールフイルムを特殊な方法で強力に鉄板又はアルミ板に接着した、美しい金属板です

アートボンドは建築用、船舶用、自動車、車輛用、工業用、電器用、雑貨用と利用範囲が極めて広く、各方面から多大の期待を集めています。

社名変更・本社移転御通知
社名 (新)八幡エコンスチール株式会社
(旧)中之島製鋼株式会社
本社 東京都中央区日本橋江戸橋3丁目2
(第2丸善ビル4階)
電話東京 (201) 9261 (代)

主要製品
軽量形鋼 エコンシートパイル
デツキプレート ガードレール
サツシバー サツシフレーム
電縫鋼管 アートボンド

八幡エコンスチール株式会社
大阪工場 大阪市東区弁天町4 電代表(94)5031・6031
東京工場 東京都足立区千住関屋町38 電(881)6141-4

八幡製鐵株式会社

皆様の設計と施工に**東洋**の床材



リノリューム
リノタイル
ビニール系新製品
ビニラートタイル
ビニール製
スポンジシート

◇ソフトな感触
◇優秀な耐久力
◇美しい色彩

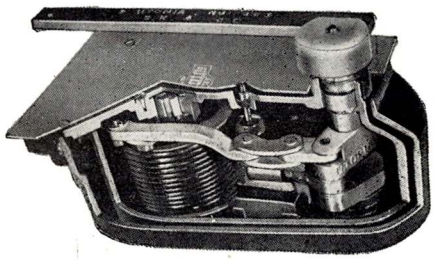
カタログ進呈

東洋リノリューム株式会社
本社工場 兵庫県伊丹市伊丹558
電話 伊丹 代表3531・大阪㊽4490
東京支店 東京都中央区銀座4 三和ビル
電話 (561) 1701・2564
大阪事務所 大阪市東区瓦町2 三和ビル
電話 (23) 0375～0379

S.K

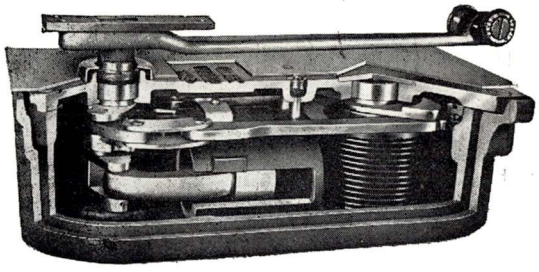
近代人の感覚にマッチする

ユートピア印

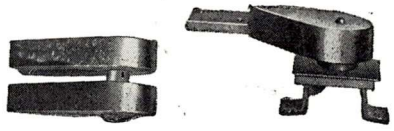


（片開持出吊り型）

フロアーヒンヂ　ピボットヒンヂ



（中心吊自由開型）



（ピボット・ヒンヂ持出し吊り型）

（カタログ御入用の節は御申込下さい）

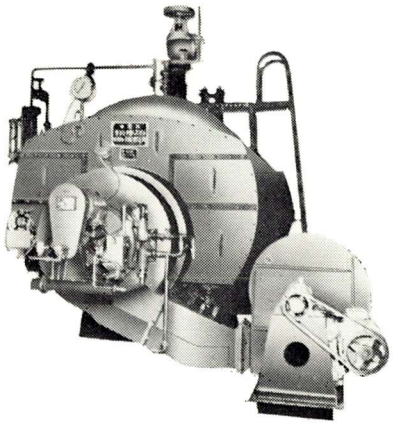
製造元

敷島金物株式会社

布施市横沼町１丁目46番地　電話 布施（72）７７１３・７７１４番
東京都千代田区神田三崎町２ノ26　電話 東京（301）0403（332）5310番

505型 七年間研究の成果
MPボイラ

重油焚許可なしで
伝熱面積５０m²以下で
蒸発量３Ton　以上
ボイラ効率８５％以上



株式会社 **平川鐵工所**

本社・工場　大阪市大淀区大仁西２－１　電（45）１９７５（代）
東京営業所　東京都中央区八重洲６－７　電（281）7787（代）3100
九州営業所　小倉市富野５２５　電（5）４８６２

あなたの忠実な…

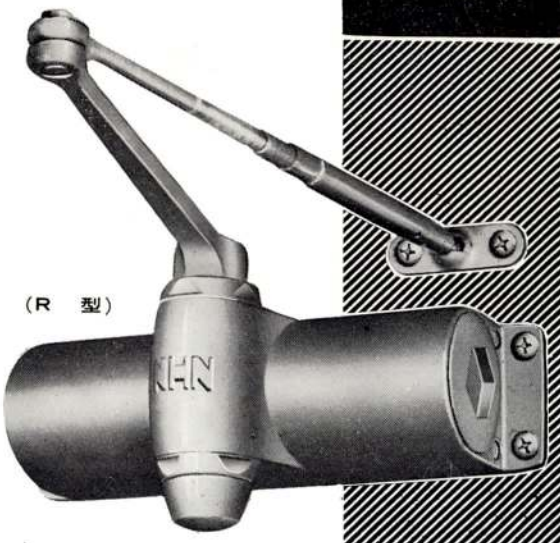
ドアーボーイ！

NHN

＊紫綬褒章に輝く＊

日・米・英・独，各国特許

ニッカナ ドアーチエック



(R 型)

日本金具製作所

製造元 ダイハツ工業株式會社

型状優美
故障絶無

錆びない

岩住の

サッシ・ドアー

弊社製品の総てに

尼崎新工場稼動

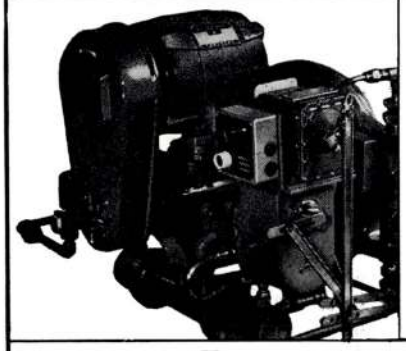
オートメーションに依る ボンデライトを
錆止メ塗装は 焼付塗装を
実施致しまして 完全防錆を
期しています 是非御採用の程願上ます

株式会社 岩住鐵工所

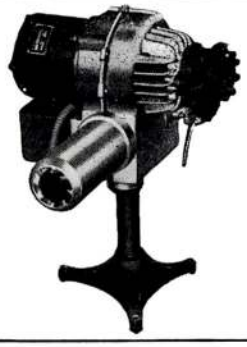
本社及本社工場 大阪市西淀川区千舟東二丁目三一番地 電話(47)代表 5123・3000
尼崎工場 尼崎市守部字下河原一五番地 電話 (40) 3 7 7 4

最高水準を行く

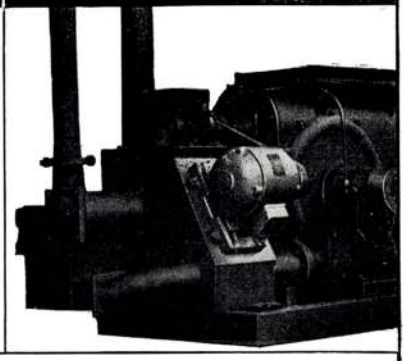
サンレー 重油は
全自動 ロータリー
重油バーナー



サンヒート 軽油は
全自動 ガンタイプ
軽油バーナー



サンレー 石炭は
全自動 ニューマチック
スプレッダー ストーカー



NIKKYO
日共冷熱機材株式会社
本社 大阪市大淀区天神橋筋六丁目五（天六阪急ビル）
電話 大阪 ㊾ 代表 1476（直通）7071（交換）
東京出張所 東京都千代田区神田神保町1丁目
電話 東京 (291) 2718

最も進歩した建築には最も進歩した床材

ビニアスタイル（2粍厚）

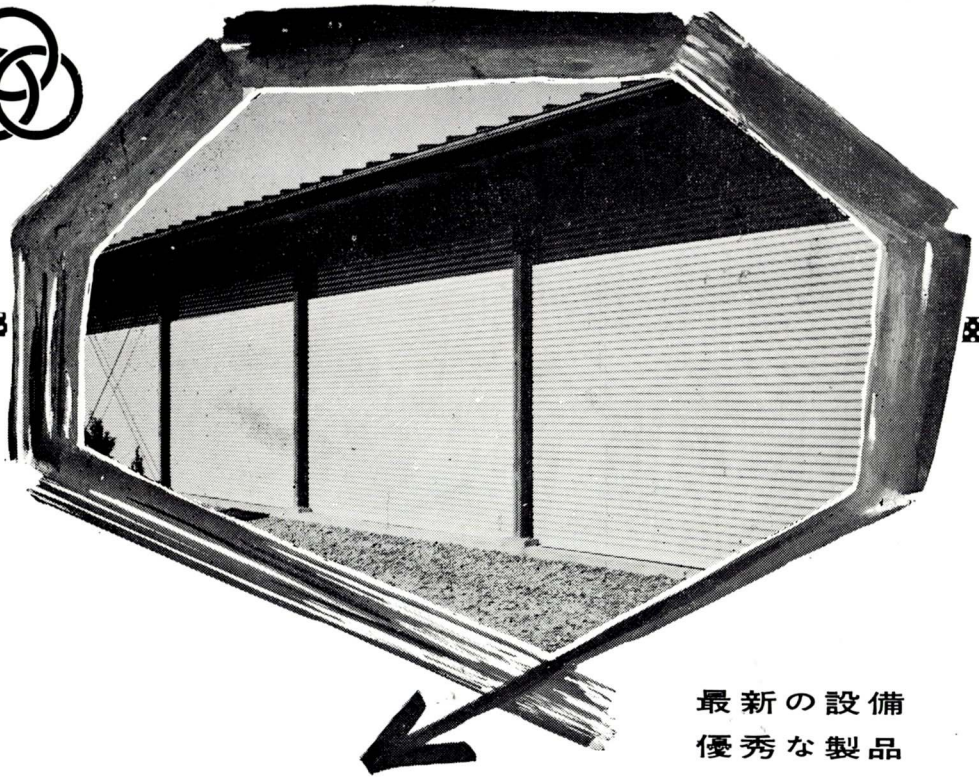
新製品



K－タイル（1.5粍厚）

アスタイル

藤森建材株式会社
東京 東京都中央区日本橋通1－2（大倉ビル） 電話 (271) 6432—5
大阪 大阪市西区土佐堀通1－1（大同ビル） 電話 (44) 9417—8
九州 福岡市薬院大通 2－73 電話 (4) 1945 (5) 3473
北海道 札幌市南二条西10丁目 荒善（株）内 電話 (4) 2511—3



最新の設備
優秀な製品

三和シヤッター

甲種・乙種防火シヤッター
電動式・手動式・スプリング式
其他のシヤッター全般

三和シヤッター株式会社

本店 尼崎市久々知字コエ23 電話大阪代表(40)5341

札幌支店 札幌市琴似町琴似522 電話(5)6873(3)7438
旭川営業所 旭川市常盤通3丁目 電話(2)5097
帯広出張所 帯広市西二条南7丁目6 電話3856 3857
東北支店 仙台市土樋112 電話(3)3296-9618
秋田営業所 秋田市楢山虎ノ口外張新町9 電話2 7 8 3
新潟営業所 新潟市春日町西2丁目 電話(3)1443
会津若松出張所 会津若松市西栄町496 電話2 3 8 8
東京支店 東京都新宿区新宿1丁目60 電話(341)2478-9678-3696
神田営業所 東京都千代田区神田松住町12山京ビル 電話(291)3841~5
神奈川営業所 横浜市中区富川町116 電話(3)8023
静馬営業所 島崎市下松田町(駿馬場四ノ角) 電話2 1 6 6
栃木営業所 宇都宮市旭町1丁目3428 電話7 7 2 2
甲府営業所 甲府市紅梅町2 1 電話2 4 4 2
名古屋支店 名古屋市中村区広井町2丁目46八洲ビル 電話(54)2846 (55)9786
静岡営業所 静岡市音羽町188 電話(3)2846
長野営業所 長野市妻科町739 電話(2)5292
松本出張所 松本市岩町149 電話2497・4744
四日市出張所 四日市市四ノ谷新町2823 電話2 4 4 3
大阪支店 尼崎市久々知字コエ23 電話代表(40)5341
大阪南営業所 大阪市阿倍野区三明町1丁目22ノ3 電話(77)8217
神戸営業所 神戸市長田区菅原通3丁目196 電話(5)9451
金沢営業所 金沢市上胡桃町36 電話(2)1387
福井営業所 福井市四番町8 8 電話2053
高松営業所 高松市塩上町8 09 電話(3)4290
高知営業所 高知市旭町3の50 電話(2)1576
広島営業所 広島市千田町3の856 電話④3756
九州支店 福岡市薄辺通5丁目92 電話(5)5181-6901
熊本営業所 熊本市東外坪井町73 電話(2)893
佐世保営業所 佐世保市島瀬町140 電話5 5 1 3
鹿児島営業所 鹿児島市平野町119 電話(2)6762

社団法人

日本サッシ協会

関西支部賛助会員

スチールシャッター
日本シャッター製作所
小俣製作所大阪支店
鈴木シヤタア商会
本田工業株式会社

錠前
谷山製作所
昭和金属工業株式会社

サッシ附属金物
近松金物株式会社

ドアー附属その他建築金物
石倉商店
渋谷幸雄商店
日本ドアーチェック製造(株)
平安伸銅工業株式会社
協同金属工業株式会社

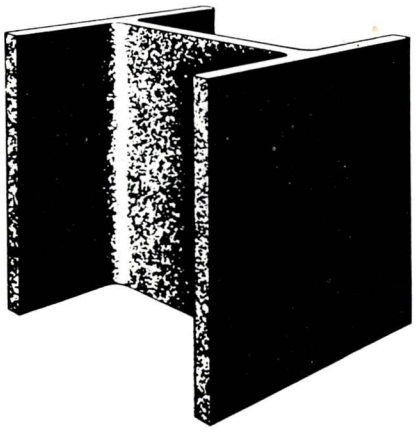
サッシバー
加納鉄鋼株式会社大阪支店
東都実業株式会社大阪出張所
東鋼商事株式会社大阪営業所
西村金属株式会社大阪出張所

サッシ・ドアー製造用諸機械
関西鉄工所

パーカー
日本パーカライジング
株式会社大阪出張所

●明日の日本を礎く…**H形鋼**

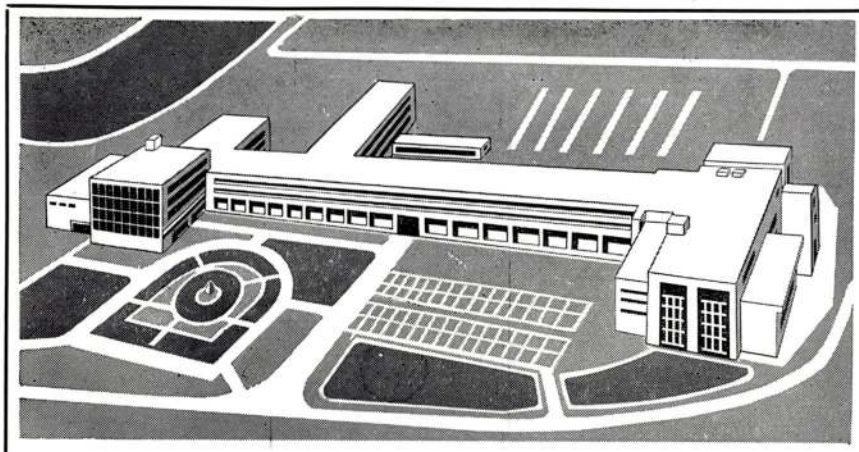
Ⅰ構造用H形鋼
Ⅱ基礎杭用H形鋼



用途・橋梁　地下鉄　建築(ビル
工場　発電所　学校　その他)
船舶　機械　鉄塔　鉄道　土留
各種基礎杭　岸壁　下水渠



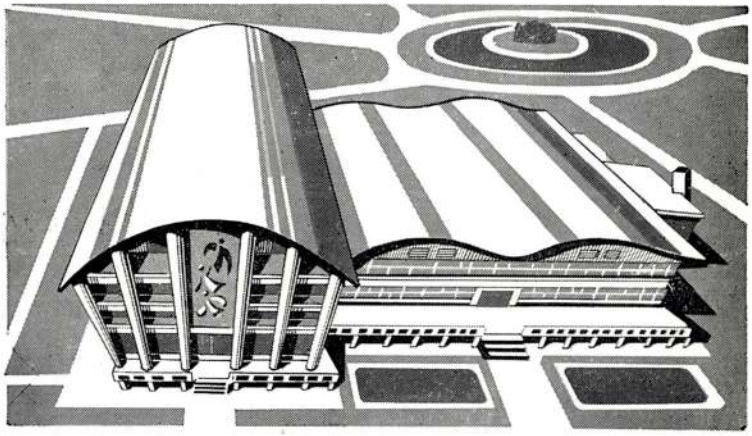
八幡製鐵株式會社



軽量、緩勾配屋根に
軽快な近代建築材

日泝スーパーアルソイド
日泝ゴールデンルーフイング

伸縮目地材　エキスパンタイト
　　セロタイト
コーギング材　シールセメント



日泝化学工業株式会社

本　　社　東京都中央区八重洲1—3
　　TEL(271)7000・5463～5
営業所及東京工場　東京都荒川区尾久町6—101
　　TEL(807)代表0161～5

大阪営業所及大阪工場
　　大阪市東淀川区堀上通り3—39
　　TEL(39)0924～5・2045・2079

東陶の衛生陶器と付属金具

L-92 に代る

L-220

オパール



ビル・アパートはもとより一般住宅

にも御採用頂けるよう寸法や価格の点では従来最もよく

Toyotoki 御愛用頂いていた製品L－92を基準として考慮いたしました。

定　価

陶　器(1級)L 220 ¥ 2,750

金　具(Toyotoki印)

立水栓 T205Y
@¥ 600 (2個) ¥ 1,200

止水栓 T4AY
@¥ 670 (2個) ¥ 1,340

排水金具 T6P ¥ 1,210

バックハンガ
取付木ネジTL220D ¥ 200

計 ¥ 6,700

参考定価

陶　器(並級)L 220 ¥ 2,200

金　具(TTK印)

立水栓 K205Y
@¥ 510 (2個) ¥ 1,020

止水栓 K4AY
@¥ 570 (2個) ¥ 1,140

排水金具 K6PC ¥ 1,030

東洋陶器株式会社

本　社
小倉市篠崎町458
TEL ⑤ 2481～5

大阪営業所　大阪市東区高麗橋5－32　TEL ㉓ 4518～9
各地営業所　東京・名古屋・小倉・広島・高松・札幌・仙台・富山　TEL 2105～8

茅ヶ崎工場
神奈川県茅ヶ崎市



床材の王座（キング）！

新発売

ロンタイルK

30 cm × 30 cm ・ 厚さ 2 mm

ロンリウムK

182 cm 巾 ・ 厚さ 2mm、3mm ・ 長尺

従来のロンリウム・ロンタイルの姉妹品として、川口ゴムの最新の設備で完成したビニル新床材で、色調・摩耗性・耐燃性・耐油性など格段と優秀性を有します。ロンリウムK・ロンタイルKはいずれも全層同質で耐摩耗が強化され、然もソフトな質感は公共建築・ビル・車輌の床にピッタリとし価格も一層経済的になっています。

ロンプレート
網入等各種類そろった塩ビ波板

ニューロンプレート
使いやすい、トタン小波の普及品

ロンガラス
用途の広い、透明・半透明塩ビ平板

ロンフイックス
丈夫で汚れない最新の壁・羨貼材

ロンリウム
品質随一と定評のある床張材

ロンタイル
あらゆる床にマッチする美しい床材

川口ゴム工業株式会社

本社・工場　東京都葛飾区本田四ッ木町54　電話　東京(697)6141(代表)
瀬生工場　埼玉県越谷市大字瀬生2740　電話草加(0871)2033瀬生112
外国部　東京都千代田区神田錦冶町2－16　電話　東京(291)3588～9
神田営業所　東京都千代田区神田錦冶町2－16　電話　東京(291)0003～4
大阪営業所　大阪市南区北炭屋町33　電話　大阪(27)4358～9



梁の被害

白蟻

の駆除予防工事専門

諸官庁・諸会社御指定

全国各地方に社員が出張いたしておりますから遠近に拘らず御一報次第蟻害対策の御相談に参上致します

調査無料!!

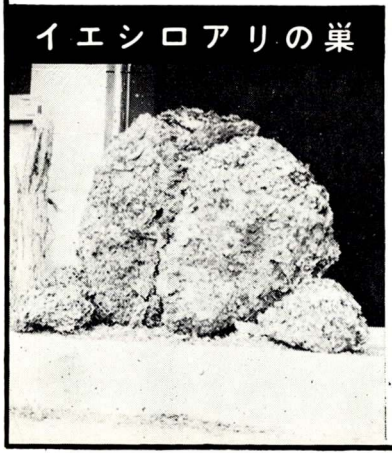
和歌山市小松原通四丁目一番地（日赤病院前）

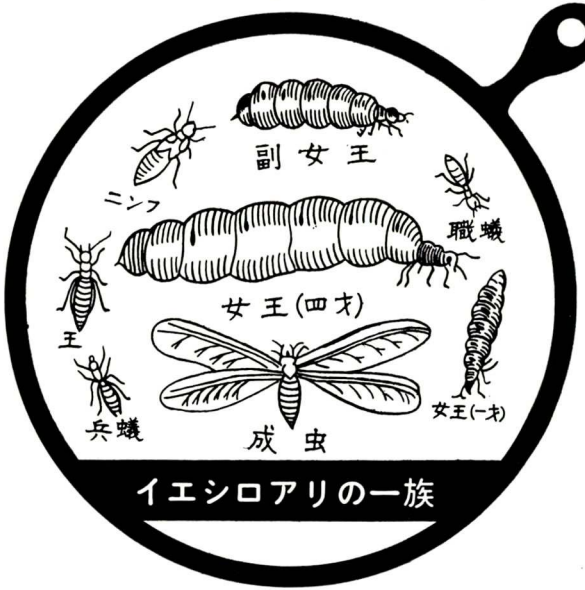
前田白蟻研究所

電話（和歌山）②１３８９番

建物樹木の害虫

白　蟻





和歌山市小松原通四丁目一番地(日赤病院前)

前田白蟻研究所

電　話（和歌山）②１３８９番

会と催

若い会員の集い
コンクリート打放しの
建物見学会

第5回若い会員の集い＜見学と批評の会＞
コンクリート打放しの建物見学会

1. と　き　2月18日（土）午後1時30分集合―5時解散
1. 集合所　大阪駅西口バス駐車場・本会名掲示の京阪観光バス（貸切バス・不二建設株式会社殿ご提供）
1. 会　費　¥ 60.00（日本工芸館見学料）
1. 申　込　15日までに電話で申込のこと。ただしバス定員40名に達した時は締切ります。
1. 見学順序　大阪第3市外電話局→利昌工業（株）→日本工芸館（見学建物批評の会を日本工芸館で行ないます。）
1. 見学建物概要

A. 大阪第3市外電話局

設計・監理　日本電信電話公社建築局
施　工　株式会社 間　組
位　置　大阪市北区堂島西町2
工　期　33年9月～35年6月
建築面積　2,321m²
総建築面積　20,038m²
高　さ　30m500
構　造　SRC，地下2階，地上8階

B. 利昌工業株式会社

設　計　彦谷建築設計事務所
施　工　不二建設株式会社
位　置　大阪市北区堂島中2―40
規　模　鉄筋コンクリート造，地下1階，地上4階
建築面積　284.58m²
総建築面積　1,272.94m²
工　期　34年5月～34年11月

C. 日本工芸館

設計者　浦辺鎮太郎，松村慶三
施　工　森上工務店
位　置　大阪市浪速区新川6丁目
建築面積　100m²
総建築面積　300m²
構　造　鉄筋コンクリート造3階
工　期　34年11月～35年9月

新酒蔵（大関・寿蔵）の見学会

——灘の銘酒「大関」のできるまで——

1. 日　時　2月22日（水）午後2時（集合）—4時（解散）
1. 集合場所　大関恒和蔵正門前（阪神電車神戸線・久寿川駅下車西すぐ浜へ徒歩約5分左側）
1. 申　込　17日までに電話で申込みのこと。但し50名に達したときは締切ります。

大関「寿蔵」建築概要

設計・施工　株式会社　竹中工務店
位　置　西宮市今津出在家町38
構　造　鉄筋コンクリート4階建，塔屋2階
工　期　昭和35年6月2日～昭和35年12月24日

都ホテルと妙心寺花園会館見学会

京都支部共催

1. と　き　2月24日（金）午後1時30分（集合）—5時（解散）
1. 集合所　京阪電車三条駅南出口前の京阪バス車庫横本会名掲示の京阪観光バス（株式会社大林組殿ご提供）
1. 申　込　20日までに本部（23）9648番。京都支部（23）4161番に電話で申込み下さい。但し定員100名に到した時は締切ります。
1. 見学順序　京阪バス車庫前出発→妙心寺花園会館→都ホテル→京阪電車三条駅（解散）

都ホテル建築概要

設計・監理　村野・森建築事務所
施　工　株式会社　大林組

位　置　京都市東山区粟田口華頂町1
構造・規模　SRC造　地下1階，地上9階，塔屋3階
敷地面積　46,253.83m²
建築面積　3,968.23m²
総建築面積　16,595.50m²
工　期　34年9月～35年12月

妙心寺花園会館建築概要

設計・監理　村野・森建築事務所
施　工　三和建設株式会社

位　置　京都市右京区花園妙心町1
構　造　鉄筋コンクリート造2階建，一部木造建
軒　高　6.8m
建築面積　958m²　鉄筋コンクリート部　594m²／木造部　364m²
総建築面積　1,538m²
工　期　33年1月～34年1月

新酒蔵の見学会

建築面積

1階	1,200m²	（貯蔵庫，船場等）
2階	1,200m²	（仕込場）
3階	1,200m²	（釜場，洗場，麹室，酒母室）
中3階	125m²	（蔵人寝室）
塔屋 1階	250m²	（米置場，洗米場）
〃 2階	75m²	（エレベータ，機械室および水槽）
計	4,120m²	
その他ボイラー室	36m²	（別棟）

都ホテルと妙心寺花園会館見学会

本会後援
フーラー博士講演会

本会後援

R. B. フーラー博士講演会

1. とき　2月20日（月）午後1時
1. ところ　ガスビル・ホール（東区平野町）
1. 講師　1. 講演
京大名誉教授　工博　坂　静雄氏
1. 都市建築の未来図
R. B. フーラー博士
建築映画上映の予定
1. 主催　大阪読売新聞社
1. 後援　大阪府，大阪市，日本建築協会，日本建築学会近畿支部，N.T.V.，Y.T.V.

リチャード・バックミンスター・フーラー博士は，1895年に生れ，現在65才である。ハーバード大学卒業後，ジオデシック構法＝Geodesic Construction と称するドームを発明し，Geodesic Dome といえば，フーラー博士，フーラー博士といえば Geodesic Dome というふうに，世界的に名高い。1958年に開かれた大阪の国際見本市の米国館も，その Dome のひとつであることは，記憶に生々しい。（Geodesic Dome については，本誌1958年5月号を参照されたい。）

現在，ジオデシック社長，フーラー研究財団理事長の職にあるが，また南イリノイ大学ほか全米113におよぶ大学の客員教授，講師を兼ねている。理学博士（ワシントン大学），文学博士（ミシガン大学）意匠学博士（ノースカロナイナ州立大学）などの肩書をもつ。

なお，代表的著作に「月への9つの鎖」(Nine Chains to the Moon)，「技術の新しい世界」（New Worlds in Engineering，共著），ダイマキション・エアオーシャン・世界地図（Dymaxion Airocean World Map）がある。

本会後援
京都の明治建築
見学会

京都の明治建築見学会

1. 主催　日本建築学会近畿支部建築史研究分科会
1. 日時　2月26日（日）
1. 集会　国鉄京都駅前　午前10時
大阪学芸大学助教授近藤豊氏のご案内により，貸切バスで新島邸，同志社大学，龍谷大学，セント・ヨハネ教会，ハリストス教会その他を見学の予定
1. 申込　2月23日までに電話でお申込み下さい。バス定員に達した時は期日前でも締め切ります。
1. 備考　日本建築協会の会員も参加できますからお申し込み下さい。

急告

1961—1962年度フルブライト資金による経復施費給付選考についての要項が発表されました。詳細は本会事務局にご照会下さい。

新工法によるリビング・ハウス設計懸賞募集

1. 募集の趣旨

戦後すでに15年をへて住宅事情は一応の落付きを取戻しましたが，その後人口の都市への集中，世帯の独立分離の傾向，一般生活水準の向上等により，住宅の需要は一段と増大するにいたりました。

近年各種の「プレファブ住宅」があいついで誕生してまいりましたが，その多くは主材料として鉄骨，軽量形鋼などの金属材料が使用せらておりますので，一面において在来から親まれていた木材を主材料とする「新工法によるリビング・ハウス」を期待する声も相当高まってまいりました。木材の「防湿防温性，柔軟な感触，価格の低廉等」優れた多くの特質を多分に活かした木造住宅が，きわめて健康的で住み心地のよいものであることはいうまでもありません。とくに各種の難燃，あるいは不燃性新建材の発達にともなつて木造住宅の防火性も著しく高められました。

よつて，ここに木材を主材料とし，これが特質を活かし，材料を規格簡素化して，なるべく工場生産化した「木造新工法によるリビング・ハウス」を世に送らんことを念願し，下記要領により，ひろく設計の懸賞募集を行なうこととしたしだいであります。

2. 募集要項

① **課題** 新工法によるリビング・ハウス

② **建築面積** 55平方メートル（1割の増減は認む）

③ **構造** 新らしい組立乾式工法を求む

④ **使用材料** 構造主材料は木材とする

⑤ **工費** 低廉なるを望む（附帯工事を含む1平方米当り1万5千円～1万8千円程度）

⑥ **図面および仕様書**（メートル法による）

（イ）平面図 （北を上方とする）縮尺1/50

（ロ）立面図 〃 1/50 2面以上

（ハ）矩計図 〃 1/20

（ニ）取付方法の詳細図 〃 任意

（ホ）仕上概要

（ヘ）製図用紙 白色画用紙 縦53cm 横77cmに墨書きのこと，陰影彩色は不可

以上の図面には氏名記号等を記入せず別に住所，氏名，勤務先を記載したものを別封して図面の裏に糊付けすること。

⑦ **注意事項**

（イ）採光，通風，体裁，間取り等を考慮すること。

（ロ）構造の改善，資材の種類，規格の簡素化により工費の節約と工期の短縮を図り，工場生産をして現地で簡単に組立てできるようにすること。

（ハ）郊外住宅を目標とすること。

（ニ）建築基準法その他法規に準拠すること。

3. 賞

入選	**賞状および賞金**	**各20万円**	**3名**
選外佳作		**各2万円**	**5名**

入選図案のうち，とくに優秀なるものがあった場合には特賞として10万円を付加する。

4. 審査

イ **審査員の氏名**（50音順）

足立 孝氏（工博 大阪大学教授）
小倉 武夫氏（農林省林業試験場木材部長）
北山二十三氏（竹中工務店技術部長）
小林 清氏（新住宅社社長）
清水 和弥氏（山下寿郎設計事務所大阪支社長）
寺島 三雄氏（大阪府建築部住宅建設課長）
中西 六郎氏（中西六郎建築事務所長）
西村 栄一氏（大阪市住宅部住宅建設課長）
西山 卯三氏（工博 京都大学助教授）
彦谷 邦一氏（彦谷建築設計事務所長）
平井 信二氏（農博 東京大学教授）
三木 栄逸氏（大林組住宅部長）

ロ 審査の結果については，何人も異議の申立てはできない。

5. 提出期限

昭和36年4月30日16時限り

6. 提出先

大阪市西区新町通1丁目77
リビング・ハウス研究所

7. 発表

審査の結果は入選ならびに佳作に対しては，本人に通知するとともに，昭和36年5月末日の木材業界紙および「建築と社会」「新住宅」6月号に発表する。

8. その他

（イ）入選図案の著作権版権は当所に帰属するものとする。

（ロ）応募図案を将来出版するさいは，その掲載を承諾するものとする。ただし掲載したものに対しては該図書を贈呈する。

（ハ）応募図案は製版後希望によって返送する。ただし返送料は各自の負担とする。

（ニ）応募図書の火災盗難その他の不可抗力による滅失毀損に対しては当研究所はその責を負わない。

（ホ）作品の展示会を大阪において開催する。

9. 後援

大阪営林局 社団法人全国木材組合連合会
全日本木材市場連盟 大阪木材業組合
全国林材青壮年団連合会

昭和36年2月1日

主催 大阪市西区新町通1丁目77
リビング・ハウス研究所


2
DK
ダントウタイル
淡陶株式会社

壁に張り上げて見て気持のよい色合無暗に余分の光沢を放たない表面／何時までもアキが来ない●セラミックの良さを生かしたダントウタイルを……

伝統と技術を誇る
淡陶の製品



床には新しい床材料
ダントウフロアータイルP

モダンリビングの設計に！
オフイスのレイアウトに！



淡陶株式会社

大阪支店　大阪市西区阿波座南通り1の1
電話代表（54）8523
東京支店　東京都中央区日本橋浜町2の47
電話(671) 7309 (661) 7297

本社及阿万工場　兵庫県三原郡南淡町伊賀野　電話　阿万　10・110　　福良工場　兵庫県三原郡南淡町福良　電話　福良　19・322



大阪神鋼ビル

大井ビル

北海道拓殖銀行

設計　三菱地所株式会社

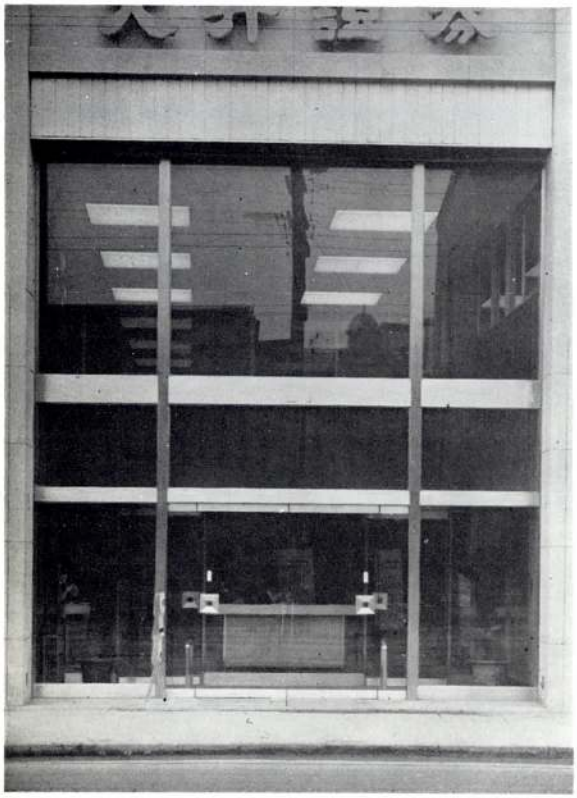
施工　清水建設株式会社



大井ビル

大阪神鋼ビル

北海道拓殖銀行



タフライト・ドアー使用

日本板硝子株式会社

大　井　ビ　ル

大　阪　神　鋼　ビ　ル

北　海　道　拓　殖　銀　行



シャッター工事全般　株式会社　小　俣　製　作　所



大阪神鋼ビル

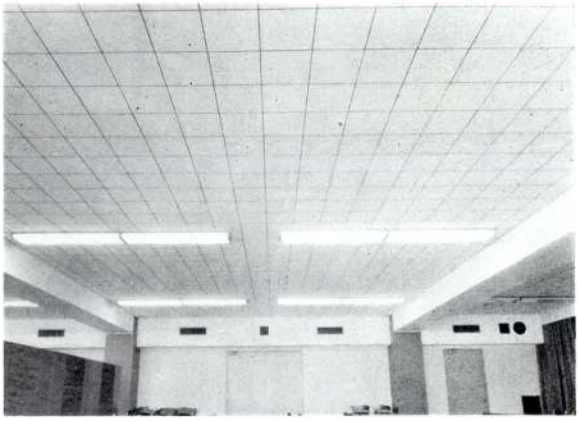
大井ビル

北海道拓殖銀行



自動扉　　施工　大阪ドアーエンジン株式会社

日本エヤーブレーキ株式会社



吸音板（ゴールデン・アコース）

日本ハードボード工業株式会社

大理石工事

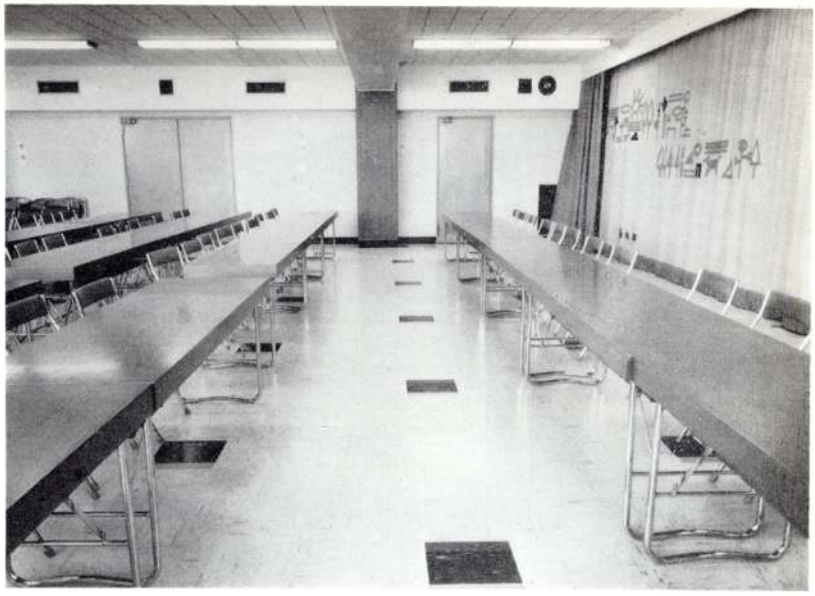
株式会社矢橋大理石商店



大阪神鋼ビル

大井ビル

北海道拓殖銀行



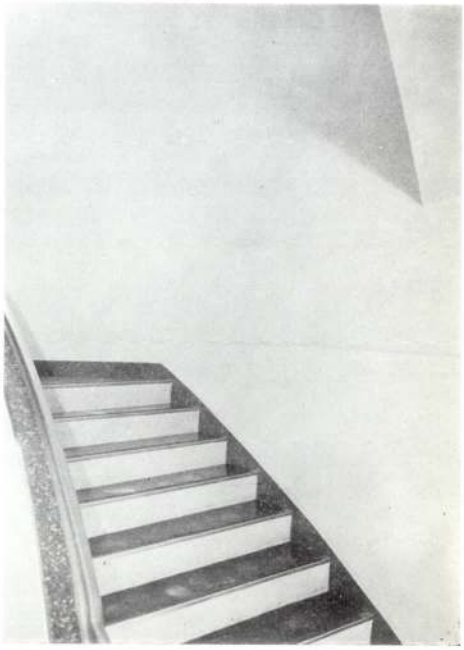
リノリューム・ジャスペ及びビニラートタイル
全館使用

東洋リノリューム株式会社



塗料関西ペイント
フタリット
ビニデラックス
ゾラコート 全館使用

株式会社石渡康三郎塗装店



大　井　ビ　ル



◀ 1階営業室客溜大天井

電　気　工　事

株式会社

ヤ　マ　ト　電　気　商　会



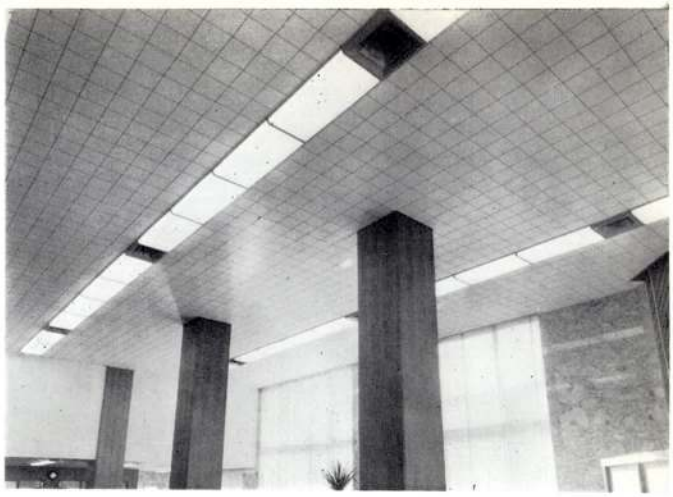
◀ 9 階 集 会 場



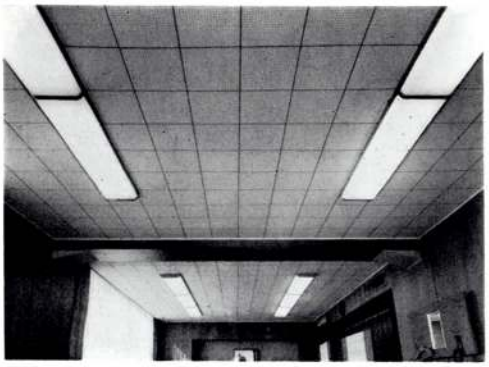
◀ 7階一般事務室

大　阪　神　鋼　ビ　ル

北　海　道　拓　殖　銀　行



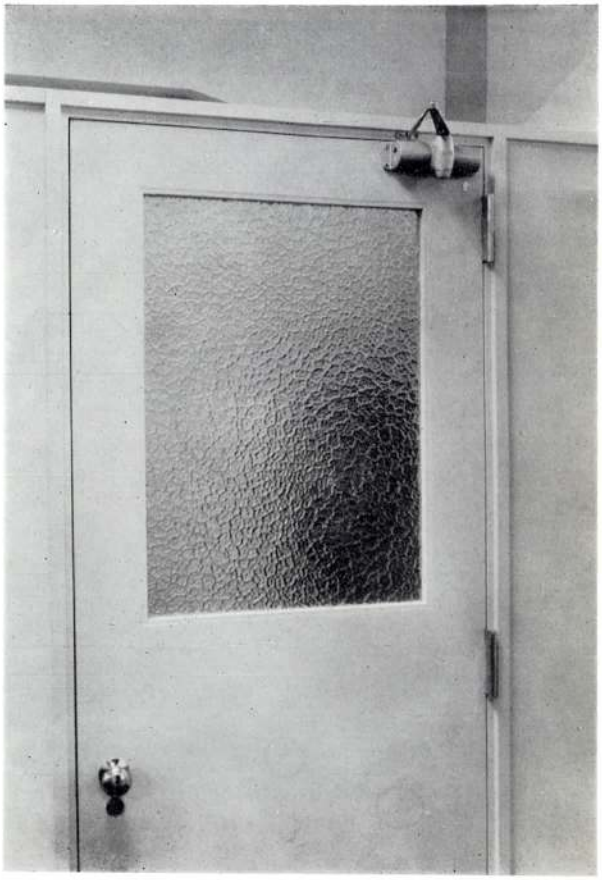
拓銀営業室吹抜天井灯



拓銀支店長室天井灯

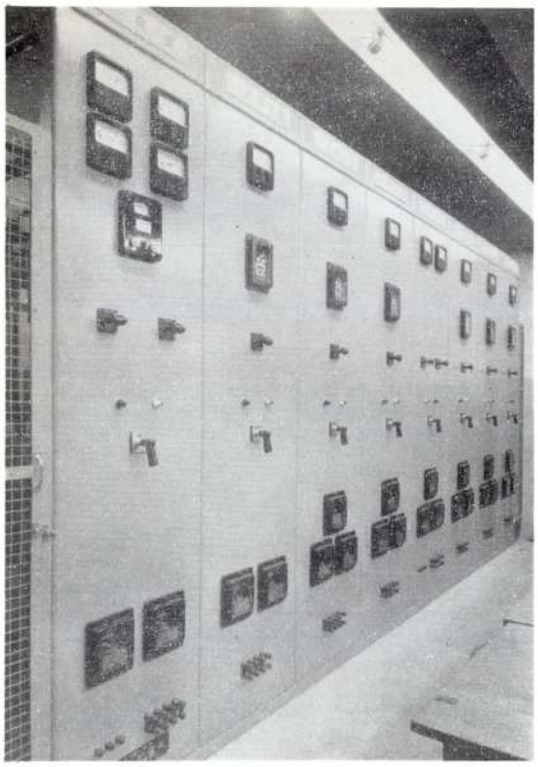
電　気　設　備　施　工

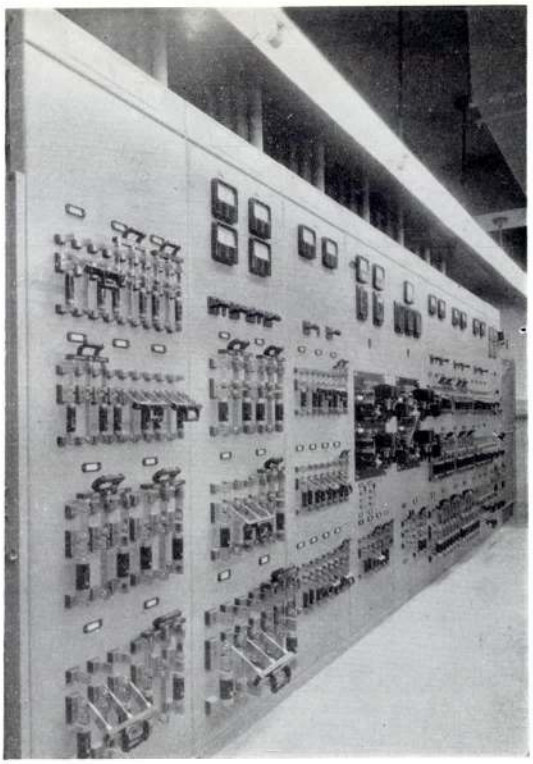
東　光　電　気　工　事　株　式　会　社　大　阪　支　社



ダイハツ製ドアーチェック

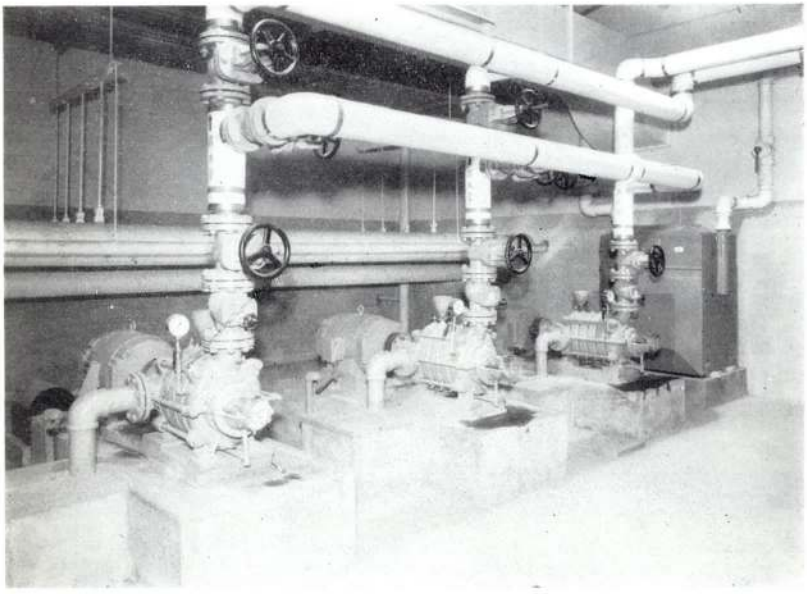
日　本　金　具　製　作　所





配　電　盤　　浅　海　電　気　株　式　会　社

揚水ポンプ室　　三　機　工　業　株　式　会　社



大　阪　神　鋼　ビ　ル

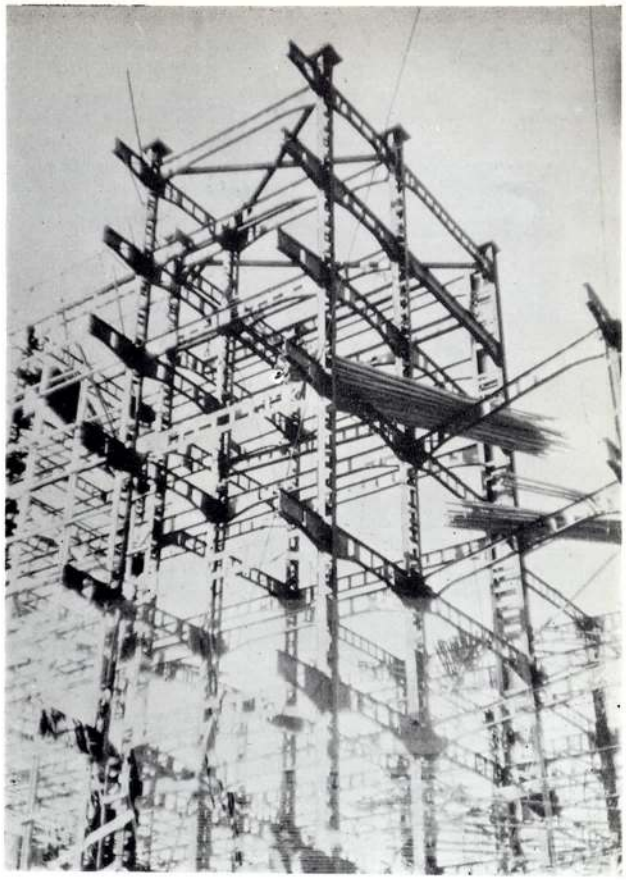
大　　井　　ビ　　ル

北　海　道　拓　殖　銀　行

大阪神鋼ビル

大井ビル

北海道拓殖銀行



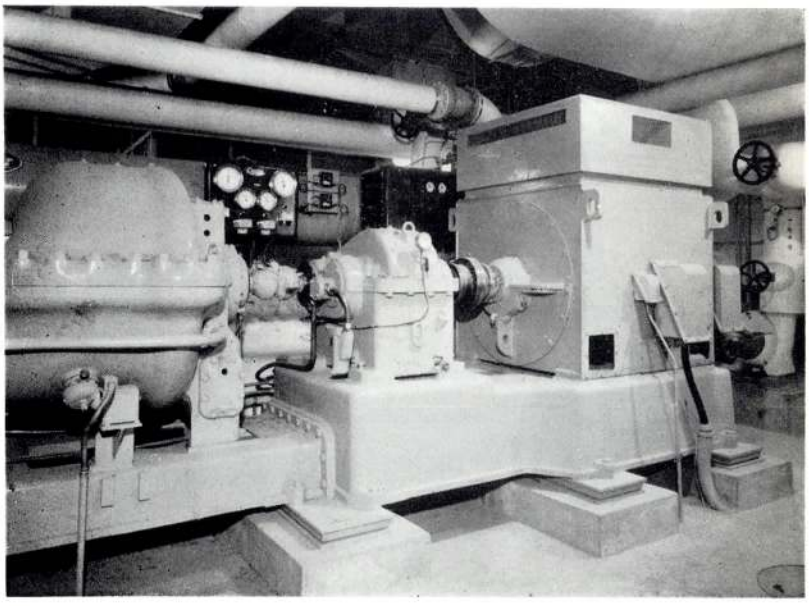
鉄骨工事

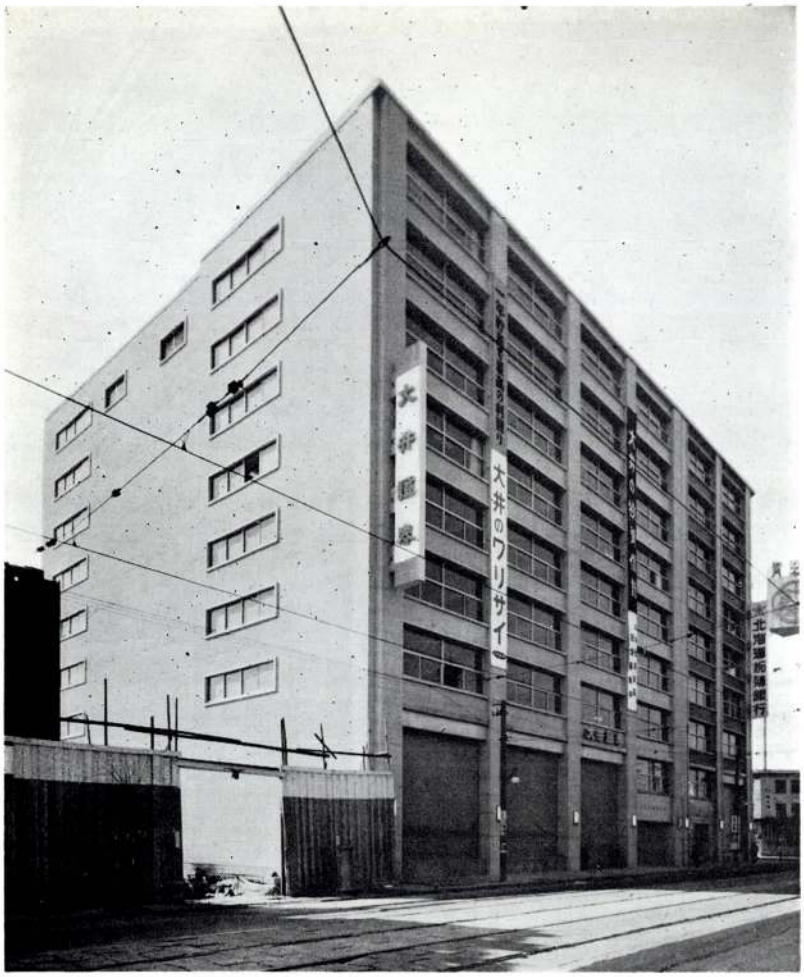
株式会社 片山鉄工所

空気調和設備工事

東洋キャリア工業株式会社

ターボ冷凍機





大阪神鋼ビル

大井ビル

北海道拓殖銀行

アルミニュームサッシ工事

大阪機工株式会社

タイル工事

株式会社 諏訪商会

建物クリーニングの店

住宅美素工事の創始者

◎ビルディングの洗浄工事
◎建物外塗サンドブラスト工事
◎建物外壁各種吹付工事
◎建物外壁シリコーン防水工事
◎月極め清掃工事
◎木造建築洗浄美素仕上工事

株式会社 **美素工業所**

大阪市東区瓦町二丁目(三和ビル)　電話㉓4938・5888・㊼8050

三星の床材

プラスタイル"P"

(Pタイル)

株式会社　木下謹三商店
大阪市西区江戸堀南通5ノ35
電話 ㊹ 5408・5486

株式会社　久保商店
大阪市北区真砂町5
電話 ㉞ 0207～8・4836～7

三友工業株式会社大阪営業所
大阪市西区南堀江大通1の19電話 ㊹ 6161～4

合名会社　利倉幸商店
大阪市南区長堀橋筋2ノ20(道頓堀電停前)
電話 ㉕ 0471～2・0371　㉗ 7604
京都営業所　京都市中京区河原町夷川下ル　電話 ㉓ 3277

和泉産業株式会社
大阪市南区日本橋筋2ノ36
電話 ㊸ 0137　㊹ 3286

石井建材有限会社
神戸市兵庫区荒田町1
電話 ⑤ 2697・2140

タテバヤシ商店
京都市下京区大宮通四条下ル電話 ㉞ 4468

岡田建材株式会社
名古屋市西区西菊井町2ノ12　電話㊸0121・2057

株式会社　名建商会
名古屋市中区宮出町41ノ2　電話㉔1329・2106・2817

日東物産株式会社
本社・名古屋中区東瓦町39　電話 ㉔ 6176～9
岐阜出張所・岐阜市竹屋町27　電話③2201・2360

青盛建材株式会社
本社・広島市鉄砲町108　電話 ② 2281～4
岡山・岡山市東田町3　電話②7911・8169
福岡・福岡市万行寺前町14　電話 ③ 1225～6

関西三星タイル会員

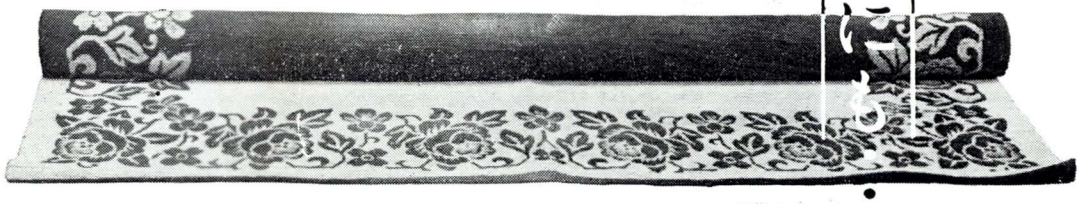
Toray
Reg. Trade Mark
東洋レーヨン株式会社

美しい
花園をお部屋にも・・・

丈夫で弾力性に富み、ホコリがたたないので大へん衛生的です。
お部屋の雰囲気にマッチしたカーペットをお選びいただくため、あらゆる色柄を豊富に準備いたしております。室内に豪華な感覚と新鮮で楽しい雰囲気を漂わす東レ・カーペットをぜひお試し下さい

東レ カーペット

二重織・銀鈴織・富士織・三重織・装美織
・額縁三重織・三美織などがございます
東レ・カーペットのほか、東レ・フラットーヨー使用
ファンシーラッグ(夏の敷物)も好評を頂いております



東レカーペット発売元—(株)辻田文平商店(大阪市住吉区南住吉町4の59)　ファンシーラッグ発売元—丸紅飯田(株)

ビニデラックスは当社の技術陣が久しく鋭意研究を続けて完成した新しい型の合成樹脂ラテックスペイントで，他のラテックスペイントに比べて，多くの優れた性能をもつ品質優秀なアクリル系合成ゴムを主成分とする塗料です。
ビニデラックスの用途は主にコンクリート・モルタル・プラスター面などの塗装に好適な塗料で，建築内外部用塗料として発売以来好評を博しております。

● ビニデラックスの特徴

■ 作業性が非常によい
ハケサバキが非常に軽く，乾燥も普通のエマルジョンペイントより速くて，作業能率がよろしい。

■ 耐久力がよく〝やけ〟がない
アクリル系合成ゴムを主成分とするため，他のラテックスペイントにみられる〝やけ〟がなく，耐久力に優れています。

■ 耐水性・耐水洗性がよい
乾燥塗膜は非常に強靱で撥水性があるため耐水性がよく，特に塗膜が汚れたときには石鹸水で洗うと，たやすくきれいになります。

■ 優雅な光沢ある仕上り
塗面はエマルジョンペイントに見られない優雅な光沢があります。

■ 付着力がよい
コテ仕上のよい平滑な塗面や，ハードプラスター，調合ペイント塗面にもよく付着し，シート状にはげることがありません。

■ 耐薬品性がよい
耐アリカリ性が強く，稀薄な酸にも耐え，又カビが生えません。

● 色見本付カタログご希望の方は当社宣伝課Z係までお申付け下さい。



建築内外部用塗料
ラテックスペイント
ビニデラックス

関西ペイント株式会社
大阪市東区伏見町5丁目

建築と社会

2

居留地建築特集

1961年・第42集・2月号・目次

作品作風

大阪神鋼ビル・大井ビル・北海道拓殖銀行……17

設計監理　三菱地所株式会社
施工　清水建設株式会社

建築の眼……20

担当：50音順・木田　幸夫・田代　正尚・山田　勝成・和田　晋弥

近代建築調査委員会報告14・居留地建築特集

居留地建築特集号によせて……滝沢　真弓…22

明治初期居留地……27

明治2～3年ごろの神戸居留地海岸通り……27
明治20年代の海岸通り……27
ウォールシュ・ホール商会……28
初代クラブ・コンコルディア……28
もとシーメンス・インスティテュート……29
江商神戸支店……29

明治中期居留地……30

神戸クラブ……30
二代クラブ・コンコルディア……30
デラカンプ商会……31
故高橋栄治氏の記録による神戸元居留地の一洋館……31

明治後期居留地……32

香港上海銀行神戸支店……32
ドイツ領事館……33
明治後期神戸もと居留地海岸通り附近……33

小松益喜画伯の描いた明治12年ごろの神戸居留地……34

バーナードの描ける神戸居留地風景……35

小松益喜画伯の描いた居留地洋館および山手洋館……36

山手に現存する木造洋館……38

もと神戸女子短期大学北野寮……38
エズラ・ジェー・シュエケ氏邸……40
もとイー・ストロヴィー氏邸……41
藤月荘……42
エフ・ブルム氏邸……44
小林秀雄氏邸……45
東天閣……46
神戸女子短期大学山本寮……48
エー・ロバートソン氏邸……49

川口居留地の沿革……林野　全孝…50

本文

神戸における洋館建築の特色とその変遷
——居留地を中心として——……坂本勝比古…55

欧米木造技法の伝統と神戸の木造洋館……桐敷真次郎…63

神戸の洋館と「外国造」……稲垣　栄三…72

居留地と神戸……島田　勝次…77

会員の声

デザインのこと——新年のジャーナルをみて……金沢　弘真…81

会報（12月分）……83

2

建築と社会

第42集

1961

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会
SMデザイングループ

売　価　1部150円・送料共
昭和36年2月20日印刷
昭和36年2月25日発行
編集人　松井昭光
発行所　社団法人　日本建築協会
大阪市東区北浜3丁目37
電話 大阪㊿ 9648・9649・9640番
振替口座 大阪39975番
発行人　沖田誠一
印刷所　株式会社研文社
大阪市北区堂山町66
電話㊿2091～3番
印刷者　網野栄



大阪神鋼ビル側よりみた外観

柱型：花崗石水磨きおよび小叩き仕上
外壁・窓框・窓台：花崗石本石水磨および花崗石人造石ブロック小叩き仕上
スパンドレル：四丁掛テラカッタイルおよび花崗石人造石ブロック小叩き仕上
側窓サッシ：気密式アルミサッシ

大阪神鋼ビル
大井ビル
北海道拓殖銀行

設計監理　三菱地所株式会社　　施工　清水建設株式会社



大井ビル1階客溜・営業室

床：ゴムタイル・ビニタイル貼
壁：国産大理石・堅木ベニヤ練付
一部ゾラコート吹付

大阪神鋼ビル
大井ビル
北海道拓殖銀行

設計監理　三菱地所株式会社
施　工　清水建設株式会社

建築位置	大阪市東区北浜3－3	
敷地面積		2,282 m²
建築面積		1,994 m²
延面積		22,366 m²
会社別床面積		
	大井ビル	8,621 m²
	中野合資会社	951 m²
	大阪神鋼ビル	12,793 m²
	北海道拓殖銀行	1,050 m₂
高さ	標準地盤より軒高	31.000 m
	標準地盤より塔屋	40.270 m
構造	地下2階，地上9階，塔屋3階	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	
工期	昭和34年5月～35年11月	

上：大阪神鋼ビル
1階エレベータホール

床　：花崗石・テラゾー現場研ぎ
壁　：外国産大理石貼
天井：プラスターボード下地塗冷
沙貼オイルペンキ叩き仕上



下：北海道拓殖銀行北浜支店
1階営業室

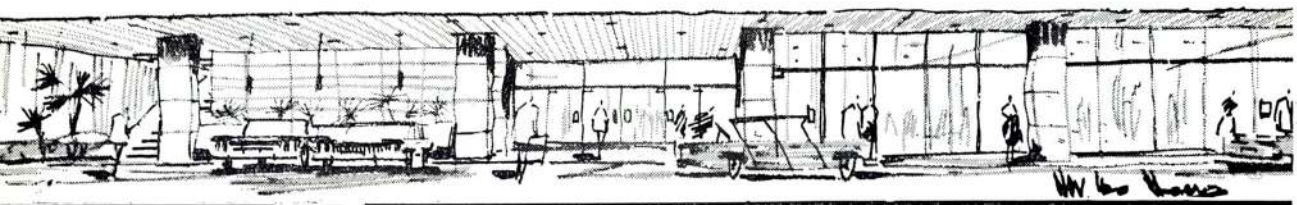


構造の多角設計

現在行なわれている構造設計は，垂直・水平両方向力に対する，応力算出については精細をきわめているが，その数字を追うことに及々とするあまり，応力を算出する根源である構造の仮定が，きわめてお粗末になっていはしないか。一体どのような構造を設計しようとするのか，また設計された建物が，どのような性状をもっているのか，構造設計者自身でも，はっきり摑めていないのが実情ではないのか，たとえば地盤の性質を調査して，この土地ではどの位の固有震動数のある建物が，地震の場合適当なのか，あるいは基礎方式はどれがよいのか，不同沈下の対策，またコンクリートの収縮応力や熱応力に対する方策，強制振動に対する梁やスラブの性状などである。応力解析にのみ振り向けられている労力をさいて，きわめて概括的なていどでもこれらの種々の項目を検討すべきではなかろうか。そのためには，現行の設計規準は，はるかに簡単なものにすべきであろう。(Ks)

ビート建築

建築ブームが騒がれてすでに久しくたったが，いっこうに下降の気配もみえない。ブームのおかげで，もうかった話はあまりきかないのも不思議なことだが，建築に従事するわれわれは，とにかくキリキリ舞いをさせられるばかりである。忙がしいということは，合理的な能率改善と同時に，粗製濫造をまぬがれることができない。とくに設計にじっくりかかる余裕がないことは，誰しも悩み果てないことである。最近，設計事務所には洋書の売込みが盛んだし，よく売れるという話も，もともと模倣好きもあるが，忙しさによる創造力の喪失ともいえよう。まことにお寒いことだ。若い人のなかにはジャズをきいてないと，図面がひけない癖のある人がいる。どうにもあのリズムでは，フワフワ軽くうすっぺらな，やりっぱなしの図面になることはあらそえない。そういうムードに懸命に抵抗しながらも，何となく流れにまきこまれそうでならない。(TM)



けんちくの眼

担当50音順：木田幸夫・田代正尚・山田勝成・和田晋弥

(次号は新執筆者を予定しております)

分析と綜合

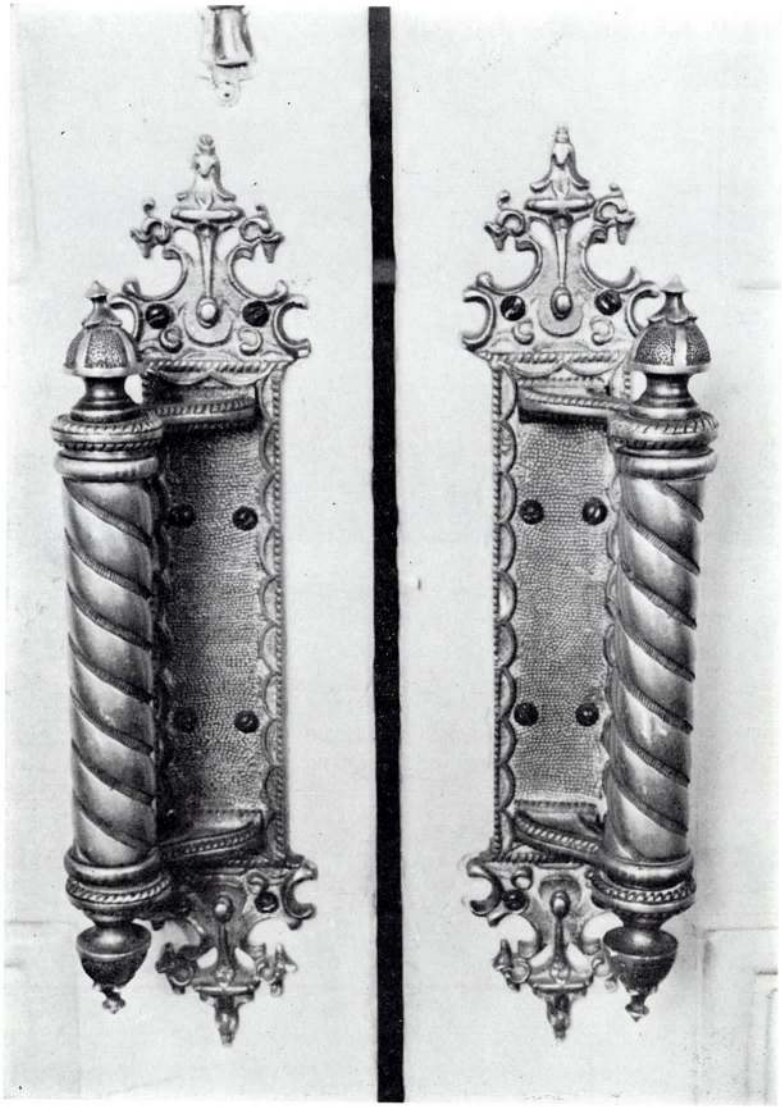
分析していくことには非常に熱心であり，たいへん上手に処理していくけれども，どうしたことか，それらの資料をもとにして綜合した「何もの」かを作り上げることには，これまた非常に不熱心であり，実にまづい国民だ。各専門化された，それ自身はひじょうに高度化されてきているから，それらの綜合的な思考を養う方向の教育が，大変おるすになってきているのではないだろうか。

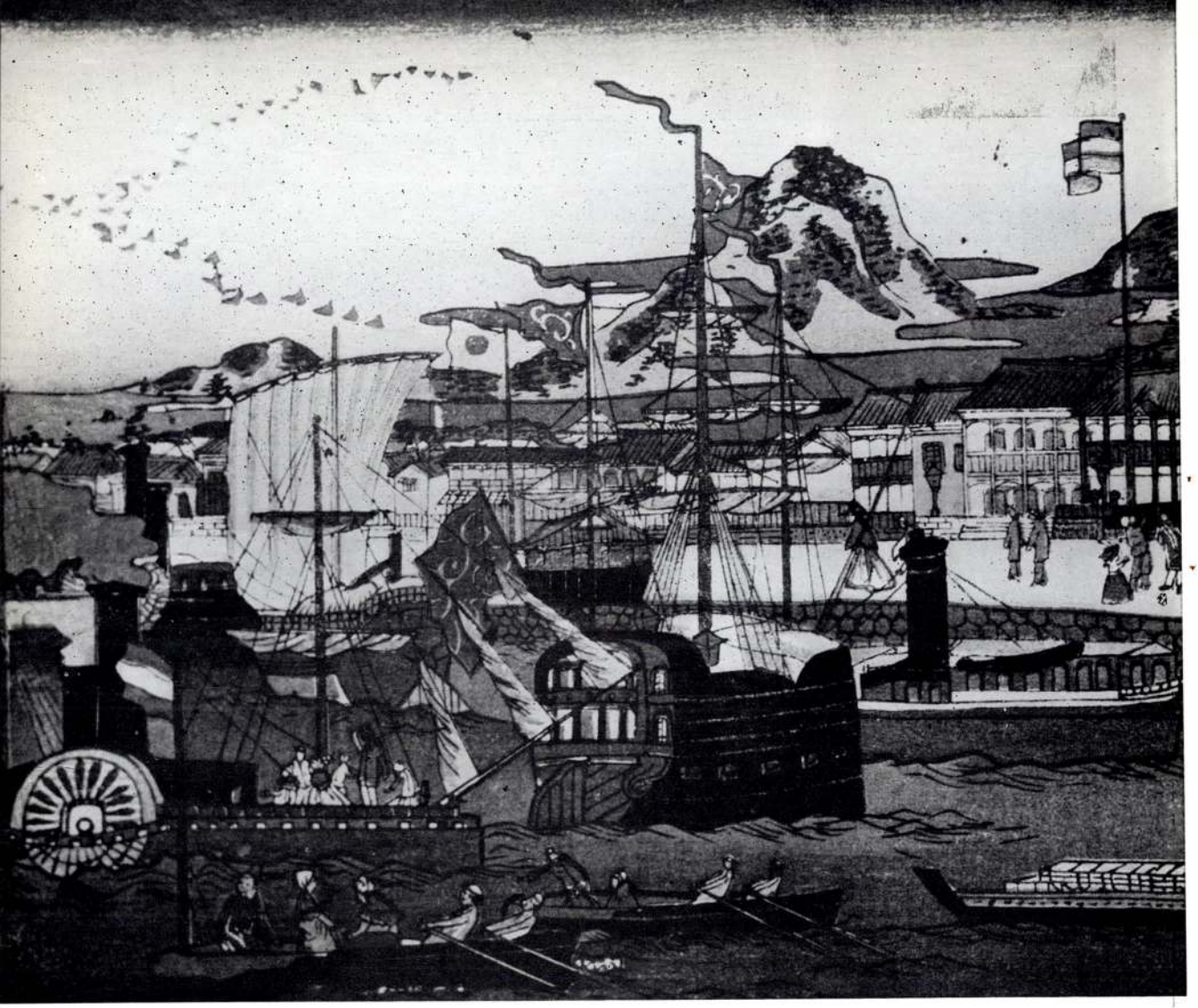
都市計画の未熟さをみても，そのような意味のことがわかるのではないだろうか。第一，都市計画の科が学校にないのではないか。官公庁の都市計画課も，これまたあまりにも「点」のことのみに心をくばりすぎて，綜合的な塊・線をみないのではないだろうか。建築は都市計画を考慮に入れないではもう不可能なときにきているし，都市計画的な考え方で建築計画をしていかなければ，それはもう建築ではなくなってしまうだろう。あまりにも分析ばかりしていないで高度なところからよくみつめましょう。(YK)

陽の当らぬ場所

毎日の通勤の途上で，高架を走る車窓から下の街並を眺めることが私にとって楽しみのひとつだ。同じ眺めでありながら，永い間に様々に変化していく建物の様相をみていると，そこに人間の生活が感ぜられて面白い。しかしその一画にあまり変化のない一ブロック，それも一番きたならしい所のあるのに気づいた。いわゆるトントン葺きで，夜鳴きそばの屋台やバタ屋の車のならんでいるスラムだ。そこだけは表の街並が美しく立派になっていくのに反比例して，だんだん薄汚なく，しかし十年このかた建ち続けているのだ。空前の好況で迎えた今年は，建築界も都市計画を中心に輝かしい将来への希望で湧き立っている。しかしわれわれ建築に従事する者は何かそのなかに空虚な不安を感じないだろうか。ファサードだけ立派な建築をみているのと同じように。一流国なみの大計画も結構だが，何んとかして陽の当らぬ場所にこそ充分な設計図を画かねば，大衆の生活は毎日脅かされ続け，その生命力を失っていくばかりだろう。(WS)

居留地建築特集





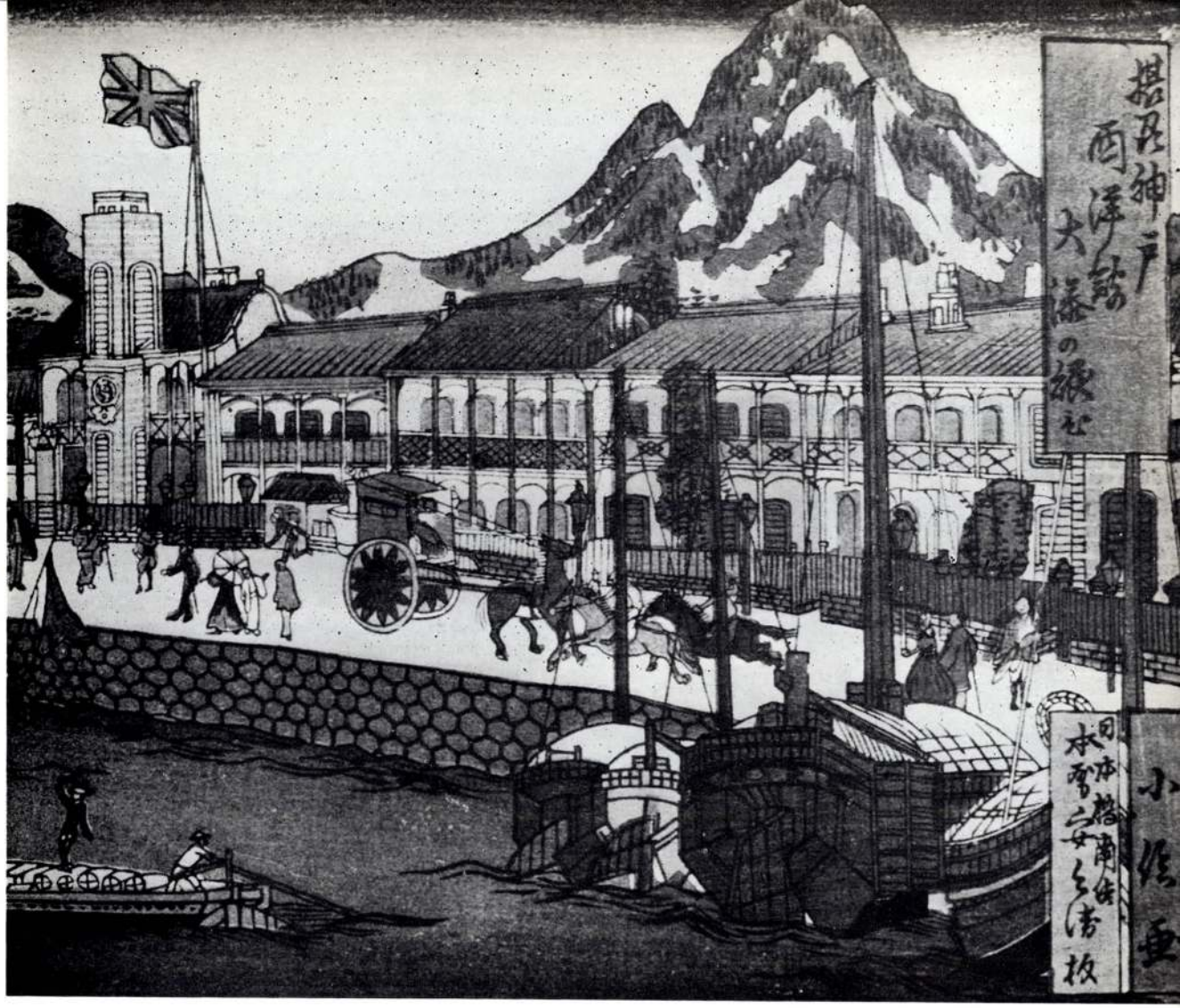
居留地建築特集号によせて

近代建築調査委員会・委員長

滝　沢　真　弓

ここに本委員会の名において，明治初期洋風建築の調査報告の一環として，大阪・神戸「居留地建築」の特集をおくる。

顧みれば，本委員会の発足は事実上は一昨年の夏であった。がその調査報告をはじめて本誌に公表したのは昨年の正月号であった。従って本委員会の表向きの仕事は僅かに略一か年のことであった。が，この一年は明治建築に関してまことに実り多い年であった。東京においては「明治建築研究会」が結成され，日本建築学会大会に重要課題を提供すると共に，全国にわたっての「現存する明治洋風建築」なる冊子を発行頒布した（その序文に近藤豊，林野全孝両君の資料が重視されているが，このことは延いては本委員会の存在を裏書するものである）。またこれと前後して関野克，太田博太郎，渡辺保忠，稲垣栄三，村松貞次郎の五氏連名発起によって在東京「旧

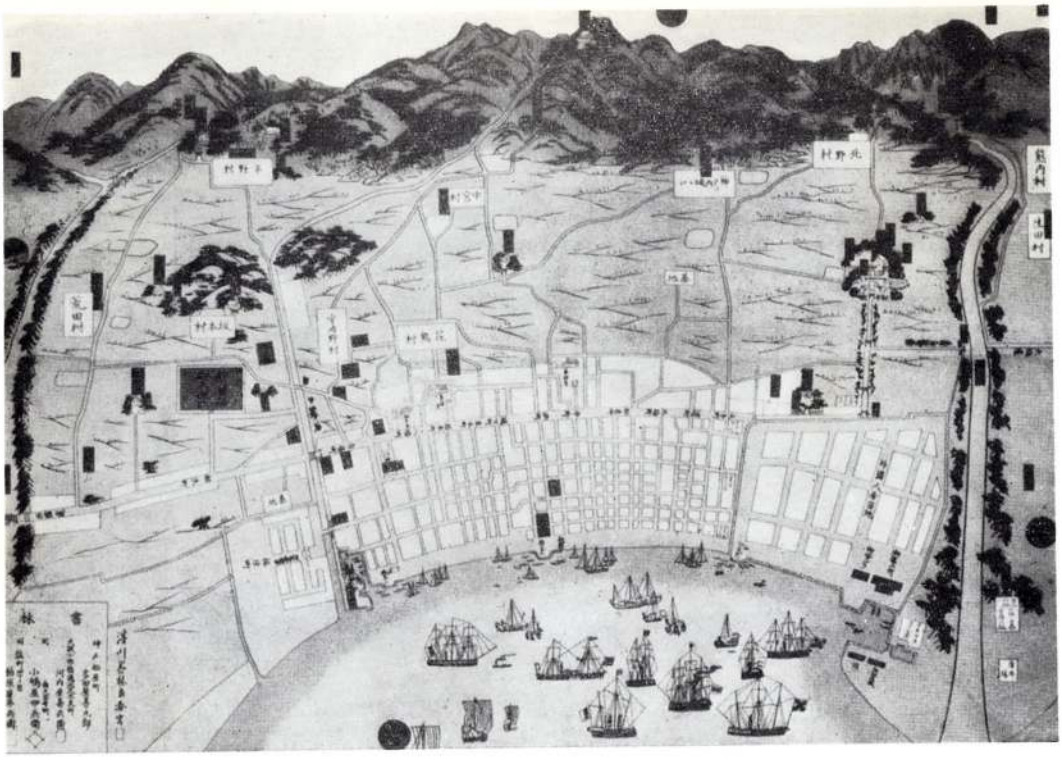


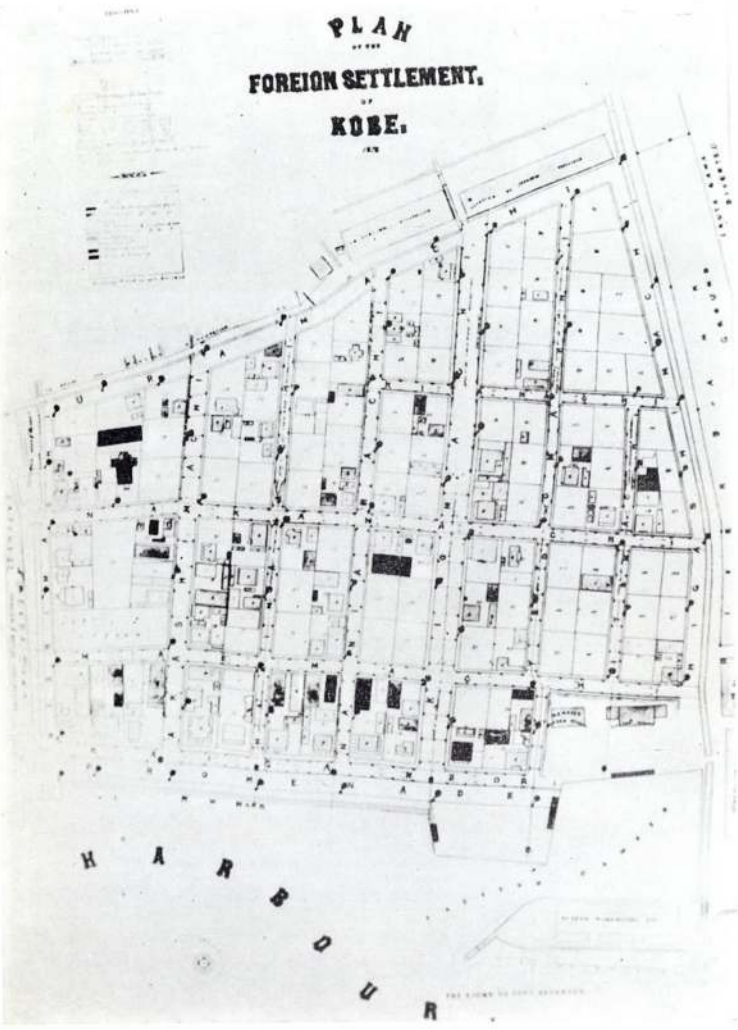
明治初年の神戸海岸通（原図の題名「摂州神戸西洋館・大湊の賑ひ」小信画）

・岩崎邸」の保存要望書が起草され，ひろく諸方面有志の賛同を得て，関係当局に提出された。一方，神戸市においては本委員会の坂本委員の提唱による「異人館」保存の問題が具体化への一歩をふみ出すと共に，太田博太郎氏の「明治の建築を残そう」という論文が「神戸新聞」の文化面の冒頭を飾るに至った。最も重要事項だったのは，年もようやくおしつまった十二月中旬のことであったが，明治建築三件が重要文化財に指定されたことである。その第一は松本市の「開智小学校本館」，第二は奈良県の「宝山寺獅子閣」，第三は上記「旧・岩崎邸」である。しかもその第一・第二は，いずれもその調査報告をはじめて学界に提供したのは本委員会の委員である（前者は滝沢，後者は近藤）。かかる機運の時にこの特集を企てたことは自らまたその機を得たものというべきであろう。

本誌録するところは主として大阪・川口の居留地と神戸・居留地および山手の建築に関する報告である。川口居留地の建築関係資料はつとに湮滅しほとんど求めるに由ない有様である。本誌の所録は，思うに現在において求め得る最大限度であろう。神戸の資料は比較的恵まれており，特に一昨年「神戸市制七十周年記念」の展覧会に市当局の聚集によって総動員された観がある。本誌はむしろ若干の切捨てを要請したほどだが，埋もれた資料が何時何所に発見されるかは予断を許さない。ただ現在において建て得る一道標とするのみである。

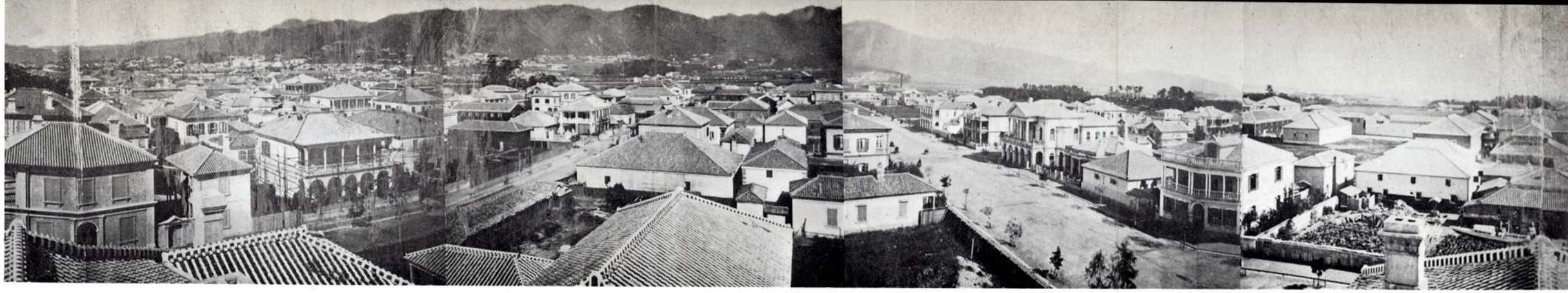
事ここに至るまでには全国にわたって諸方面有志から並々ならぬ援助をいただいた。また本協会編集委員会は昨年度今年度を通じて深き理解を示され，この一号を本委員会のために割愛された。ここに併せて感謝の意を表する次第である。



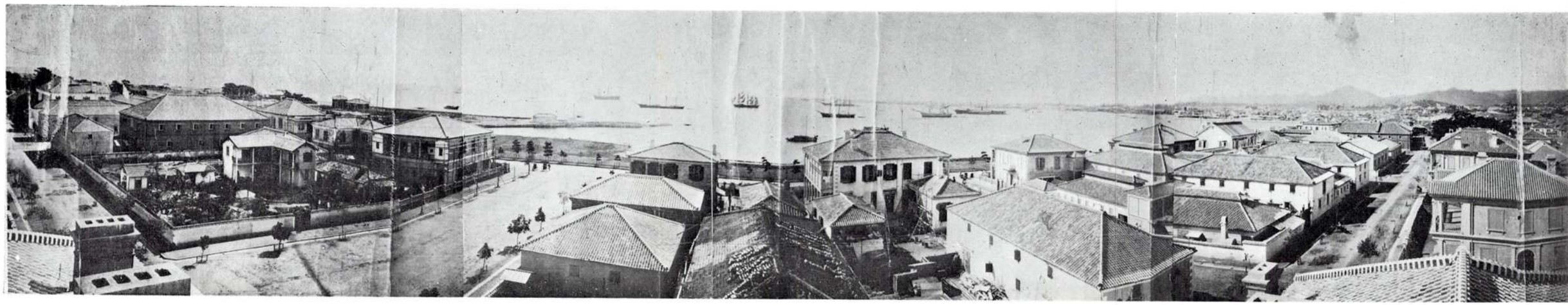


上：開港当時の神戸の絵画
——神戸市史より——
山手の北野村（今の北野町）と外国人居留地との関係が分かる。

左：英人技師 J.W.Hart の実測になる神戸居留地（明治5年作成）
——神戸市史より——



京町筋
遠くの木立は旧生田川堤
マーソニック・ホール
元オリエンタルホテル
元クラブ・コンコルディア
煙りを吐く煙突は
コーベ・ペーパー・ミール
生田の森（生田神社）
三宮神社
（神戸事件発生の地）
現江商神戸支店



現江商神戸支店
元独逸領事館
遠くに兵庫の町をみる
元英国領事館
京町筋
元税関

明治12年頃の神戸居留地

整然とした町並みは明るい陽ざしを浴びて，沖の帆船が遠い時代を思わせている。

これは，もと13番館の屋根より居留地を一巡して撮ったまことに貴重な写真で，神戸女学院のご好意によった。

われわれはこの姿から，明治の初期，洋風建築の移植がいかなるかたちで行なわれていたかを伺うことができる。

（神戸女学院図書館所蔵）



神戸市街航空写真（旧居留地と山手外人住宅地をみる）

——神戸市建設局計画課提供——

明治初期居留地

この写真は現神戸税関の，西側よりみた明治初期海岸通りの珍らしい写真である。

中央の二階建洋館は海岸通り12番のクニッフラー商会(独 L, Kniffler & Co. 後イリス商会 C, Illies & Co. 独となる）で，それより左へ10番グッチョウ商会(独 Gutschow & Co.)，さらに，その隣は9番で永く英国領事館として知られていた建物である。

英国領事館は現在も，この9番に建つチャータード銀行の二階にある。

神戸市史に「明治元年末ドイツ人商館4戸，続いてイギリス商館まずなり……」とあるが，そのドイツ人商館とは上記の建物などをさすものであろう。



（神戸商工会議所六十周年記念絵はがきより）

上：明治2～3年ごろの神戸居留地海岸通り

下：明治20年代の海岸通り

（同　上）



居留地海岸通り西から東へむいて撮られている。

左から1番，ストラン商会（W. M. Strachan & Co., Ltd. 明治3年までに建築）

2番，香港上海銀行（当初ウォルシュホール商会）

3番，スミスベーカー商会（Smith Baker & Co.）

5番,独逸領事館(GermanConsulate)と続く。



H.S.Williams 氏所蔵

ウォルシュ・ホール商会

(The Walsh Hall & Co.)

のちに香港上海銀行神戸支店（2代目）となる。

海岸通り2番に建ち，一般的には香港上海銀行として知られていた。明治4～5年ごろの建築で，ネオ・クラシズムの様式や，均斉のとれたデザインは，初期居留地建築の代表的存在であった。1階はアーケイドロッジア，2階にコロネードのヴェランダをもち，ヴェランダ屋根は大屋根より切離してパラペットが廻らされていた。

コリント式の柱頭は，現江商神戸支店のものより優れており，ヴェランダのバラスター（手摺子）も太くて力強い。

写真前面の鉄柵は後補のもので，その門柱の下に〝明治十八年兵庫造船局製造〟の銘がみられ，初期洋風建築を示す貴重な写真である。

この建物は明治33年ごろ解体され，そのあとにA・N・ハンセルによって三代目の香港上海銀行ができた。



KOBE-The Premier Port of Japan 所載

初代クラブ・コンコルディア

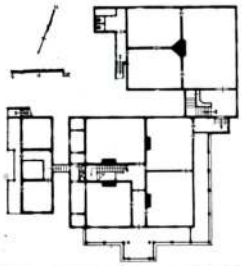
居留地79番

この建物は明治2～3年の間に，居留地京町筋79番に建てられた。最初オリエンタル・ホテルとして使用され，のちにインター・ナショナルクラブが使い，明治12年クラブ・コンコルディアに買いとられたといわれている。

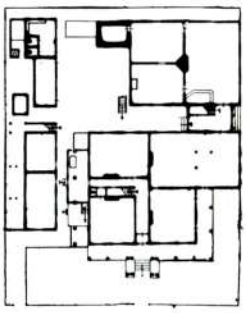
しかし明治29年（1896）3月3日朝火災によって失われた。このスタイルは，居留地の初期洋館として標準的なタイプであり他にも数棟あって，オランダ人建築家W・C・ボンガーの設計になるものと推定される。

もと シーメンス・インスティテュート

居留地 109 番　戦災焼失



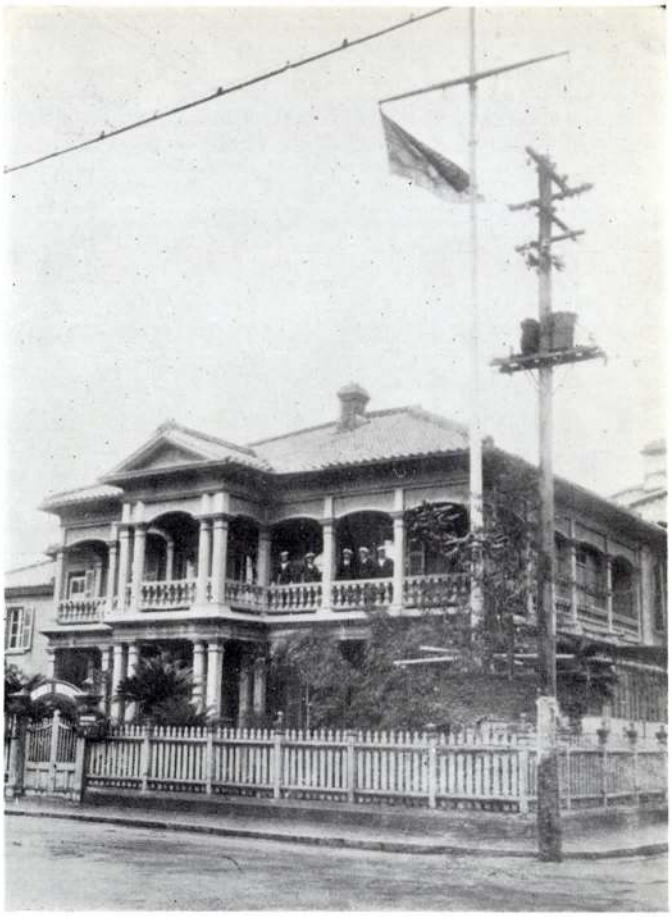
2 階



1 階

明治 3 ～ 5 年の間に建築せられた建物である。ヴェランダは吹放しで，戦災によって焼失するまで，建築当初の面影をよく残していた。

平面は箱型プランで，附属家と渡廊下で連結され江商などとよく似た間取りをもっている。建築当初の名称は不詳である。



（毎日新聞社提供）

江　商　神　戸　支　店

居留地 15 番

ヴェランダは現在室内にとり入れられているが，建築当時はコリント式丸柱をもった吹きはなしのものであった。



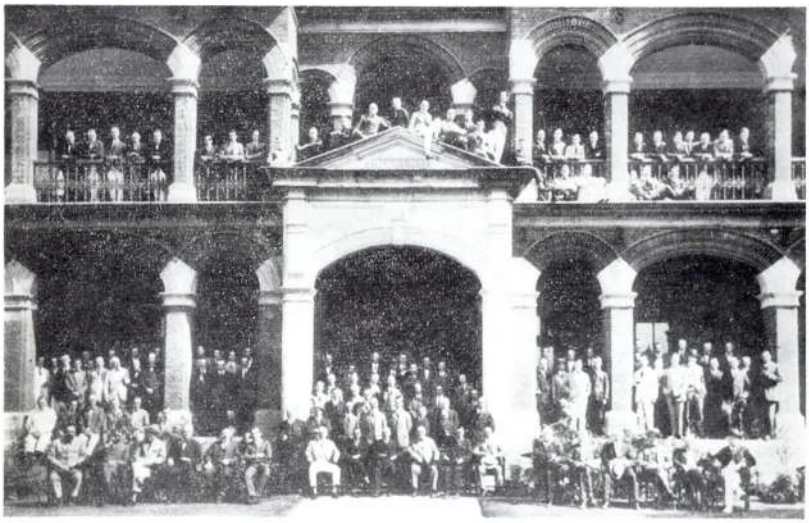
玄関のアーチ型出入口。外壁は塗りかえられている



明治中期居留地



神戸クラブのファサード（神戸市美術館蔵）



神戸クラブのヴェランダ （H.S. Williams 氏所蔵）

神　戸　ク　ラ　ブ
The Kobe Club

明治初年設定された神戸居留地の東に，レクリェーション・グラウンドがあり，それはいまでも東遊園地として市民に親しまれているが，その南にこの建物があった。

ファーサードは，ヴェランダを重層にもち，全体に装飾をできるだけ控え目にして，煉瓦と石の美しさを表現している。

様式的には，19世紀中葉イギリス本国における新しい住宅運動としてのスタイルにアーケィド・ロッジアを附加したものとみられるが，ヴェランダのチュードル式アーチにもあらわれているとおり，施工精度がひじょうに高い。

神戸クラブは，英人建築家A．N．ハンセルが来日して，間もなく手がけた作品といわれ，請負人草場卯三郎の施工で明治23年に竣工したが，明治初期のウォルシュ・ホール商会とならんで，明治中期における洋館建築を代表する地位にあった。

昭和20年6月5日，戦火のため失なわれた。

しかし，ちょうどその跡に，ミノル・ヤマザキの手によって〝神戸アメリカ総領事館〟が建てられ，昭和31年度建築学会作品賞を受けている。

二　代　ク　ラ　ブ　・　コ　ン　コ　ル　デ　ィ　ア

さきの初代建物の火災によって新たに居留地116番と126番にまたがって建てられたものである。

ドイツ系のクラブでその前身は明治初年レクリェーション・グランド（今の東遊園地）の南側にあった Union Club であり，その歴史は古い。

明治29年12月に再建なり使用された。この建物は Kobe Club やドイツ領事館につながる，一連のハンセルスタイルである。

建物のデザインで特に傑出したものはないが，2階のヴェランダを支える錆鉄製の柱は，当時としては新しいあつかいであった。戦時中〝貿易会館〟としても使用されていたが，焼失してしまった。



デラカンプ商会

Delacamp & Co.

ドイツ系商社でもと居留地121番，122番にあった。赤煉瓦造，オランダ風バロックのスタイルである。このようなダッチ・ゲーブルをもった建物の原型は，オランダや北ドイツなどに四層五層のものが，軒を連らねているのがみられる。これらはルネサンスの影響下に，16，17世紀頃独得の装飾破風として発達したものだが，そのような様式の復活が19世紀後期において神戸の居留地にも現われたわけである。

設計者はA．N．ハンセル，施工者は高津柳太郎といわれ，明治28年にそれまで建っていた古い木造洋館をとり除いて建てられた。

写真右端に〝神戸クラブ〟がわずかにみえている。この建物は戦前アメリカ領事館が一時使用していたことがあるが，昭和20年6月5日空襲によって焼失した。しかし今回毎日新聞社の好意で鮮明な写真を入手することができた。



（毎日新聞社提供）



神戸元居留地の
一洋館（岡崎ビル）



故高橋栄治氏の記録による

神戸居留地の一洋館

この写真と文は，〝本誌〟15輯8号（昭和7年8月号）の抜萃である。写真の建物は破壊寸前にあって高橋氏らがその失なわれるのを惜しんで，記録として撮られたものだが，この数枚の写真が今日では貴重な資料となっている。窓台下の年号に1895年とあり（明治28年），別記〝デラカンプ商会〟とともに，ハンセルの一連の作品と推定される。



南面ファーサード

香港上海銀行神戸支店　The Hongkong and Shanghai Banking Corporation

（昭和20年6月5日戦災焼失）

さきのウォルシュ・ホール商会の建物の撤去後，同じ居留地海岸通り2番の位置に，香港上海銀行（三代目）として建てられた。

煉瓦および石造の本格的な建築で，香港やシンガポールなどにみられるようないかにも明るい南方植民地風のスタイルであった。

建坪285坪，附属家78坪，工期は明治33年7月より同35年12月まで2年半を要し，石材に徳山石，木材のうち主なものは日向松，米松およびチークで，床梁は階下，階上ともに鋼製であったといわれる。小屋組は洋小屋，屋根は天然スレート葺である。

設計者はA. N. ハンセル，建築請負人は小池岩吉，大工棟梁は山本清吉であった。

ドイツ領事館

The German Consulate



（毎日新聞社提供）

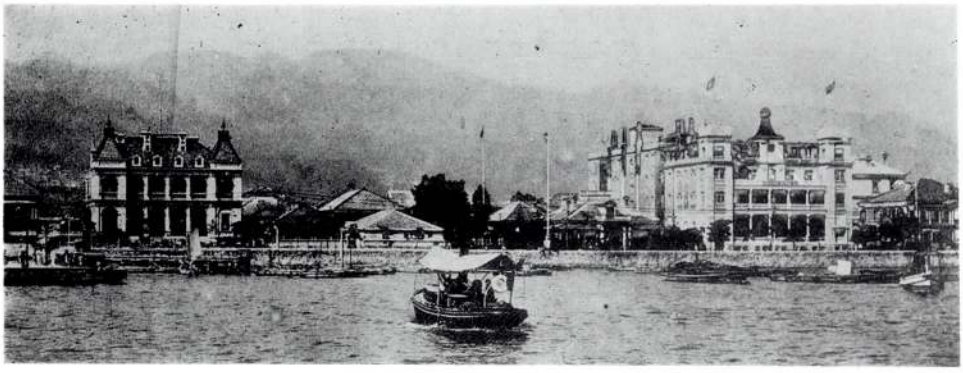
これは居留地東町115番にあった赤煉瓦造の重厚な建物で，二層のルント・ボーゲンシュテール（円形アーチ式）と白色のキャピタル上部が，印象的である。

ドイツ領事館は，開港当初，海岸通り5番に建てられたが，明治34年，この場所に移転した。初期の5番の建物も塔屋を有していたが，この建物にも塔屋があり，19世紀中期のフランス風腰高屋根の影響が感じられる。

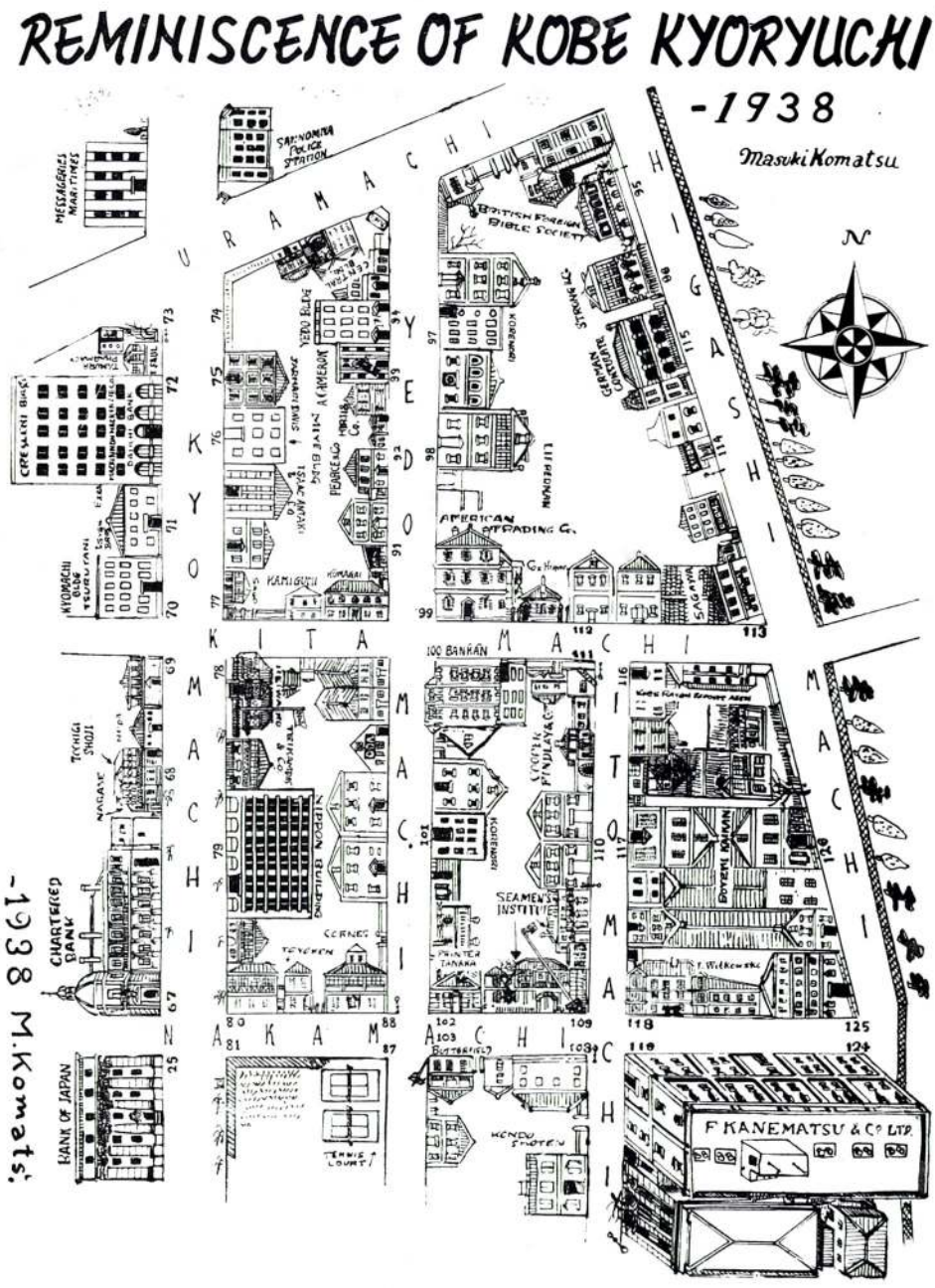
設計者は，A．N．ハンセル，請負人は高津柳太郎であり，建築費36,360円を要したといわれる。昭和20年6月5日戦火により焼失した。

明治後期神戸もと居留地海岸通り附近

左側が香港上海銀行で右側のオリエンタルホテルと併立している。



小松益喜画伯の描かれた昭和十二年ごろの神戸旧居留地



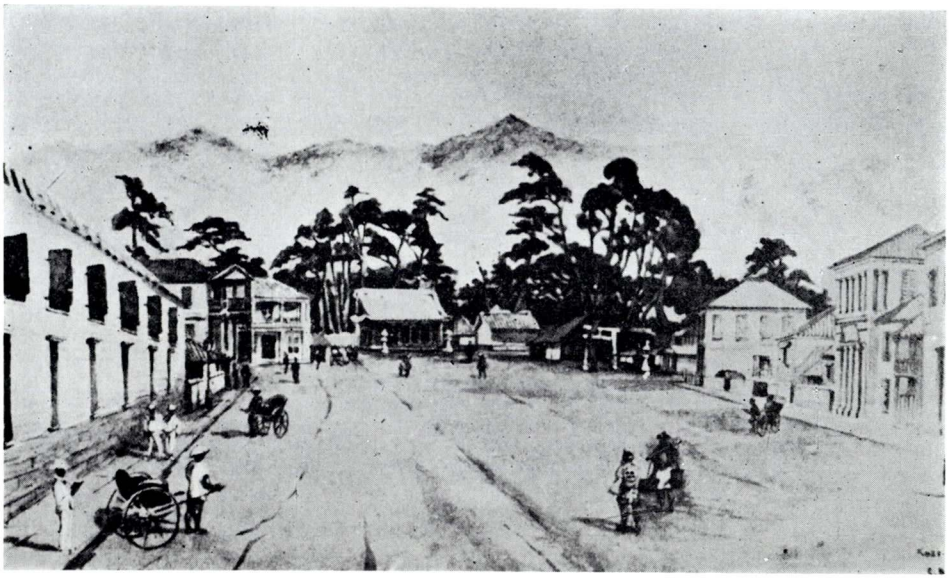
小松益喜氏は現在新制作派の会員として活躍しておられるが建物を描かしては，そのリアリステックな表現のなかに，詩情をたたえて，ふしぎな魅力を感じさせるものがある。

小松氏は昭和のはじめ神戸を訪れて，エキゾチックな町の風情に心をひかれて住みついたといわれるだけに，神戸の洋館を愛し，情熱をそそいで，こんにちまで描きつづけてこられた。いま，小松益喜の画稿のなかには，みようにもみられない幾多の失われた洋館のありし日の姿が秘められている。

この絵地図はそのひとつで，戦前の居留地の町並をほうふつさせる貴重な記録である。

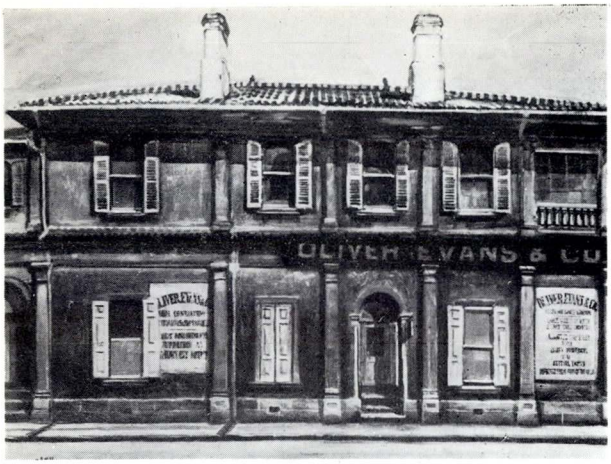


鯉川筋より（現元町東入口附近）メリケン波止場方面をみる。中央右〝兵庫ホテル〟，左の樹木は，PUBLIC GERDEN. 弁髪の中国人，人力車，駕籠など，当時の風俗がうかがわれる。



三宮神社附近。道路は著るしく広く描かれているが，前方の鳥居が三宮神社，その右が現三菱銀行神戸支店，左が現神戸大丸の場所である。

バーナードの描ける神戸居留地風景



オリバーエバニス商会（明石町角）

ここの親父さんは，じつに生命力強い親父さんで，戦争後中風になって，ぶらぶらしていたが，現在再起して活発に仕事をしていられるときいた。食料品のデパートとでもいえる店でソーダ水，缶詰，シロップなどが商品台の上にいっぱいもられて売られていた。この親父さんは人格者だったのか，戦後も昔の日本人の番頭さんが小品をかいてくれといってきたこともあった。この店は最後まで入口は小さく向って右端の柱が明石町の町角になっていた。この左端の一段ひくなったところがアマさんの住いだったらしい。明石町の通りにやはり小さな入口がついた家だった。これも明らかにコロニアルハウスの形をそなえていた。下は店，2階は倉庫と住居・お客さんの入口と別に出入口を持つという条件をそなえていた。（戦災焼失）



英三番館の思い出

タムソンという元の主人が死んで，二代目はグリフィスという親父さんだった。面白い親父さんで，私が家をかいていると，ツカツカとでてきて，襟に手をかけて「君君，家を描くならこの絵を参考にしたまえ」といってだしたのが，僕の絵葉書英三番館第七作だった。私はだまって「いい絵ですね」といっておこうと思っていたら，親父さん，「これはね東京に大家にかかせていま僕の家にあるんだよ」という，これがぐっときて，僕の押えた腹の虫をおこらせてしまった。「それは私の絵で，昨日まで京都の奉賛展に陳べてあったですよ……」で親父さんギャフン！　爾来鎧戸をあけろといえばあけ，カーテンをおろして下さいといえば，すぐやってくれた。この家はとなりの楕円形のかかれた看板の下からと，正面壁看板のなかの出入口と右よことに出入口があり，昔は鎧窓のところが住居だったわけである。



リプトン・アンド・カンパニー

浪花町で，現在の神港ビルの北東角にあった。私はよくつばを吐く癖があって，ここを写生にでる日も，家内につばを吐きなさんなよといわれてでかけた。一生懸命写生していたら，英国人が寝椅子をだしてきて，英字新聞をよみながら，起きあがっては，ペッとつばを吐いては，また新聞を読みつづける。あれ！　とみているとまたペッと唾を吐く，これじゃ僕よりよっぽどひどい，あれまあというわけ。これも2階は住いで，下は事務所，入口は正面のが一般人の出入口，右はすぐ仲町で尼さんや家族の者が，仲町の通りから出入りしていた。実にがっちりとした建物で，バルコニーの持送りなども典形的な異国風のもので正面には，三本みぞがほってあり，よこも線がほりこまれていた。入口のアーチ形の欄間には，色がらすがはめてあった。2階ペヂメントの下に小窓が二つづつあるのも特徴だった。（神港ビル建設のため取毀し）

（文：小松益喜）

小松益喜画伯の画いた居留地の洋館・・・・・・・・・

北　野　小　径



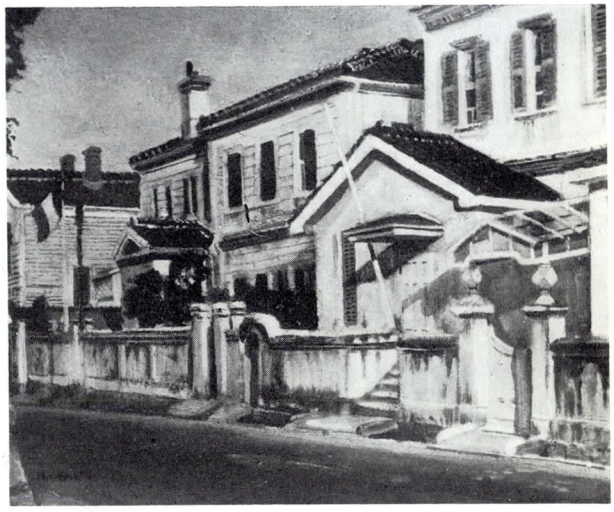
左白柵の家は最近居住者が変った。右側はベア氏家，印度人の家，かつて，香港上海銀行の支店長の家だった頃の話だが……この三本煙突の家は，数々うらみがのっている家だ。家をかいてくれとたのまれ，経歴をみせてくれと作品スクラップブックをもってみせ，OKときまって，庭内の写生をはじめた，大きな犬がおって，ワンワンとほえるし，あまり気もすすまなかったが，運転手，あまさんを通して三回も交渉にきたのに主人が帰ると，主人の反対に会い2千円でキャセルされ，スクラップを忘れてくるなどいい印象でない。それにひきかえ，ベアさんご夫妻は，実に親切で，夏はむぎ茶をのみにいらっしゃい，喉がかわいたらお湯をわかしてありますからと，とても親切でやさしいご夫妻だった。可愛いらしいお嬢さんも立派に成長されたよき家庭だ，道の突当りの左は，名木アラウカリアとアラウカーナの二本松で私の発見した木だ。

山　本　通　り　風　景　（一）



その頃はとても静かな住宅地だった。左側の柊竹桃のへいはカトリック教会のへいだ。日曜に画をかいていると朝祈りと讃美歌がきこえてくる。この教会は友人のお父さん，出崎長三郎氏がたてた建物で，ステンドグラスがとてもきれいだった。一度小磯氏につれられて朝のミサに行ったことがあったが，ステンドグラスが朝の光りを透して，白い布をかむっていた婦人達の頭上にとても美しく映え紫を中心に赤青緑黄と五色の色が投げられて，とても荘厳だった。とても素晴しい，ステンドグラスだ。なる程ステンドグラスがこんな意義があるのかとしみじみ感じた。それも，戦争ですっかりふきとばされ再現されたとはいえ，ステンドグラスは安物になった。建設設計者の出崎組の長三郎氏も永眠されたときいた。

山　本　通　り　風　景　（二）



北野町との町境い，このぐらい終戦後，持主のかわった建物はない。手前の家は三度もかわり，次のフランス領事館は二度かわった。いまは毎日フランスのトリコロールの旗がひらめいている，一番おくが神戸異人館建設功労者の一人ハンセル氏の居宅だった家だ。戦前はスイス人でいやに気取った親父さんが住んでいた家だった。そのスイス人が帰国するとまもなくアメリカ人が入って，家の一部を改装し，私は哀しくなり，この家はみるたびに残念である。

なぐさめといえば，フランス領事館の旗が週日には9時からあがり，祭日は，さらにひとまわり大きなトリコロールの旗のあがることだ。その家の前には良い神戸ッ子がいて，いつも親切に，絵を預かってくれることだった。

（文：小松益喜）

・・・・・・・・・・・・・小松益喜画伯の画いた山手洋館

山手に現存する木造洋館

もと神戸女子短期大学　北野寮

所　在：神戸市生田区北野町２丁目77番
木造２階建，寄棟，日本瓦葺，和小屋組
基礎・石造，外壁・下見板張りオイルペンキ塗り
建坪　１階 47.50坪
２階 50.00坪
他に附属家あり（二棟）
建築年代：明治35年５月21日新築
建 築 主：ケー・ハッサム
設 計 者：エー・エヌ・ハンセル



南面するヴェランダ，当初窓建具はなく，吹放しであった。１階ヴェランダのアーチ型のフラットピースの中央に，ペンダントがついている。現存する洋館のなかで，もっとも印象深い建物のひとつである。（1957年４月写）

〝異人館〟そう呼ぶにふさわしいような外観と荒廃を感じさせる建物である。所有者が取毀しを計り，古材木商に売却する予定のものを，関係者の努力によって神戸市がその価値を認め，譲り受けて，解体―移築―復原―保存されようとしている。

所有主の回教寺院は神戸市の希望を諒解し，その保存のため無償譲渡を申し出た。

南面して凸形のヴェランダをもち，平面はやや不整形である。

この建物の特色は主として外部のデザインにあり，とくにその焦点はヴェランダ廻りにある。

１階ヴェランダはアーチ状の飾り欄間をもっておりその頂部にペンダントをつけている。１階のヴェランダ建具は調査の結果後補のものであることが確認されたが，この欄間部分については不詳である。柱は凸出部で円柱，そのほかは角柱であり，それぞれフルーテングをつけている。

神戸の洋館においてヴェランダは原則としてオープンであったのが，後に建具を入れるようになってきている。この場合もヴェランダがオープンであったときは，居間への出入口にみられるペヂメントやデンテルをもった飾り額縁の意匠がさらに一段と引立てられていたと思われる。



東北角をみる。複雑な屋根伏に二本の煙突が目立っている。



ヴェランダと階内との出入口上部にあるペディメントとデンテルの飾り。

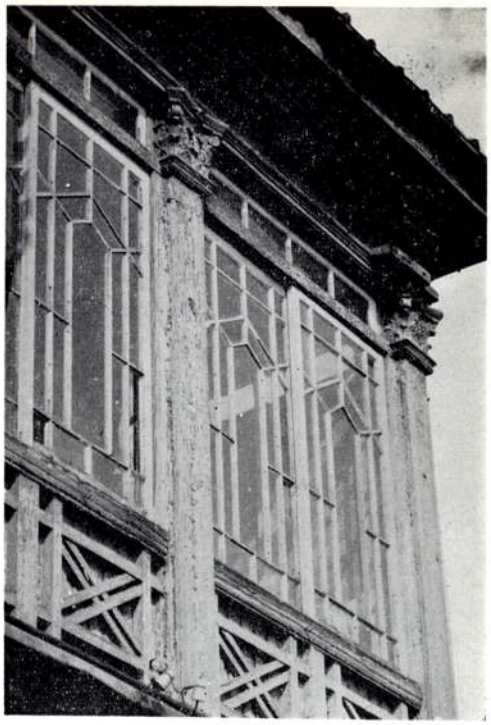
もと神戸女子短期大学北野寮

2階ヴェランダには柱身（シャフト）の頂部に美しいコリンシャン風の柱頭（キャピタル）飾りをつけている。これは，堅木の彫刻で作られたものであり，残存する洋館のなかでこの建物のみがもつ特色である。

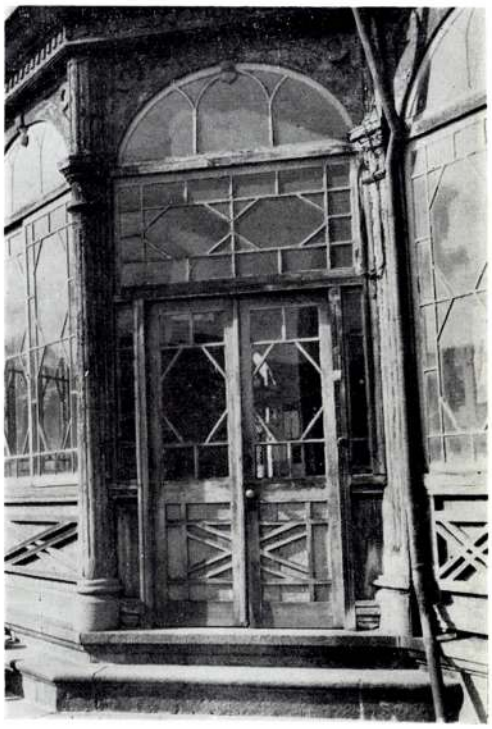
屋根の水取りは複雑で，平面および立面があくまで主であり，それよりでてきたものを屋根伏で，苦心して解決していると考えてよいであろう。当時の様式主義の名残りといえる。

また，屋根にでている煉瓦化粧積の二本の煙突は，リッチで洗練された積み上げを行なっており，設計者ハンセルのスタイルの一端を示すものである。

なお，この建物は文化財保護委員会においても，保存について関心がもたれている。



ヴェランダ2階の角柱と柱頭飾り，モディリオン，コーニスなど，クラシカルなモチーフを多用している。キャピタルの彫刻は，コリンシャン風に型取って美しい。



1階ヴェランダの凸部に設けられた出入口。この凸部に石段がとり囲み，当初は開放されていたと考えられる。



上：南　側　全　景



ヴェランダのバラスター・コラム（手摺状柱）と波連子のディテール。遠方にモスリム・モスク（回教寺院）が見え，沖に船が浮んでいる。



屋根に鯱型の鬼瓦と英国風のレンガの煙突がみえる。外壁はオイルペンキ塗の下見板。



ベイウインドーと切妻とは曲面によってつながり，その先端にペンダントがついている。ヴェランダの天井はアジロ張。



玄関ポーチの流れ造りによる手法（屋根銅板葺）

エズラ・ジェー・シュエケ氏邸

建物位置　神戸市生田区山本通三丁目
木造2階建，切妻，日本瓦葺，洋小屋組（真束組），下見板張り，オイルペンキ塗り
基礎　石造
建　坪　1階50.00坪　2階48.00坪
附属屋　1階 9.6 坪　2階 9.6 坪
建築年代　明治29年9月29日坪届
建 築 主　エー・エヌ・ハンセル
設 計 者　エー・エヌ・ハンセル

神戸の洋館を語る場合，イギリス人建築家ハンセルの名を忘却することはできない。それほどハンセルは多くの作品を手がけている。これはそのハンセルが自邸として設計したものである。それだけにいろいろな意味で，注目される内容を含んでいるといえよう。

南側は左右対象，ベイウインドーを巧みに切妻と結びつけ，中央部にある2階ヴェランダはバラスター・コラム（baluster column）と，近東風にかたどったアーチ状の持送りを主なモチーフとして美くしい。

しかし，ハンセルは，自邸をたんなる洋風としてのあつかい方に満足しなかった。玄関ポーチの部分に流れ造りの手法を用い，屋根の鬼瓦に鯱をあげ，ヴェランダ，手摺に用いられた唐様の波連子など日本建築についての関心があらわれている。

ハンセルが，煙突のデザインを重要視していることは〝もと北野寮〟の項についても触れてあるが，この建物のレンガ積煙突についてもいえるのである。

設計者が明確であり，保存も比較的ゆきとどいており，神戸の洋館の代表的地位を占めるものといえよう。

もとイー・ストロヴィー氏邸

所　　在：神戸市生田区北野町二丁目66番
　　木造2階建，切妻，日本瓦葺，洋小屋組（真束組），基礎・石造，外壁・下見板張り，オイルペンキ塗
　　建坪　1階 25.15坪　2階 27.01坪
建築年代：明治31年3月30日新築
建 築 主：ジョセフイン・アール・ドリュウエル
設 計 者：エー・エヌ・ハンセル

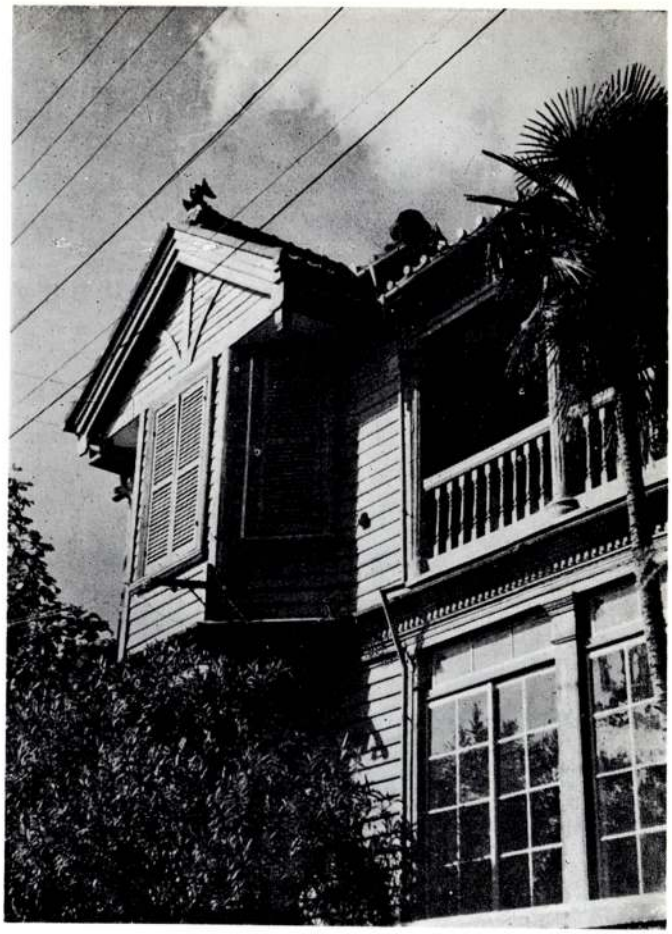
この建物は，去る昭和35年6月23日梅雨にけぶる日に取毀されていった。六十数年の短い生涯であったが，写真にみられる姿はいまは亡い。

幸い解体中にいろいろな記録をとることができたが，比較的原型を保ち，また，いろんな意味で神戸の洋館のもつ特色をそなえていた点で注目されるべきものであった。

この建物の特長として，1）ベイウインドー（出窓）を多く有していたこと。2）オーリエルウインドー（出窓の一種）を持っていたこと。3）ハーフテンバーのモチーフをまねた飾りを妻壁にもっていたこと。4）小屋組のキングポストトラス。5）屋根に鯱型の瓦があること。6）ヴェランダの柱にフルーテングがあること，などである。

また，これらの手法を綜合して，英人建築家エー・エヌ・ハンセルの設計であるとみられ，別掲の，エズラ・シュエケ氏邸や藤月荘などの洋式小屋組の系列に属するといえる。

薄灰色に塗られたオイルペンキが剝げかかり，非対称に徹していたデザインは，いつまでも心に残るものがある。



（1957.4.写）



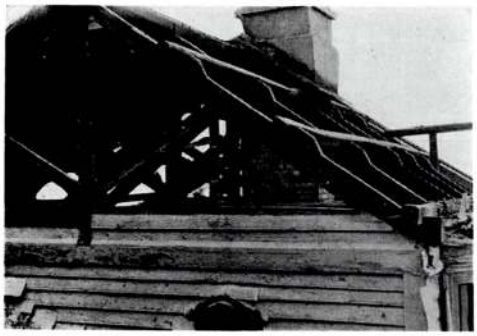
上：秋空の白い雲と屋根にのる鯱型の鬼瓦とのコントラスト。ヴェランダとオーリエルウインドー（張出窓）が美しかった。

左：南側立面（スケッチ：坂本勝比古）

下：解体中を大いそぎで撮った写真。各部のディテールがよく分る。



解体中の小屋組トラス。わずか三間たらずの梁間に，キングポストのトラスが整然とのっていた。





南面するファーサード。そのシンメトリカルな表現は厳しい美しさをもっている。

藤　　月　　荘

建物位置　神戸市生田区北野町三丁目130

洋館部分　木骨煉瓦帳壁造２階建，塔屋付一棟，洋式小屋組，寄棟，スレート葺
1階 92.30坪　2階 85.50坪
3階　2.10坪
基礎 石造，外壁 モルタル櫛目引
他に，ビリヤード・ルーム，メイド・ルームを一棟づつもつ

日本館部分　木造２階建，入母屋，日本瓦葺一棟，和小屋葺
他に，附属屋数棟がある

建築年代　洋館の主棟は明治35～６年頃移築される。日本館は明治10年代説，明治34～5年説があって明確ではない。

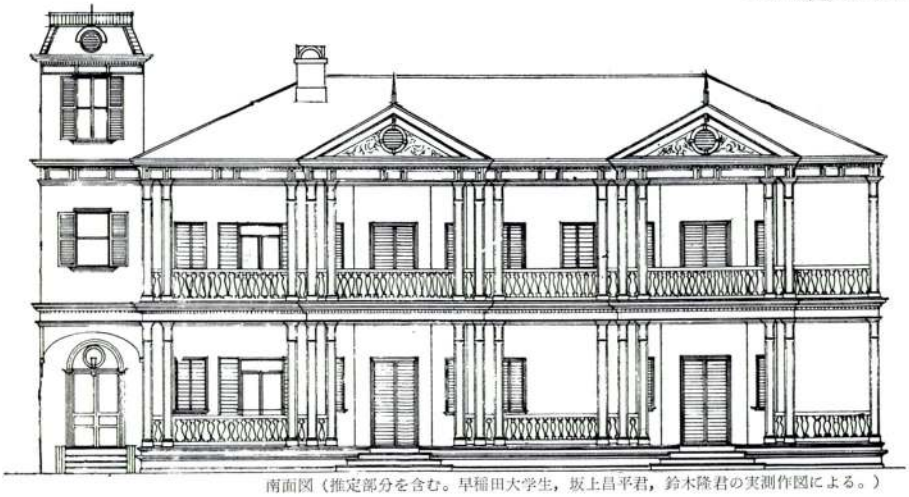
建 築 主　イー・エッチ・ハンター（英国）

設 計 者　不　詳

北野町の山麓，高台に位置し，広い前庭を有し，神戸の町を見下す景勝の地にある。西側に日本館，東側に洋館を並列させ，建物は周囲の環境にふさわしく，残存する洋館のなかで最大の規模をもっている。

洋館部分は，構造上，木骨煉瓦張壁造で，キング・ポストの小屋組などは，もと居留地にのこる江商神戸支店の建物と同一の系列にあり，しかも，江商の稚拙な工法に比して，はるかに進歩し，均斉のとれた手法を採用している。室内の装飾も立派であり，なかでも各室の出入口にみられるブロークン・ペヂメント，煖炉や腰板のリッチな意匠，さらに上下するブロンズのシャンデリヤなど，かつての豪華な面影をとどめている。

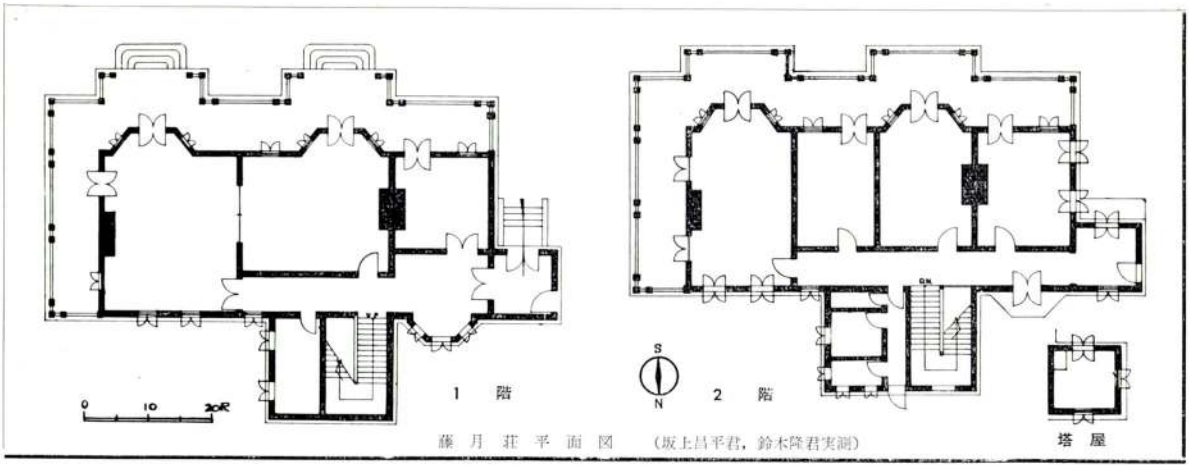
洋館の移築説は，この建物がもとトーア・ホテルの建っていた場所に，ドイツ人，A・グレ



南面図（推定部分を含む。早稲田大学生，坂上昌平君，鈴木隆君の実測作図による。）



変化のあるヴェランダ空間



藤 月 荘 平 面 図　(坂上昌平君，鈴木隆君実測)

ッピーによって明治22年頃建築されていたものが，その後なんらかの事情によって，イー・エッチ・ハンターによって買いとられ，現在の位置に移築されたというのである。しかし，移築前と後とでどのていどの変化があったかは明確でない。

日本館は，純粋の和風の住宅であるが，階段の手摺などは洋風の手法により，広い縁，高い天井などに洋風のスケールが感じられる。

この和洋両棟の接触するほぼ中央部に塔屋を配して，巧みに両者の破綻を救っている。

建築主 E. H. HUNTER 氏は，神戸および大阪川口にあったハンター商会主で，神戸市史によれば〝明治元年いらい神戸に在留し，精米事業を起して本邦機械精米の端を開き，日本米の輸出に尽力し，製粉業をも起し，また大阪鉄工所(現日立造船所)を創設して本邦造船界に貢献し，ついに勲五等に叙せられた〟とある。

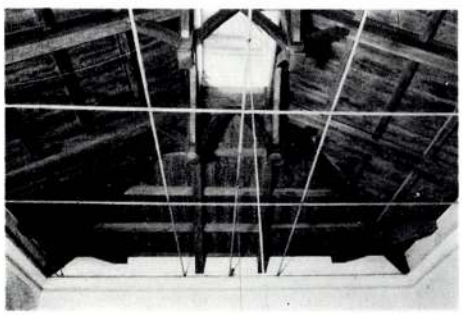


大理石造りの暖炉と飾り棚。この種の飾り棚は，元居留地にある江商神戸支店にもみられる。



室内，居間と応接室との間の出入口に設けられた，ブロークン・ペディメント。

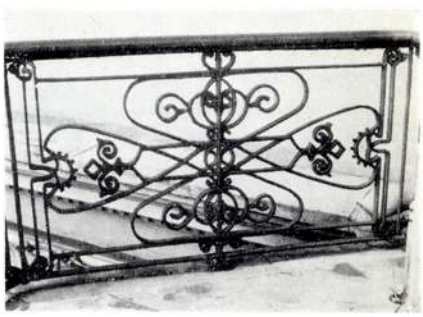
藤　　月　　荘



ビリヤードルームの小屋組にみられる約束風の手法。その下端についたペンダントは，ゴシックリヴァイヴァルの影響である。



シャンデリアの照明



玄関ホールのオーリェルウインド上部に設けられたバルコニーの手摺。角鋼のグリルが美しい。

エフ・ブルム氏邸



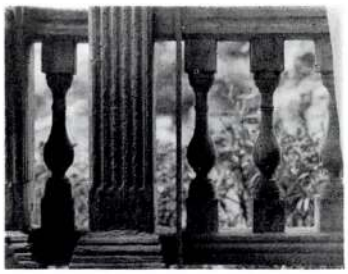
建物位置：神戸市生田区山本通四丁目
建物概要：木造2階建，寄棟，日本瓦葺
基礎石造，外壁下見板張
オイルペンキ塗
坪数　1階 15.5坪
2階 15.5坪
他に付属家一棟を渡廊下にて結ぶ
建築年月：不詳　明治29年7月買いの届出あり
建 築 主：不詳
設 計 者：不詳

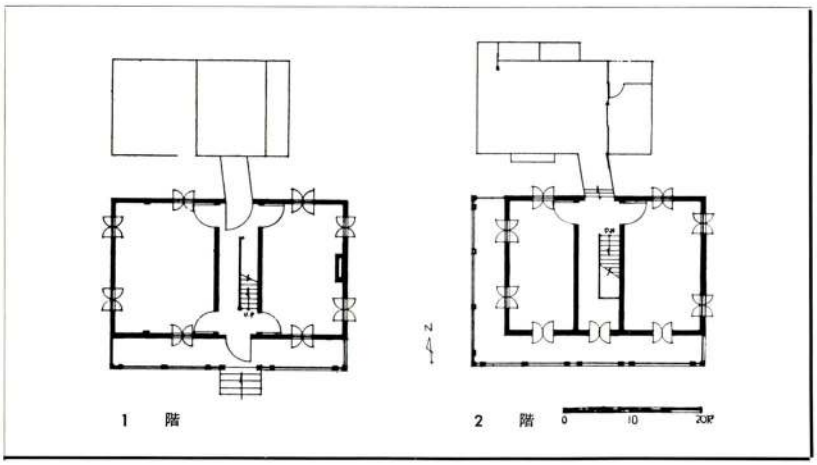


上：木立ち越しにみえる吹放しのヴェランダやアーチ型の窓が印象的である。

左：ヴェランダ柱は複柱式であり，全体のデザインは控え目で，素朴である。

下：ヴェランダの手摺のディテール。その徳久利束は素直なデザインである。手摺子が，徳久利に似ていることから，当時の大工たちは，これを徳久利束と呼んでいた。





ブルム邸は，むかし神戸女学院であった赤レンガの講堂のみえる道を，東にわずかばかりいったところにある。

道よりすこし奥まって，グレイに塗られたヴェランダが木立ちごしにみえ，ひっそりと建っている。

南面したヴェランダが，オープンのままで当初の面影をよく伝えている。2階では西側にもヴェランダが，廻っている。（1階は改造の跡があるが，2階と同様なヴェランダであったと推定される）

角型の複柱にフルーテングをつけ，手摺の徳久利束も太く力強い，この建物の外観にひかれるのは，ヴェランダに窓硝子戸が入らずに，当初のままの開放的な姿を保っているからかもしれない。

室内はひじょうに簡素で，中廊下を挟んで左右に一室づつ上下で，計四室を有しているに過ぎない。

ヴェランダの床仕上げには，洋館によっていろいろな工法がとられているが，この建物では平鉄板貼りをした上，オイルペンキが塗られている。

建築年代が不詳であるが，相当に古く，明治初期に近いのではないかとも考えられる。

小　林　秀　雄　氏　邸

建物位置：神戸市生田区北野町
木造２階建，四注造り，日本瓦葺，和小屋，基礎石造，外壁下見板，オイルペンキ塗張り
建築年月日：明治35年３月13日新築届出
建　築　主：メィア・デレィド・シャアブ
設　計　者：不詳

外壁１，２階の腰部分に竪羽目張りを行ない，外壁下見板張に帯状のアクセントをつけている。ヴェランダ柱は円柱を用い，ベイウインドを西側に併立させている。屋根にでている２本の煙突は〝もと北野寮〟の煙突と同様，煉瓦化粧積みである。

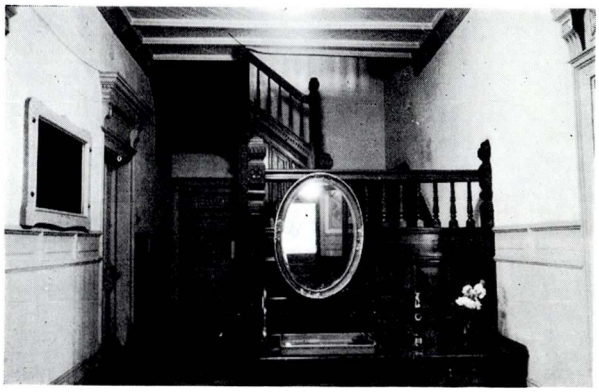
室内は玄関ホールや階段などに，豊富な飾りが施こされている。とくに玄関ホールの板張り天井は例がすくない。

所有主の小林氏は海外生活の経験もあり，洋式の生活環境をゆたかに住みこなしている。

神戸の洋館のなかでも，ごくオーソドックスな形であるといえよう。



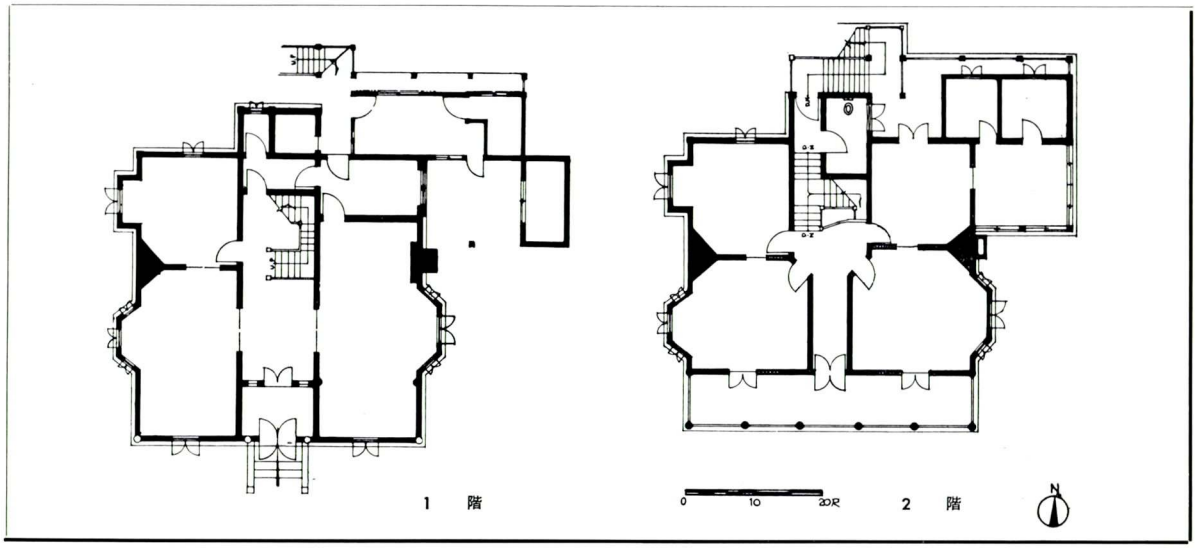
西南面よりみる



玄関ホールと階段



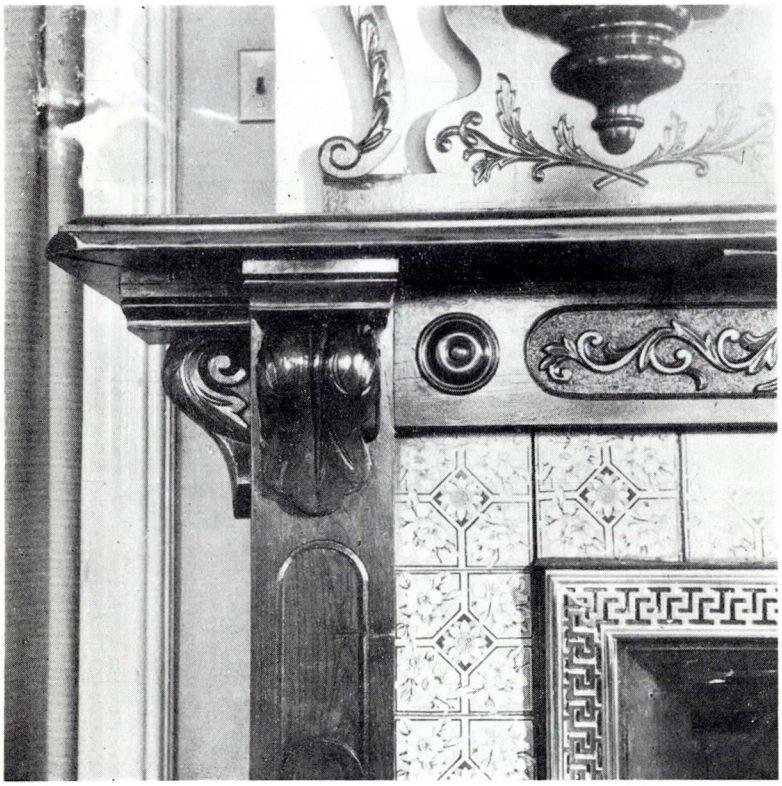
室内の出入口上部に用いられている額縁





上：トーアロード（手前）に面して建つファーサード

下：援炉のディテール。欅の彫刻とミントンタイル（英国製）の花模様が美しい



東　天　閣

所　在：神戸市生田区山本通三丁目外39
木造2階建，寄棟，日本瓦葺，洋小屋組(真東組)
基礎・煉瓦及石造
外壁・下見板張り，オイルペンキ塗り
建　坪・1階 40.47坪
2階 47.70坪
付属家・1階 13.40坪
2階 12.01坪
建築年代：明治27年11月27日新築届
建 築 主：エフ・ビショップ
設 計 者：ガリバー

もと居留地より山手に通ずる道路トーア・ロード（Tor Road）に面して建っている。したがって正面をこの道路にむけてとり，1，2階同じ形のヴェランダを設け，複柱式で，手摺子に徳久利束を用いず，写真のような意匠の欄間を用いている。外部のデザインとしては繊細な感じはなく，むしろ，ガッシリとした感じが強い。内部に入ると，右手に階段が2階に通じ，左手にベイウインドーをもった応接間がある。室内は，腰板に，朝顔やあやめ，牡丹などの彫模様をつけたり，煖炉まわりの欅の飾り棚，花模様のタイル，銀まがいの引分戸の取手など，ひじょうに凝った意匠が各所に施こされている。設計者のガリバーについて詳しい記録はないが，英国人技術で，神戸で一生を終えたといわれる。この建物と略同一のものが南隣にもあった由であるが現在はない。

なお，トーア・ロードについてその語意やつけられた時代などに関して諸説が紛々としてあるが，この道路の山麓にあったトーア・ホテル（明治40年ごろ建築）の建ったころ，そのホテルにちなんでつけられたものであろう。しかしこの道路の存在は古く，明治5年の地理寮の実測絵図に，もと居留地，いまの大丸や三宮神社のところから，高架線あたりまで道が南北につけられており，明治10年の兵庫，神戸地図によると，すでに山麓までその道がのびている。したがってこの道路は明治初年にすでに存在し，山手と居留地など海岸地帯とを結ぶ，主要な道路であり，これにそって外国人住宅が建ちならび，ざんじ山手一帯に拡がっていったと考えられ，洋館との結びつきは深い。

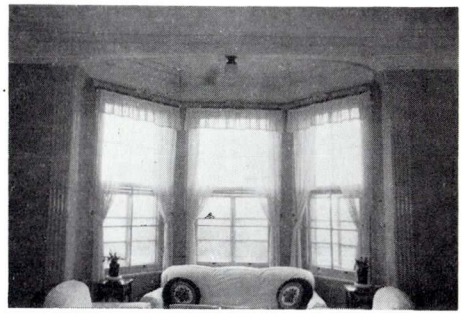
現在でも，Tor Road といえば神戸の流行を生みだすもとであり，昔日の面影はなくなってはいるが，エキゾチックな雰囲気は，まだ，そこここに残っている。

神戸の名物に中華料理があり，東天閣もそのひとつであるが，異国的な洋館と中華料理とを結びつけて，ゆっくりと，神戸の味を賞でさせようとする商魂も，なるほどとうなずけるような建物である。

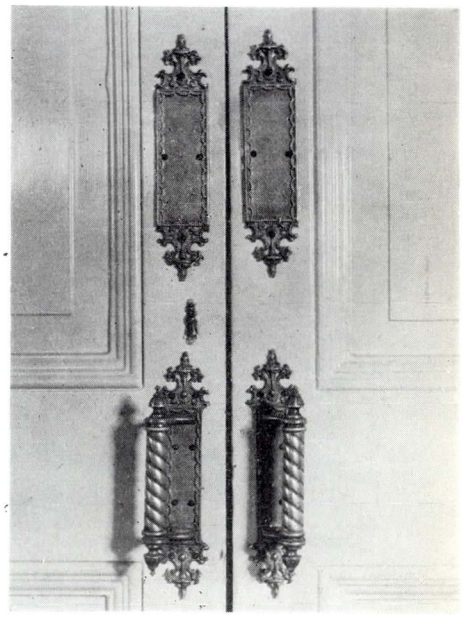


2階主室の煖炉

2階主室，南側のベイウインドー



引込戸の引手と飾り金具



腰パネルに用いられた朝顔の彫刻 ▶



東　天　閣

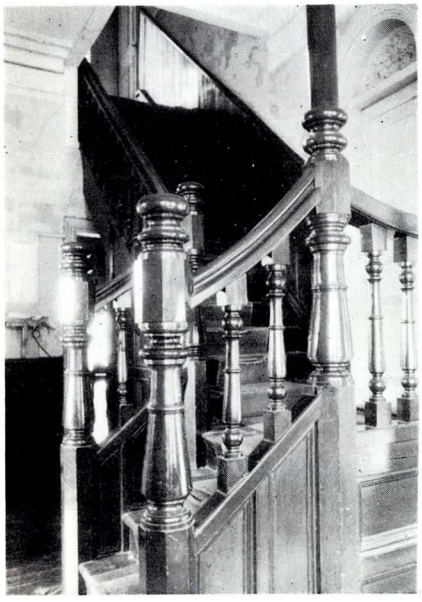


東側の並列したベイウインド。右側のはら型でありボウ・ウインドーとも呼ばれるものである。



南面をみる

階段：親柱と手摺

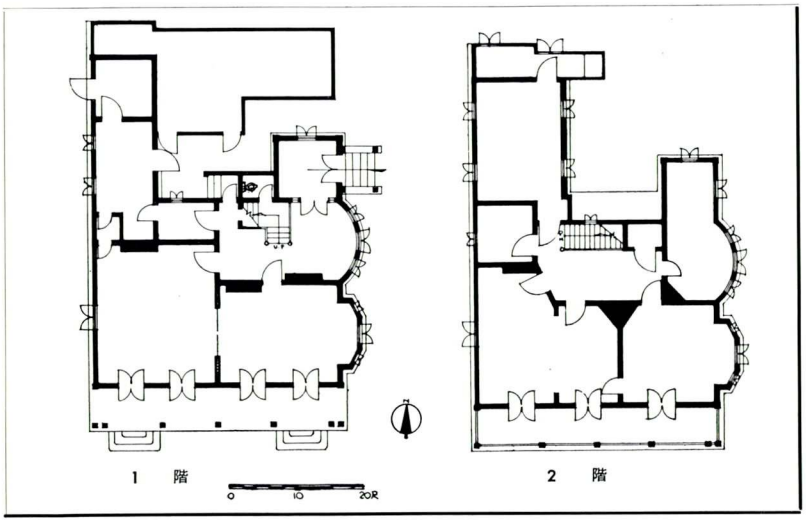


神戸女子短期大学　山本寮

建物位置　神戸市生田区山本通三丁目
木造2階建，寄棟，日本瓦葺，基礎石造，外壁下見板張り，オイルペンキ塗
建坪　1階 37.33坪
2階 38.90坪
建築年代　明治32年3月9日坪届
建築主　キャセリン・アンダーセン
設計者　不詳

便所出入口の欄間にある石膏の花模様





門を入って玄関にいたるまでに，二つのベイウインドーが並んでいる。ベイウインドーが並列している形は，そうめずらしいものではないが，この場合一つは弓型（ボウウインドー）であり，他は梯型である。さらに玄関のポーチコは切妻であって，この三つの組合せが，この建物の大きな特長である。

室内ではこのボウウインドーの部分が玄関ホールになっている。階段を装飾するのは一般的な傾向であるが，この場合それがいちじるしい。とくに踊場の上部に花鳥をあしらったすかし彫りの飾りをつけ，同じ踊場の便所出入口上部欄間にある花模様のうき彫りもみごとである。

エー・ロバートソン氏邸

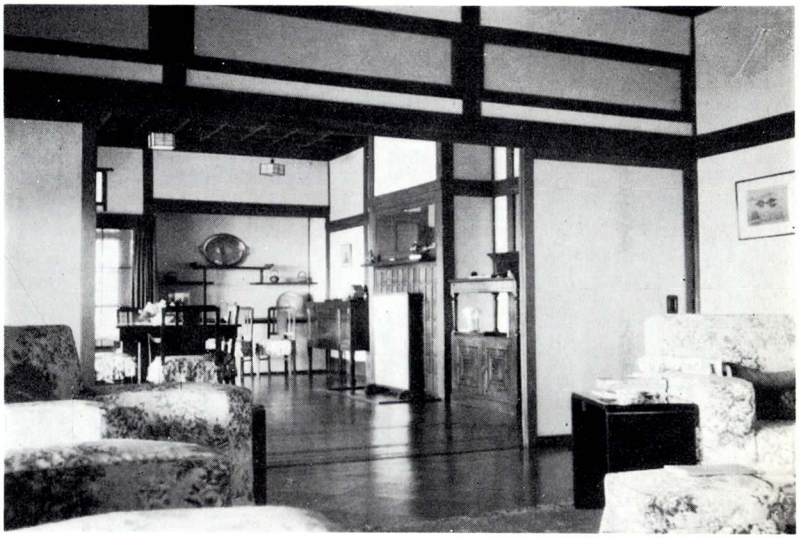
所　　在：神戸市生田区北野町三丁目
木造2階建，入母屋，日本瓦葺，和小屋
建坪　1階 120.20坪
2階　85.80坪
建築年代：明治30年代
建 築 主：W・H・ギル
設 計 者：不詳

立派な腕木門を入って，玄関の車寄にいたり大きな硝子戸をあけると，たたきと式台が目に入る。和風のしきたりならば，式台のまえで履物をそろえて脱ぐのであるが，この家では靴のまま式台を踏んであがるのである。板張りに絨氈を敷いたホールに入ると，左手に応接間があり，右手に勾欄のついた階段が2階に通じている。門を入って和風の外観に印象づけられた訪問者は，まず式台のところでまごつき，さらにホールから応接室に入ってとまどうであろう。

それは，あまりにもみごとに，和風の構成のなかに洋風の生活様式をもち込んでいるからである。すなわち，柱や長押，襖などが，ソファーやテーブル，暖炉などと巧みにとけあって，一種独特の室内空間を作りだしている。この建物は，日本人の婦人を妻にした英国人の註文によって，日本人大工が建てたといわれているが，この英国人はじつによく日本家屋の長所や短所を心得ていたと考えてよいであろう。また，大工も和風の手法のなかに外国人のもつセンスをこれだけ理解できたものだと思われる。戦後，日本建築の構成美や，そのモチーフが海外でもてはやされているが，明治中期にすでに在留外国人によって，その特質が理解され，実行されていることは，おどろくべきことである。

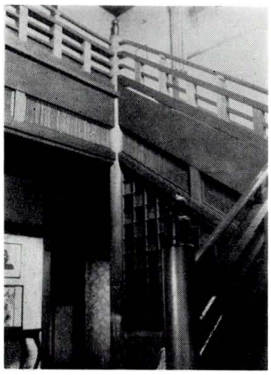


南西よりみる。様は広く，勾欄がまわり，2階には寝室が主にとられているが，写真にみえる2階壁面は後補のもの。

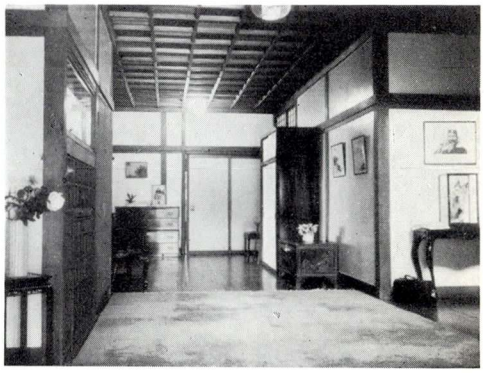


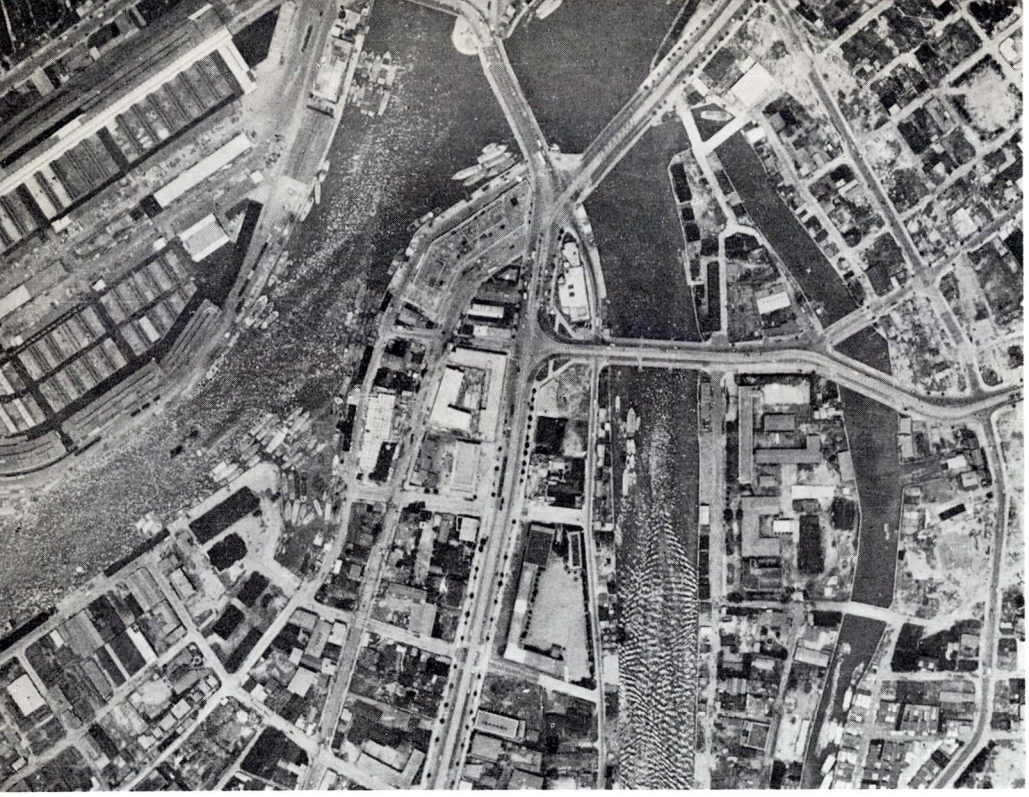
応接間より食堂をみる。真壁の架構，長押，落掛，違棚など，すべて和風の構成のなかに寄木貼の床，暖炉，ソファーなど洋式の調度を置いて，異質の空間がかもしだされている。

玄関ホールより階段をみる。擬宝珠付の手すり。



玄関ホール。右手に階段があり，左側は応接室に通じる。





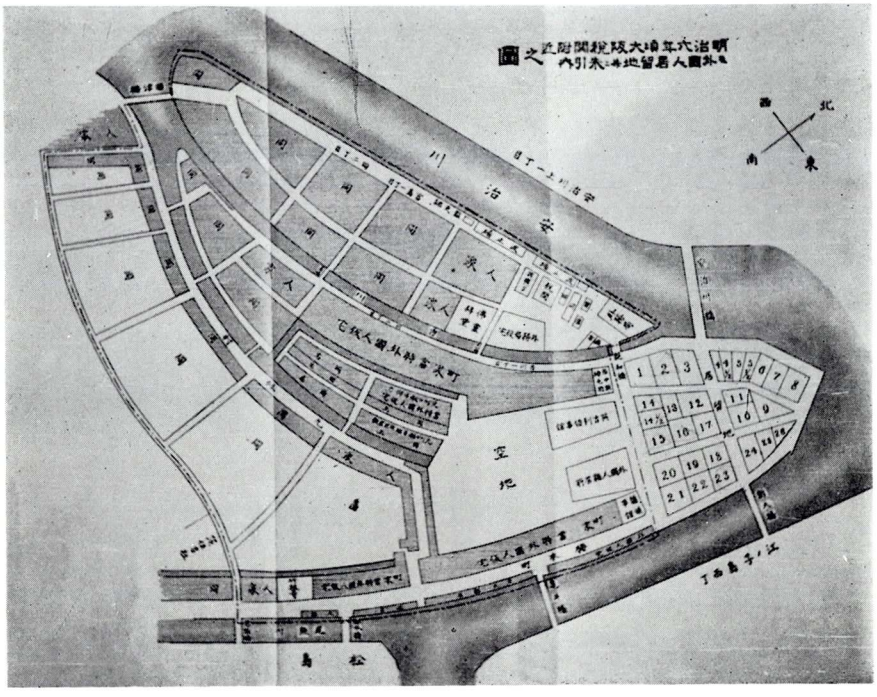
第1図

昭和26年頃の川口附近の航空写真である。道路はやや広くなっているが，地割はほとんど変っていない。

中央凸部，上より6区が第一回居留地で，その右下が本田小学校，その左2区が第二回居留地の地域である。（大阪写真測量所さつえい）

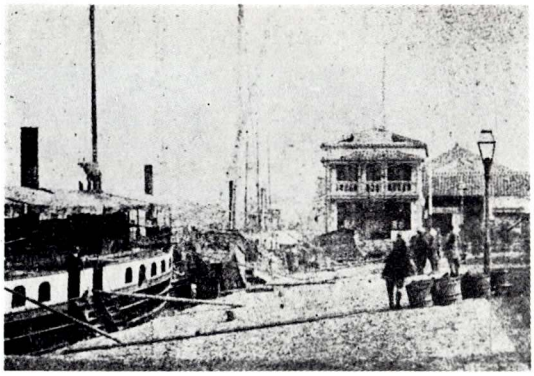
川口居留地の沿革

林野全孝



第2図

明治6年の居留地，税関および外国人の仮宅指定と自由行動範囲を定めた朱引内の図である。なお，朱引は，本図では，一・一・一線で表わす。（明治大正大阪市史第三巻より）



第3図　富島の北端，現在は船着で切り取られたとこにあった川口電信局とその裏(北)の外務局を表している。電信局はベランダを用いた居留地型洋館で，外務局は，和風建築に，川沿いをベランダ付洋風に改造した建物で，当初運上所と称していたものである。（以上筆者の考察による）（写真は上方第九十九号より）



第4図　戦前まで大阪税関富島出張所として存在した建物で，以前は，川口運上所であった。（上方九十九号より）

川口は，大阪市の西端，木津川と安治川が合流する地域にある。この地は，明治初期より，同32年までのあいだ，外国人の居留地であった。歩道と車道にわかれた道路の両側にはレンガや木造の洋館が建ちならび，街路樹のあいだにはガス灯が立ち，まさに大阪人士に洋風を導入する発端となった。しかし，現在では，道路のみは，拡張されたとはいえ，だいたい旧体を残しているが（第1図），建物に関しては一戸すら残ったものがない。そこで，本文では，さいわい求め得た写真や地図で，居留地時代の地区計画と建物を若干紹介するにとどめたい。

沿　革

——第一回居留地——

嘉永6年3月，ペリー来朝以来，安政の神奈川，下田条約がつぎつぎに押しつけられ，諸外国は，大阪を開港場第一にあげて交渉してきた。当時大阪は，市史によれば全国経済の70%を握っていたといわれていたからであろう。しかし幕府は，皇居に近いという理由と，裏には，大阪経済の動ようをおそれ，言を左右に反対し，ついには兵庫開港，大阪開市とする折衷案に落着こうとした。こうして，安政6年6月，神奈川，長崎，函館が貿易開始（米・和蘭・ロシア・英・仏五カ国）後も，大阪・兵庫の問題は解決せず，問題は政変まで持ちこさせたが，明治元年7月15日（1868.9.1）に至り，新政府は兵庫開港とともに大阪開港に踏みきらざるを得なくなった。

明治元年4月27日，まず在来の建物を改造し，大阪運上所ができ，外国官判事，五代才助，陸奥陽之助がその事務を執り，12月24日，大阪府外国事務局として，関税事務をかねた。

これよりさき，慶応3年，川口の旧船手奉行屋敷や船蔵のならぶ一帯を，外人の居留地ときめ，8月には地均しを行ない，10月には70%敷地整備ができ上った。以上で幕府の支出金34,408両余，内訳は，役宅の取直し，埋立，石垣，下水，常夜灯，橋架，会所などの建設であった。その後，府が3,123両余で地上，石垣地下水技溝の工事を行ない，慶応4年7月24日，いよいよ26区の土地競売を行なうことになった。（事実は，当日神戸居留地の競売日になるので，29日に日延べされた。）

総面積7,746.5坪，26区は，即日売切れ，その元代金15,493両，(坪当り2両)に対し，競増金11,937両余，合計平均坪当り3.3両となった。(地祖，年坪当り金一分)このうち，2, 14, 15, 16の4区は，坪4両，23区のごときは，坪8.2両という高値で売りさばかれた。これは，3日前に行なわれた神戸居留地の坪当り2.65両，最高価格4.3両に比べると，ひじょうに高いものであった。しかし，立会官の報告によると，はじめの期待価格より低く，談合や不正が，随分あったようである。（外務省往復文書）

26区居住者の国籍は下表のごとくであり，うち英商ガラバが，18，22の二区を買入している。このガラバは，おそらく，長崎にいた商人で，グラバー邸の主であり，大阪造幣局設立のとき，建築家ウォートルスを紹介した人物と同一人であると思われる。

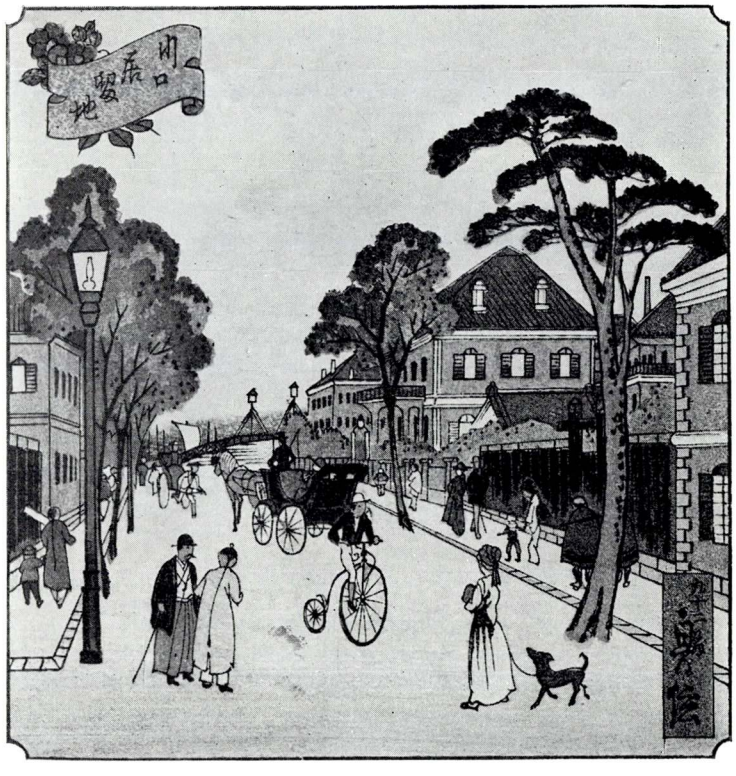
	人　員	地　区	坪
英	1 3	1 4	4,227.00
米	6	6	1,417.75
孛	5	5	952.00
蘭	2	2	592.00
仏	1	2	555.75
計	2 7	2 9※	7,746.5

※4, 5, 14区は各1号，2号に分割されている。明治18年頃の図によれば，さらに，12, 16, 19の地区が二分割された。



第5図

川口の10番館にあった，外国貿易商社，ファブルブランドの建物である。同社は，スイスと英国に工場を持つ器械類の取扱店で，横浜にも支店を持っていた。本館はレンガと石造建築で建てていた。位置は第6図の右端のものと考えられる。（横浜市史編集室蔵・坂本勝比古氏提供）



第6図

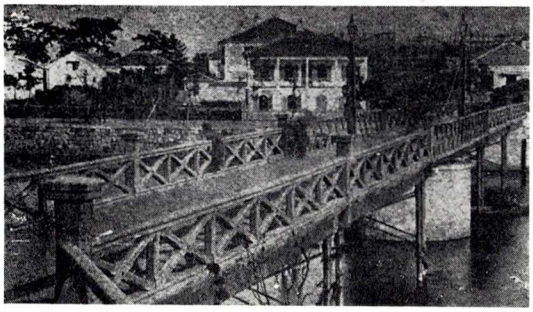
貞信画伯が，90余才で昭和14年上方第九十九号の表紙に書かれたもので，原画は何によられたか不明である。向うに見えるのが，安治川橋で，この橋は中央で回転できるようになり，舟便を考慮していた。しかし明治18年流失した。

——第二回居留地——

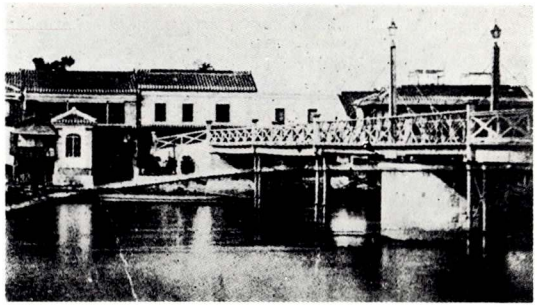
明治16年頃より，居留地拡張の要望が外人よりだされ，南西へ（本田一番町の西）2,667.4坪を10区に分かち，うち8区を19年6月29日，第一回，競売を行なったが，元価（2円57銭2厘）で4区売れたにすぎなかった。こうして，23年8月まで4回に分かち，ようやく全部売りさばかれるにいたった。（ただし，30，31番は川口電信局が使用していたため，その移転まで競売しなかった。）

さて居留地設立いらい外人の素質が悪く，五代友厚はその都度断乎たる処置を取ってきたのに加え，神戸港の盛況にともない，外商はしだいに神戸へ去り，川口の方は，商人住居にかわり，病院，学校，教会など文教関係

区番号	使用目的	備考（年号すべて明治）
1～2	信愛孤児院	修道尼ベルナルヂス嬢12年より当初にて開く
8	聖バルナバ病院	11年設立，聖提摩本教会と同系
12	三一神学校	英宣教師ワレン，17年設立
18	プール女学校	上記三一神学校と同系
20	大阪鉄工所	梁官子（中国人，クンチ）開業
21	聖提摩大教会	12年開設
22	照暗女学院	後のウイルミナ女学校
23	プール氏住宅	
30，31	伝信局	後撤去
34	居留地会議所，領事警察所	
35	テニスコート	



第7図　安治川橋を西より東にみた写真である。この図とまったく同所から写した写真が，建築と社会誌14巻5号にでており（葛野壮一郎氏），それによると，後方の府庁舎が完成しているが，本写真はそれ以前のものであることがわかる。したがって，明治5年～6年のめずらしい写真である。橋を渡ってすぐ左の洋館は4番館で，居留地競売資料（大阪市史）によれば，英人イートンの住いと思われる。（写真・桐本楠雅氏提供）



第8図　第7図の橋を渡って逆に西を見たところである。つまり居留地外であるが，土蔵を改造して洋風にした建物がならび，また川沿いに居留地警備の番屋らしい建物が見える。（上方第九十九号）

の住居や建物に使われるようになった。いまここに明治22年の記録より抜萃すれば，上表(前頁)のようになる。

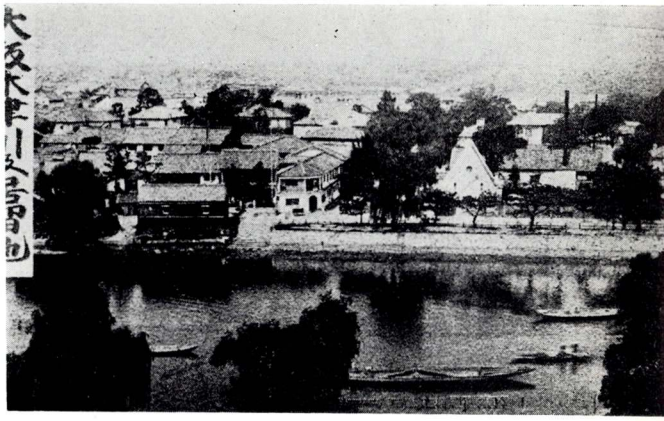
――雑　居　地――

居留地設立当初，外国人が居住すべき区域（朱引内，第2図）が規定され，居留地に入らない欧米人と，その後未条約国だった清国人の居住に供した。明治6年の図によれば，外国人仮宅地としてみえるように，おそらく一般民家をも使用させたものと思われる。

ちなみに，明治13年在阪外国人の数は，英人16人，米人25人，和蘭人1人，独人4人，清国人115人，計162人で，欧米人は主に政府が雇教師，または宗教家であった。このように商人が減少したのと反対に，明治6年7月，日清通商修交条約締結後，華商の在阪者が目立ち，川口，本田の雑居地域を中心に，大正末には，3,000人の多きを数えるにいたり，多彩な商売を開き，後には一廓が中華料理店の街をなすにいたった。

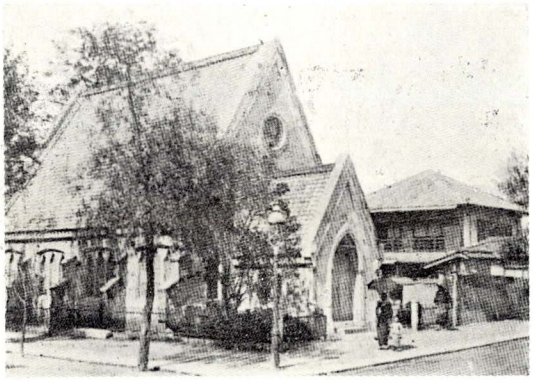
このように，川口居留地は，大阪文教文化の発祥地であり，また中国貿易の中心地ともなり，大阪の近代的経済の発展に貢献したことは多大であった。しかし，第二次大戦後，川口，本田町は大被害を受け，いまや大正期の川口教会など一二棟残すのみで，ほかはすべて壊滅し，とくに居留地時代の面影は何物もとどめなくなってしまった。

本編および写真説明は，明治大正大阪市史ならびに「上方第九十九号川口居留地，高原護郎氏」に負うところが多い。



第9図　旧府庁舎から西を望んだ，めずらしい写真である。中央右の三角形の建物は，第10図の元聖テモテ教会（21番）である。また，木津川沿い左手の建物は，おそらく明治44年にカフェーキサラギに改造された建物と思われる（第11図）この写真の写された年次は，まだ明らかにできないが，おそらく明治30年頃であろう。（桐本楠雅氏提供）

川　口　居　留　地

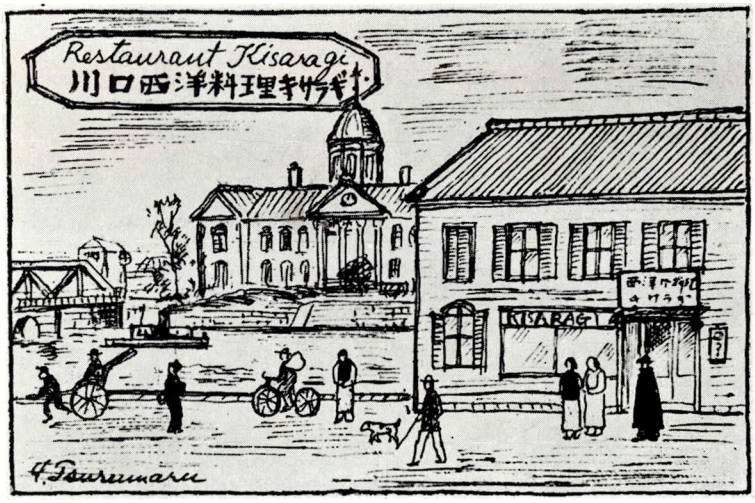


第10図

明治15年頃の聖テモテ教会。現在川口キリスト教会（ヴォーリス設計大正9年竣工）の建っている建物の前身で，明治6年に竣工した建物と思われる。

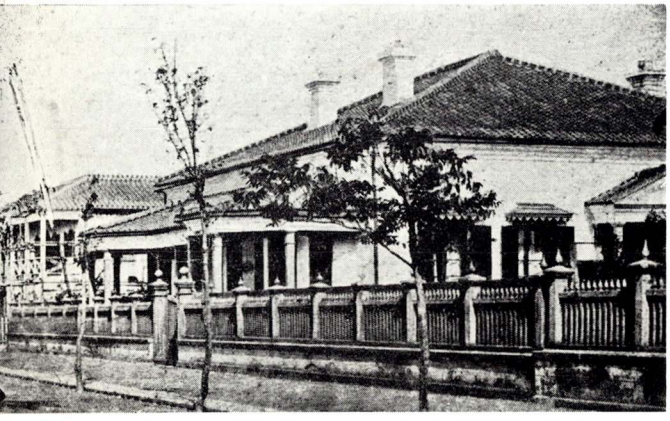
当初は，アーサー・モリス司祭の設立した英和学校附属礼拝堂であった。（川口基督教会八十年史より）

川　口　居　留　地



第11図

明治44年，元10番館のファーブランド商会のコックが，川口教会の前に営んだ「カツフエー・キサラギ」で，喫茶と洋食の店であった。後世カフエの起源であろう。前方は，旧大阪府庁舎。（鶴丸梅太郎氏筆，上方第九十九号より）

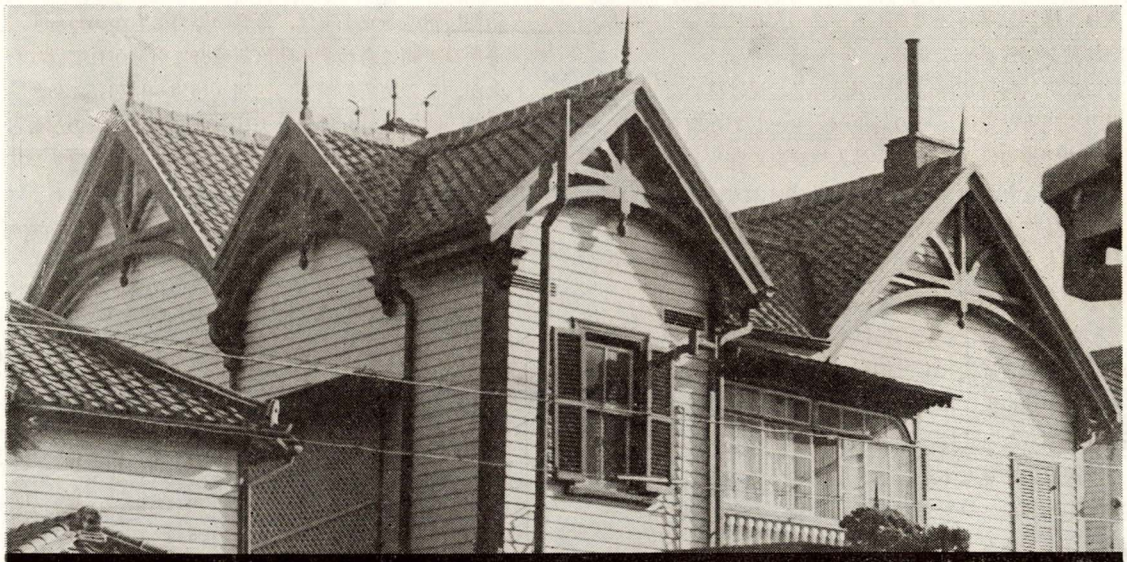


第12図

居留地内の一洋館。広いポーチや，日本瓦の屋根に注意，向うの洋館は，ベランダを用いている。故高原護郎氏—元本田郵便局長—によれば，川口居留地の建物は当初はヴェランダを広くとり，バンガロー様式の建物を主とし，周囲に塀をめぐらし，多くは木造平屋建で，あたかも南支仏印，海狭殖民地の観があったが，明治19年拡張後は英国風カシテージ，またはスパニッシュコロニアル風の石造，煉瓦造が多くなった……。と書かれている。街路樹はユカリーゴム等が多く植えられていたらしい。

（写真・桐本楠雅氏提供。文意は上方九十九号による）

＜参考＞　本編けいさい図以外に，明治19年編，大阪実測図。明治初年運上所の風景画（第3図後方の建物で，和風建築を改造しベランダ洋風にしたもの）。伝信局開局錦絵。等の資料がある。



神戸における洋館建築の特色とその変遷

—居留地を中心として—

坂　本　勝　比　古

§1. はじめに

このたび，本誌が明治時代における神戸・大阪の外国人居留地を中心とする洋館建築について，特集号を企画したことは，はなはだ意義深いことである。

それは，最近明治建築について，その史的位置が新しくみなおされてきており，それにともなって，幕末より明治初年にかけて設けられた，横浜をはじめとする各地の居留地洋風建築が，その様式や技術において，注目すべき内容を含んでいること，また現に，わずかに残存している洋館も，最近急激に消滅する傾向にあって，やがては，まったく失なわれてしまうのではないかとさえ，考えられるからである。

また，いまからちょうど三十年まえにさかのぼるが，本誌の昭和7年8月号に，当時，編集にたずさわっておられた故高橋栄治氏が〝神戸元居留地の一洋館〟と題して破壊寸前の煉瓦造洋館をとりあげ「……これらの洋館の調査の一日も早く実行せられることを祈る」という一文があり，そのころ，すでに明治建築調査の必要なことが説かれていたことを知るからである。

今回おなじ本誌上で，これらの洋館建築に，新しい脚光があてられて，おそまきながら，先覚者の要望に応えられるにいたったことは，喜びにたえない。

ただし，本篇はそのすべてをつくすものではなく，ただその概要をのべて大方のご参考に供するにすぎない。本文で筆のおよばない点は写真版によって補っていただければ幸いである。

§2. 居留地洋風建築の意味するもの

神戸居留地を中心とする建築については，その発展過程を大体次の三つの時期に分けて考えることができる。

すなわち　初期　慶応3年〜明治20年（1868〜1887）
　　中期　明治21年〜32年（1888〜1899）
　　後期　明治33年〜大正3年（1900〜1914）

これは明治建築全般の流れの上からの区分ではなく，居留地の地域性を考慮した上の区分である。したがって明治時代，外人建築家の活動期とその指導性を，コンドルは別として，一般的に，明治政府によるドイツ人建築家エンデおよびベックマンの招聘をもって最終とするならば[1]，明治20年代はじめに終りをつげ，辰野金吾ら日本人建築家の手に移るといえるのであるが，神戸の場合は，この時期にハンセルの来日によって新しい活動期に

入り，横浜は33年までダイアックの存在によって，地域的な動きが残るのである。

ここで，居留地洋風建築が保有し，受け継いでいった過程を問うならば，その対象が，主として在留外国人のための建築ではあったが，外人建築家の有していた様式・技術などと，日本の風土性および日本人職方のもつ伝統的な技術との交流のなかに，多くの混乱と葛藤がありながらも，たえず技術の摂取と同化が行なわれていたとみることができる。

しかし，これは歴史的にはもとより時代の推移とともに，じょじょに変化し，初期にみられた土壌的役割は，やがて中期以後，中央からの技術の広範な浸透と融合し他方では，たとえば，神戸山手の住宅地にみられるような，洋風の特殊な木造技術を要する手法にまで，独自の発展をとげるにいたったと考えられるのである。

いうまでもなく，居留地は，列強の極東における植民地政策の一環として，設けられた治外法権的存在であって，明治政府に対しては，むしろ対立の形で発展したものであった。したがって，明治時代の官僚主義的政治機構よりも，むしろ民間貿易を中心とする経済的なつながりをもって，日本の社会と結びついていた。

しかし，かかる特殊な存在形態は，必然的に解体される運命にあり，明治32年の居留地解消後，なお保持された勢力も，大正初期の第一次大戦によって，その機能は急速に衰退していった。

ともあれ，居留地の存在意義は明治時代における日本の近代化への道程のなかで，特異な，しかも重要なものとして，その文化史的価値は，改めて評価されるべきであろう。

§ 3. 明治初期，洋風建築の導入

この時期は，さきにのべたように，慶応3年12月7日（1868）兵庫開港より，明治20年（1887）英人建築家ハンセルの来日までの期間における洋風建築の導入期をあつかう。

兵庫開港によって設定された神戸居留地は，横浜や長崎（いずれも1859開港）に遅れること約9年であった。したがって洋風建築の移入が幕末のころより行なわれていた地域と異なり，やや新しいのである。しかし開市場大阪とともに，その地理的地位は重要視されていた。また，横浜より開港が遅れたことは，必然的にその先例の過ちを改めることにもなり，居留地の位置，街路，下水道，護岸等は，慎重に都市計画的要素を織り込んで決定された。

当初居留地造成工事は，幕府の努力にもかかわらず，開港期日に間に合わず，明治新政府に引継がれて行なわれたが，その地所の競売は四回（1868～1873）にわたっており，区画された地所は大体300坪内外のものがもっとも多く，これらは落札者によって，ただちに建築が行なわれ，その国籍別の内訳は**第1表**[2]の通りであり，それによると，英国がもっとも多く，次いで独逸，和蘭の順となっている。

第1表　居留地地所競売国籍別分類表（筆者作表）

国籍＼回数 人員 地区数	第1回		第2回		第3回		第4回		計	
	人員	地区数	人員	地区数	人員	地区数	人員	地区数	人員	地区数
英	8	12	12	13	23	35	3	4	46	64
独	3	3	7	7	8	12	1	1	19	23
蘭	6	7	2	2	4	6			12	15
仏	4	4	2	2	5	5			11	11
米	9	10			1	1			10	11
伊					1	1			1	1
居留他行司			1	1					1	1
計	30	36	24	25	42	60	4	5	100	126

当初の洋館がいかなる形態であったかは，別掲の写真で推定されるのであるが，当初より居留地の造成に関与して活躍した英人技師ハート（J. W. Hart）の手になる実測地図（26頁参照）をみると，居留地の造成の全貌がかなり詳しくわかるのである。それは充分な幅員をもった道路で126区画の地所にわけられ，南北に最大幅員約90フィートの京町筋，東西方向には海岸に沿ってグリーンベルトをもったバンドが形成されていた。各道路にはガス灯，道路側溝，会所，下水暗渠がめぐらされ，約77,000坪におよぶ地域がみごとに造成されているのである。

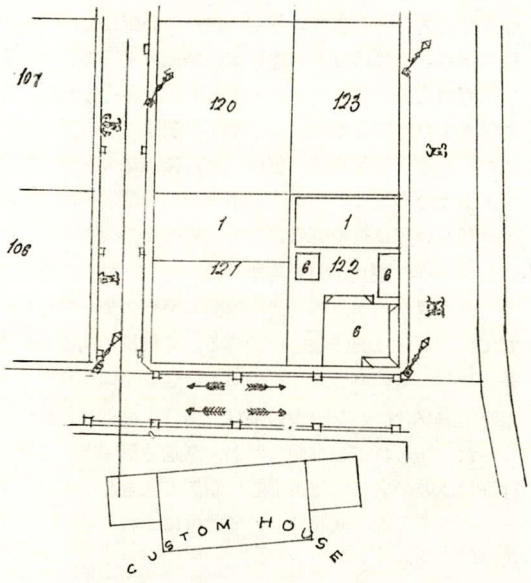
また，建物の構造上の種類についても，煉瓦造，石造，木骨煉瓦造，木造大壁造など多種にわたっており，明治12年といわれる居留地の俯瞰写真（折込参照）によっても，それはよくわかるのであるが，現存する江商神戸支店（本誌昭和35年5月号参照）にみられる各種の工法は，当時のいわゆる居留地洋館の面影を豊富に伝えているものとして注目されるのである。

また，建物の様式や工法・用途などについても，多分に類型や統一が計られているようである。たとえば，外壁を塗りあげる工法は，桐敷真次郎氏の説によると，様式的には，英本国におけるリージェンシー・スタッコなどの影響があるといわれが，他方では居留地地所規則の制約が，多分に感じられる。この地所規則は当初横浜において，神奈川地所規則[3]として成立し(1860)，居留地

内の各種の行為を法的に規制しようとしたものであるがその第八条に〝土地の制限ならびにその使用法〟として〝藁葺・竹・木造・その他非耐火性建造物を居留地内に建築してはならない〟と記されており，この規定は慶応2年（1866）横浜で発生した有名な〝豚屋火事〟（この大火で横浜居留地内および日本人街の大半を焼失する）によってさらに強められ，第三回地所規則として同年（1866）約定されたものでは，その第六条に〝中央大通りの地域に建てる建物は，その所有者が，外国人たると日本人たるとを問わず，堅固に造らなければならない。屋根には瓦をおき，壁は煉瓦・石・または厚い石灰とする。……〟と決められている。このような横浜のにがい経験が，神戸では充分とり入れられたと解されるのである。

神戸の洋館の様式的な背景については，イギリス本国およびアメリカなどにおける十九世紀的建築思潮が敏感に反映していたが，たんに，それらの模倣のみでなく，それを基調にして植民地的な，また風土的な要素が組み入れられて，表現されていると考えられるのである。このことについては，本号桐敷氏の労作〝欧米木造技法の伝統と神戸の木造洋館〟に詳しく記されているため，それにゆずることとする。

この期の代表的作品としてとりあげられるべきものは居留地2番に建てられたウォルシュ・ホール商会（第28頁参照）である。煉瓦造二階建で，間口ほぼ19.40M，奥行16.40M，延約660M²におよぶ規模をもち，ファサードに一階はアーケード，二階はコロネードのヴェランダを附している。二階ヴェランダの柱は木製でフルーテングをもち，柱頭はコリント式で，江商のそれに比して，さらに優れていたといえる。様式は古典主義な手法をとり，細部もかなり確かである。このような建物が明治3～4年ごろに忽然と出現していることは意外ではあるが，当時の技術水準が，相当の域に達していたと考えてよいであろう。また鬼瓦や軒唐草瓦に「亜二」の刻印をつけた瓦が使われているが，これは〝亜米利加二番館〟の略であり，仕事を請負った瓦職人が，鬼瓦のデザインにこの案を進言し，設計者の外人建築家に採用されたものであろう。



第1図　1872年(明治5年)，J.W. ハート実測地図より抜すい。
居留地120～122番附近。
建物表示のなかで，1 とあるのは Bricks，6 とあるのは Tiled & Plasterd，Inner frame of Woodを意味する。

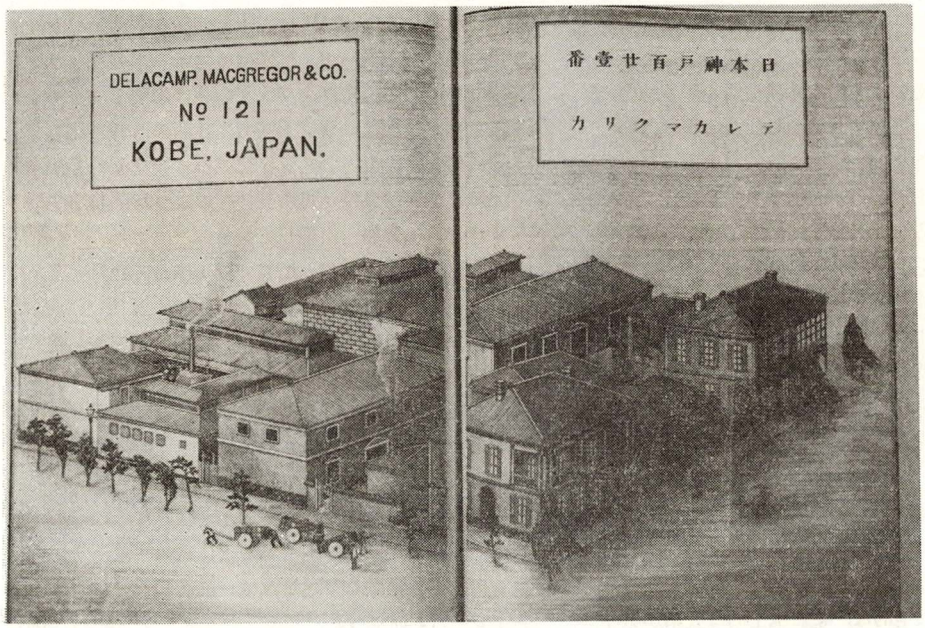
これはささいなことであるが，当時の職人達が洋風建築の摂取と同化につくした努力が，なみなみならぬものであったことを示す一例であるといえよう。

この時期に活躍した建築家は，前記のハートのほかスメドレー（J.Smedley），ストーリー・サン（Story, Son），ボンガー（W.C.Bonger），レスカス（J.Lesecasse），カストル（英字不詳），ミッチェル（Mitchel），オスラー（Astler）などがあげられ，ハートとレスカスは civil engineer の肩書きも使用している[4]。

彼等とその作品との関連を追求することは，重要なことであるが，まだ明らかでない面が多い。しかし，これらのうちスメドレーが堀越三郎博士のいわれるロシア公使館（1877）の設計者であり，レスカスがドイツ公使館（1881）の作者であると推定することはできる[5]。またスメドレーは神戸における最初のカソリック教会堂（居留地37番）の設計者でもあった[6]。

これらの建築家のうち，神戸に永く在住したものは，ボンガーやオスラー，カストル，ミッチェル等であり，ハートをはじめとして，他は明治10年前後までに神戸を離れた可能性が強い。

いま，便宜的に居留地121番，122番について，そこに建てられた建物の変遷をたどってみたい。それは，明治初期より中期にかけて，変化していった居留地建築の一般的な動きを理解することになるからである。最初この土地は第三回競売（明治3年）によって，100坪当り約1,000円という当時としては最高価格で121番は英人ハルト，122番は米人イーバイルンに落札された。これは税関を目の前にした地の利のゆえであろう。明治5年の実測図[7]によると**第1図**のような建物の配置がある。122番には四棟がみられるが，中央のもっとも大きいのが母屋となる商館であり，右上の一棟はいわゆる〝あまさんの部屋〟と呼ばれた附属家であり，他は納屋もしく



第2図　デラカンプ商会（日本絵入商人録載，横浜市史編集室蔵）

は便所とさらに1の表示のある煉瓦造倉庫が考えられるのである。このような配置は，当時の商館のもっとも一般的な配置であった。その後，約十数年を経過した明治18年に刊行された〝日本絵入商人録[8]〟をみると，ちょうどこの敷地の増築の経過がわかるのである。それは**第2図**にみられるように121番，122番はデラカンプ・マクグリゴア商会の所有となって，その敷地は，120番，123番にまで拡大され，建物が敷地一杯に建てられている。第2図で一番右側の二階建洋館は，明治5年の実測図にみられる母屋であった建物であり，それより左へ前記の附属家，そして細長い建物は煉瓦造の倉庫であることが判る。明治初年の対外貿易は，輸出の大半が，生糸および茶によって占められており，今日のごとく，倉庫業を営む倉庫群もなく，これらの物資は事務所，住居とともに，それぞれの敷地内の倉庫，作業場に収納されていた。倉庫や作業場等はすべて土蔵式の塗籠め仕上げや，洋風に似せて目地を切り，隅石を貼ったものなどがあり倉庫は多く二階建で，小さな開口部に鉄扉をつけ，外部にペヂメント風の飾りを用いたものがある。作業場は平家で寄棟越屋根が多い。

このような配置は，ほぼ明治10年前後に大体できあがっているが，明治20年代の中期に入ると，それまでの木造洋館をとりはらって，煉瓦化粧積みの建築に移っていくのである。それは写真（31頁参照）にみられるごとくで，デラカンプ商会は明治26年に当初の母屋であった洋館を除いて，オランダ式のバロックの煉瓦造事務所をたてている。この傾向は，たんに事務所に限らず，倉庫その他の建物にもおよんでいくのである。

§4．建築家ハンセルの来日と初期洋風の転換

明治20年をもって明治中期に入ると考えることは，一般文化史的にいわれているが，建築の分野においても同様である。それは日本人建築家の擡頭によって，それまで指導的位置にあった外人技術者の後退が行なわれ，初期洋風よりさらに本格的な建築が出現するからである。これら日本人建築家の一部は，たんに工部大学の卒業生であるというだけではなく，諸外国への留学を終え，欧米の新しい建築技術を修得して登場したのである。

このような転換が同じ時期に神戸においても，背景はまったく異なるが，外人建築家間の交代によって行なわれていることは興味深いのである。それは初期の外人建築家に対して，ヨーロッパの新しい建築思潮を身につけた建築家 A.N. ハンセルの来日である。彼はいままでまったく知られていなかったが，新進建築家としてその存在は既成の居留地建築形態に新風を吹き込むものであった。ここで彼の経歴について簡単にふれることとする。

Alex. N. Hansell は，1856年，北フランス，ノルマンディのカーンで生まれた。彼は僧侶であった父の厳格な躾の下で育てられ，家庭教師によって教育された。長じて建築家になることを志し，英国ウインチェスターにおいて，ある高名な建築家について5年間，その薫陶を受けたといわれる。そして明治20年，東洋への憧れと，青雲

の志を抱いて来日した。彼はその後，大正9年に日本を去るまで，実に30年間にわたって神戸に住み，日本への愛着を抱きながら，その間たゆみなく建築活動を続けた。ハンセルは，またF.R.I.B.A（The Fellow of The Royal Institute of British Architects）の資格をもっていたが[9]，日本においてこの資格を有していたのは，今まで，J.コンドルのみとされていた。

ハンセルは来日以来初期に形成された居留地の既成の建築にとらわれることなく，新しい感覚をもって，独特の作品を生みだしていった。彼の傑作であり，この期を代表する建築として，もっとも注目されるのは神戸クラブ（30頁参照）である。

神戸クラブは，石および煉瓦造で，アーケード・ロッジァを重層にもち，英国風なものにヴェランダを加味したユニークな様式であった。また，赤煉瓦を化粧積みにして，イギリス本国における19世紀後期のクイーン・アン・リヴァイヴァルの影響がみられるのである。ハンセルのこの傾向は，引続いて〝二代目クラブ・コンコルディア〟やデラカンプ商会などにうかがわれ，煉瓦を生かした手法をとり，赤煉瓦と石との美しい調和を目指していた。ハンセルはまた煉瓦については，その素材感や組積みにとくに関心をもっていたことは，その細部の各所にみられるのである。また神戸クラブの前庭に設けられた茅葺の農家風な小屋は，中世的なものや，東洋的な趣味を意識したピクチァレスクの思想を感じとることができる。

この時期に活動した建築家については，初期のものの大半は退去し，ボンガーやミッチェル，ガリバー等の名がみられるようである。しかし彼等と作品とのはっきりとした結びつきが，まだ明らかでないために，一応ハンセルの作品を中心に述べることとする。

この時期は前に述べたように，初期の二階建倉庫や作業場がとり払われて，煉瓦造商館や，さらに高層の倉庫に建て替えられて行くのであるが，前記デラカンプ商会のごときはその好例といえよう。ここで，一般的にいえることは，初期の塗壁，工法のみに限られていたものが，煉瓦造とともに木造下見板張りのものが現われてくることである。

またデカランプ商会にみられるオランダ式，バロック的な手法は，当初大阪川口居留地にあって，その後京都に移った平安女学院の〝明治館〟（明治27年の建築）にもうかがわれるのである。（設計者は「英人技師ハルセン氏」と伝えられているが，ハンセルのことを指すものと推定される。）

また前記高橋氏の記録になる居留地の一洋館（窓台の下に〝56番1895〟の銘）もその手法よりみて同一の系列に属するものであろう。

このほか明治初期に和蘭人建築家ボンガーの設計に成ったと思われる〝初代クラブ・コンコルディア〟（28頁参照）の建物は，火災で失われ，新しく123番，126番にハンセルの手によって二代目として再建せられた。この建物は（30頁参照）さきの神戸クラブに類似した手法をとり，一階ヴェランダに鋳鉄の柱が用いられている。

しかし，この20年代に開港当初より，神戸で活躍していた外人建築家達があいついで亡くなり，以後はハンセルの独壇場の感を呈するのである。

§ 5. 居留地洋館の全盛と急速な衰退

ここでは，明治32年7月17日の居留地解消前後より，大正初期までをとりあつかうこととする。

居留地は，かねてより不平等条約として，その解消が唱えられていたが，明治27年の日英航海通商条約の締結によって，実現することとなり，明治32年居留地は，その所在の日本国市区に編入され，地方組織の一部になることとなった。しかし，土地および家屋についての永久借地権は，既得権として存続し，そのため日本人商社の居留地内進出は，大正初期までなお困難であった。

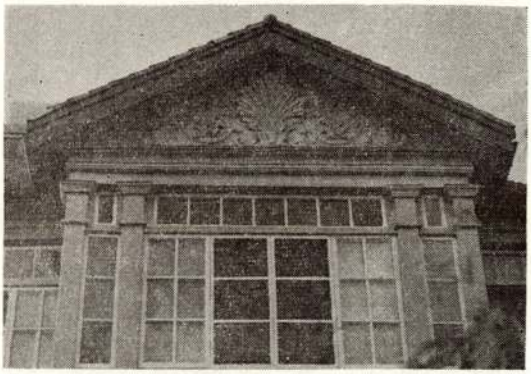
この時期は，中期に引続いて，ハンセルによってその主導権がとられていたのであるが，ようやく，日本人建築家が地方に進出し，同時に居留地の周辺にも，政府機構や大資本と結びついた民間建物が出現するにいたった。その代表的なものは工部大学第一回卒業の曽根辰蔵の手になる〝三菱合資会社神戸支店（明治30年〜明治33年）であり，山口半六の兵庫県庁（明治32年〜明治35年），河合浩蔵の神戸地方および区裁判所（明治33年〜明治37年）などである。しかし，元居留地内においても，東洋における英国系資本の大銀行として，その地位を保っていた香港上海銀行が建てられた。そこにはかって初期の頃の，ウオルシュ・ホール商会の社屋があったのであるが，これを撤去して，新たにハンセルの手による建物が新築されたのである。様式は南方植民地風というべきものであるが，その手法は，石・煉瓦による本格的な西洋建築の伝統によるものであった。

また，明治31年に青島租借に成功したドイツ帝国は，極東における地位を固めるため，神戸においても，領事館を115番に新築した（明治33年〜明治34年）。これは，さきの神戸クラブやクラブ・コンコルディアにみられるハンセルの一連の作風にのるものであるが，様式的には19世紀中葉ドイツにおいて流行した円形アーチ風（ルントボーゲンシュテール）や，フランス風の腰高屋根（スゴン・アンピール式）[10]の影響を意識したものであろう。

この建物は戦災で失われたが，その威容は6番に建てられたオリエンタル・ホテル（後説）とともに，神戸海岸通りの双璧たるの観があった。



張出し窓 （オーリエル・ウインドー） の一例



破風にみられる忍冬模様風の花飾りとから草模様

このほか，居留地83番にジャーデン・マヂソンの社屋が，明治36年から同37年にかけて竣工している。これは赤煉瓦造三階建で英国風の落着きをもち，さきの居留地56番にみられる煉瓦造洋館の発展形成であるといえよう。このようにハンセルは，来日以来その豊かな才能を生かして，居留地内外に多くの作品を手がけ，終始地方都市の建築家として活躍した。

しかし，このようななかで，明治40年竣工したオリエンタル・ホテルは，競技設計の結果，来日間もないドイツの新進建築家ゲオルグ・デ・ラランデ (Georg De Lalande 1872～1912) の手になるものであった。それはいかにもバロックの遺風を伝える近世ドイツ風の建物で東北角にあったゴシック風のピナクル（飾り尖塔）はよく知られ，さきの香港上海銀行と並んで，明治後期海岸通に建つ二大建築であった。

けれどもこの時期には，明治28年，鉄骨建築の先駆となった東京の秀英社印刷工場の出現や，明治35年にできた三井銀行本店の床や，小屋組に架けられた鉄骨構造[11]さらに明治39年，当時三菱合資会社和田建築所長であった白石直治が，東京倉庫のために設計した日本最初の鉄筋コンクリート造である倉庫が，神戸和田岬にでき上るなど，ようやく新しい技術と構造方式が登場するのである。このような情勢のなかに，ハンセルは，和田岬東京倉庫よりわずかに早く，明治37年から同38年にかけて居留地107番に鉄筋コンクリート造三階建洋館を設計したといわれる。この建物は戦災をうけたが現存しておりその架構方式，配筋方法に稚拙な手法がみられ，鉄筋コンクリート導入期の姿を暗示するものである。この建物の建築年代は金子隆一翁[12]の記憶に基づくものであり，推定の域をでないが，注目すべき内容を蔵するものといえよう。ハンセルはさきの香港上海銀行においても，その一，二階床組に鋼鉄梁を採用しており，新しい技術に対しても意欲的な心構えがうかがわれるのである。

明治30年代，居留地は行政上の形式としては解消されたが，実際上の勢力は存続し，ハンセルの活動はむしろ高揚の感を呈していた。しかし，明治末期より大正初期にかけて居留地内の建築数は減少し，大正3年に勃発した世界大戦によって，在留外国人の勢力は分裂し，日本商社の進出があって，彼らの立場は急速に衰退をとげていく。このことは，同時に建築活動を弱めるものであり，ここに明治初年より約50年にわたって持続し，蓄積されていった彼らの建築的地盤は，そのほとんどを失なうことになるのである。

§6. 山手の木造洋館

神戸の三の宮駅に列車が入ろうとすると，北側の山麓に色とりどりの洋館群が目に入るであろう。それらのなかには，戦前，戦後の新しいものにまざって，明治の中期にまで遡る古い洋館の存在をみとめることができる。

かって居留地の成立は，必然的に専用住宅地の形成を促すのであるが，それは横浜の関内といわれる居留地と山手 (bluff) と呼ばれる住宅地帯との関係と同様である。

開港当初，居留地の造成が遅れ，そのために外人雑居地が居留地周辺に設けられたが，その雑居地は，やがていまの国鉄を越えて，山手一帯に拡大されるにいたった。この地帯の建物は明治初期のものであるが，戦災その他によって失なわれ，詳細は不明である。しかし，幸い山麓に残された数十棟の洋館群は，明治中期に建てられたものが多く，開港場にのみ残された特異な外人住宅群として注目すべきものである。

これらの建物にみられる様式ないし技術はもとより，外人建築家の指導によったものであるが，同時にそれはその指導下にあった日本人職方の反応と，努力の在り方を具体的に示したものである。

今回はただ現存しているもののうちから，意匠上または構造上代表的と思われるものをとりあげてみることとす

る。

まず，一般的な特色は次のごとく分類することができる。

外観 1. ヴェランダを必ずもっている。
2. ベイウィンドー，オーリエルウィンドーなどを有している。
3. クラシックなモチーフを多く用いている。
4. 下見板張りでオイルペンキ塗りである。
5. 外部窓は上げ下げ窓で，鎧戸を有している。

平面 1. 中廊下式（箱型）と片廊下式（不整型）またそれらの組合せがある。
2. 母屋と附属家とにわかれ，渡り廊下でつながる。
3. 各室に暖炉を有している。
4. ベイウィンドーによって，空間的に変化を与えている。
5. 各室間の開口部は引込戸によっている。
6. 玄関ホールに階段をともなっている。
7. 二階各室は寝室となっている。

構造 1. 木造が主で，まれに木骨煉瓦帳壁造がある。
2. 屋根形式は寄棟には和小屋，切妻には洋小屋が通則（ただし例外もある）。
3. 基礎は煉瓦もしくは延石を使用する。
4. 階高がひじょうに高い。

設備 1. 便所は水洗式，浄化槽をもつ。
2. 電気の埋込配線は鉛被線を使用する。
3. 採暖は暖炉による。

これらは，設計者や建築主の意向によって多様であるが，基本的な点では共通した面を有している。

東天閣（明治27年竣工）は英人ガリバーの作といわれ平面的には中廊下式箱型プランである。主道路が東側にあるため，ヴェランダが東面してファサードになっている。屋根は寄棟であるが洋小屋組であり，大屋根がヴェランダの上にのり複柱で支えられている。基礎は煉瓦化粧積みで，延笠石の上に石造の柱台がのっている。階高は高く，階段室には飾窓があって色ガラスが美しく，尖頭アーチ風の枠組みである。

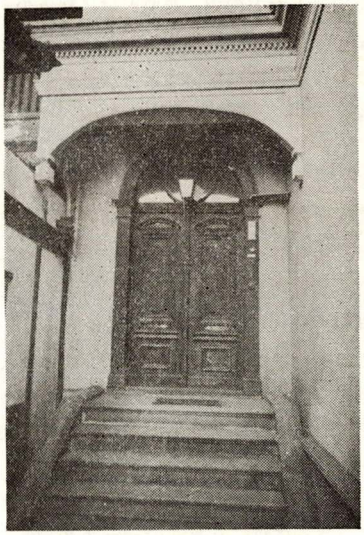
南側のベイウィンドーをもつ主室は，空間が効果的に生かされて明るい雰囲気をたたえている。暖炉はマントルピースに欅の彫刻を施し，バロック風の額縁をもった化粧鏡がはめられている。また炉端のタイルは花模様の写し焼きで，英国のミントンタイルである。他の洋館にもこの部分のタイルに，ミントン製のものが用いられている。さらに建具金物にも，細やかなうちだしのブロンズ製品が使用されている。

エズラ・シュエケ邸（明治29年竣工）は，かってハンセルが自邸として設計したもので，それだけに特色のある手法がみられる。平面的には片廊下式で，一，二階とも南側に三室をとり，中央部にヴェランダがある。北側は一部改造されているが，玄関，ホール，便所，バスルームなどがとられ，附属家は階段の踊場で連絡している。外観は各所にハンセル好みの手法が用いられているが，南面して左右ほぼ対称の構成をとり，切妻のハーフテンバーのモチーフと，ベイウィンドーとのつながりなどは，洗練された木造技術を必要とするものである。また他の洋館が洋風のクラシックなモチーフを多用しているのに反して，この建物は日本的な意匠を巧みにとり入れている。例えば，玄関屋根に流れ造りの形式を用い，大屋根の棟にのる鯱やヴェランダの手摺にみられる唐様・波連子のあつかいは，外人建築家が日本建築のディテールを鋭く観察して，それを面白くとり入れていることを示すものである。さらにヴェランダのバラスターコラム（手摺状柱）やサラセン風の飾り板など，他の洋館にみられないもので，ハンセルが意のおもむくままにあしらった感がある。構造的には洋小屋組（キング・ポスト）である。

これらの洋館の特色に下見板があるが，エズラ・シュエケ邸などに用いられた下見板は断面が楔状で水ぐりをつけ，とくに，外装下見板として作られたもので材質は米松である。このことは，ギーデオン著「時間・空間・建築」のなかにでてくるロングフエロー邸（米国）の下見板と同類のものであつて，そのなかでギーデオンは「アメリカで三世紀にわたつて用いられてきた下見板張りの壁」と述べている。これは建築材料として，欧州への重要な輸出品であったといわれるが，神戸においても，ハンセル邸のほか，もと北野寮，もとストロヴィー邸，山本寮などに使用されており，当時日本へも相当数の輸出が行なわれていたことを意味するものである。

もと**北野寮**は，中廊下式の典型的な箱型プランであり，南面してヴェランダをもち，室内は隅切りがとられてベイウィンドーの変形が感じられる。この建物の外部の意匠には，垢ぬけした美しさがあり，とくにヴェランダ廻りに豊富に用いられたクラシックなデザインは，ディテールもしっかりしていて見事である。それは神戸において，このような洋館の表現が，もはや稚拙な模倣の域を脱して，すでに充分消化されていたことを示すといえよう。北野寮は，もとストロヴィー邸などとともに，ハンセルの系列にのるものであるが，近く解体される運命にあり，目下その保存について，各方面の熱心な要請と対策が講ぜられている。

藤月荘（明治36年～37年竣工）は，いま残っている洋館のなかでもっとも規模が大きく，地理的にも高台にあって環境にもめぐまれ，神戸における洋館建築が到達した一つの頂点あるといえる。平面は片廊下式であり，エズラ・シュエケ邸などと同じ形式である。一階の客室や



藤月荘玄関。チユードル風のアーチとパンダント。

玄関ホールなどは，腰にリネンボードを嵌め，ブロークンペヂメントやアーキトレープ，天井のアンテミオン風の蛇腹など豪華な構成にジョージアン風の趣きがある。

また，玄関の庇についた弓型のペンダント，切妻のフィニアルなどは，ゴシック風であり，さらに東側に隣接するビリヤードルームの小屋組に用いられた釣小屋の手法は，ペンダントを生かす，ゴシック，リヴァイヴァルの影響が考えられるのである。構造的には木骨煉瓦帳壁造であり，外壁のスタッコ仕上げや，キングポストの小屋組など，元居留地〝江商〟などにつながる系列であるといえよう。[13]

また，いささか毛色が変るのであるが，**ロバートソン邸**は，和風の構成のなかに洋風の生活様式をもちこみ，たとえば，床の間の位置に暖炉が配されるなど（それは戦後駐留軍に接収されて改造された日本家屋の内部とは全く異なった），また襖や，障子で仕切られる洋風の室内空間は，近年アメリカなどで理解されている日本の伝統的な空間に対する認識と共通するものであって，その当時，すでに日本建築の空間を意識した外人建築主や優れた大工の手法のあったことを知るのである。

このように，神戸の木造洋館は明治初期開港場にあらわれた在留外国人の生活を中心として，外国人建築家の存在，さらに日本人職方の協働があって生まれており，また，様式主義の全盛期と結びついて，その内容は多彩であった。

そして，神戸がおのずからそなえている異国的な雰囲気は，みなとがあることとともに，このような地についた洋館建築が，数十年の風雪にたえて息づいているからであるともいえよう。

—む す び—

神戸の洋館の変遷については，さらに教会堂や神戸女学院，関西学院などミッション系の学校々舎，倉庫群，また洋館の形成にあずかって力のあった下部組織としての生産機構や地方的な影響など，とりあつかうべき範囲は広いが，紙数に制限があるため，今回はふれないこととする。

なおこの文を綴るにあたって，ひじょうに多くの方々の懇切なご指導と，ご協力を賜った。それは建築協会近代建築調査委員会の滝沢真弓委員長，政岡基次，林野全孝幹事らをはじめとする各委員，また東京大学稲垣栄三氏，都立大学桐敷真次郎氏や，調査について心よく受け入れて下さり，また資料を提携していただいた多くの内外人の方々に対して，深く感謝の意を表したいと思う。

〔参 考 文 献〕

1) 稲垣栄三：日本の近代建築—その成立過程—
2) 神戸市役所編：神戸市史　本篇各説による
3) 横浜市：横浜市史　第2巻
4.13) 坂本勝比古：神戸居留地の成立過程と現存する一洋館について，学会報告論文　第66号　1960
5) 堀越三郎：明治初期の洋風建築
6) The Kobe & OSaka Press : Kobe-The Premier Port of Japan 1933
7) 神戸市役所編：再版　神戸市史附図
8) 横浜市史編集室蔵：日本絵入商人録　明治19年刊
9) 神戸市図書館蔵：The Kobe Directory 1913
10) 桐敷真次郎：明治初期洋風建築におけるヴェランダ・モチーフ　学会報告論文　第63号　1959.
11) 村松貞次郎：日本建築技術史—近代建築技術の成り立ち—
12) 金子隆一翁：明治14年神戸に生まれ，幼少のころより父親について洋館建築の現場に出入りし，意匠としてハンセルの作品に関係していた。

（筆者　神戸市建築局営繕第一課）

天井・間仕切には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・
耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工
株式会社 奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町五六番地
電話北㉔四一三一～四

＝特許＝
氣光式通風器 製造販売
南北式レヂスター
特許第一五一三六号
カタログ進呈
大阪市西区江戸堀下通2-17
田辺工業株式会社
電話土佐堀㊹7437—9

欧米木造技法の伝統と神戸の木造洋館

桐　敷　真　次　郎

§1. はしがき

さきに，明治初期洋風建築の一大特色であるヴェランダ・モチーフについて，その源流や国際的意義を，いろいろと考察したことがある[1]。当時，筆者は，戦災後の神戸にまだ多数の木造洋風住宅が残されていることを知らなかった。1960年3月に，坂本勝比古氏に案内していただき，神戸山の手の住宅街をみて，おびただしいヴェランダの出現に驚かされた。坂本氏の敬服すべき努力にもかかわらず，これら洋館の編年には，まだ残されている問題が少なくない。しかし，坂本氏の調査で明らかになったものと照合した結果では，さきの筆者の考察と格別矛盾するものはなく，それぞれのタイプのあるべき年代に，きれいに収まるようである。ただ，先の考察は，けっきょく英文原稿の下書きとして書いた形になったので[2]，多くの方々からもっと詳細な説明を求められることが多く，機会をみて，より説明的なものを書くつもりでいたが，果せずにいた。また，先の考察は，ヴェランダのある建築全般についての綜括的な展望であって，特に木造建築については，別に補足的な記述が必要であると考えていた。スペースの関係で，本稿によって，それらの責を完全にふさぐことはできないが，以下の考察が，初期木造洋館の研究に幾分かでも役立てば，望外の幸わせである。

§2. 19世紀建築の特質

神戸の居留地は，イギリス人が指導権を握っていたといわれる。しかし，それだからといって，神戸の洋館はすべてイギリス式だとは必ずしもいえない。なるほど，神戸の木造洋館のグループは，その洋風らしさという点で，ユニークな存在であり，英人建築家や独人建築家の活動をあとづけることができるのであるが，それだけでは必ずしも建物の性格がイギリス的であり，ドイツ的であることを意味するものではない。同じように，アメリカ人やフランス人が指導したからといって，必ずしも建物がアメリカ様式，フランス洋式になるわけではない。アメリカ人がイギリスやフランスの中世建築を熱烈に信奉してた時代であったし，イギリス人がイタリアやスイスの別荘を大真面目で造った時代なのである。特に独立住宅については，このような傾向が著しい。これは，各国の19世紀建築，ことに住宅建築の動向をみるとき，直ちに気ずかれる顕著な特色である。その理由は，当時の各国の建築界や建築教育の状態のなかにみいだすことができる。いわば，ほとんどすべての国の民族的建築スタイルと建築技法の知識が国際的にプールされており，場合に応じて誰もが任意に採択できる状態にあった。われわれは，明治初期の洋風建築について，幾人かの先達から，その様式的変遷について聞く。曰く，はじめにアメリカ風，次いでイギリス風，フランス風，そしてドイツ風が入った，と。しかし，このような変遷説を実例に照してみると，それがほとんど何事も説明してくれないことは，誰の目にも明らかなはずである。その理由は，まさに上に記したような事情にある。それぞれのスタイルやモチーフの源泉はある。純粋な国民的スタイルというものもあり得る。しかし，それらのいずれも，その建物の直接の国籍を保証しないのである。

筆者が，ヴェランダというモチーフとその源泉をとりあげ，イギリス風とかアメリカ風とかいう茫漠たるスタイルに言及しなかったのは，主としてこのような理由からである。単なるイギリス風ではなく，イギリスのリージェンシイ・スタッコとか，イギリスの70年代のクィーン・アンとか，同時期のアメリカのクィーン・アンというような，より細かい分類によって，はじめて意味が生れてくるものもそのためである。まずスタイルや技術の

共有という前提があって，次にそれらの中での特定のタイプの流行という微妙で迅速な変化があり，さらにそれらの実現を許したり制限したりする各地の特殊事情がある。たとえで説明しよう。誰もが数十枚のカードを握っている。そのうち十数枚は高級すぎ，他の十数枚もよく知らないので使えない。残りの半分は時代おくれであり，他の半分だけが好みにかなう。しかし，土地の事情で実現し得るもの，しやすいものは，ひとつふたつしか残らない。それも部分的に修正したり，省略したり，他のものと組合せたりして，最終の決定がなされる。いくらか自由が利くのは細部だけである。こうした19世紀後期的プロセスはまた，必ずしも建築の発展という生長の概念と合致しないわけではない。イギリスのドメスティック・リヴァイヴァルや，アメリカのスティック・スタイルやクィーン・アンは，そのような折衷主義的プロセスのなかで，変化する時代の要求と理想を満足させる平面の展開を行なっていったのである。

以上のような19世紀建築の基本的性格は，わが国の初期洋館にどのような関係をもっているであろうか。慣れない外国様式を輸入するということそのものから生ずる歪みは，たとえ建築家が外国人であっても避けられない。同じヨーロッパ文化圏のなかでも，古来，外国様式の完全な模倣や移殖に成功した国はない。ゴシック然り，ルネサンス然りで，とくに初期にはなおさらである。19世期後期においては，そうした一般的屈折のうえに，すでに述べたような，知識の共有，特定タイプの流行，各地の特殊事情という複雑な要素が，いかなる時代よりも自由に豊富に組合せられている。神戸の洋館も，その例外ではあり得ないのである。

§ 3. イギリスの木造技法と煉瓦造スタッコ

日本が開国した時，交渉のあった諸外国の多くは，すでに組積造の伝統を確立していた。アーキテクチャーと呼ばれる建築は，ほとんどすべて組積造であり，木造の建物はまずアーキテクチャーの部類に入らなかった。しかし，これらの国々といえども，木造建築が全くなかったわけでもない。欧米諸国のなかにも，19世紀中期には（さらに現代においても），日本と同様な意味での木造の国がいくつかあった。スカンジナヴィア，オーストリア，スイス，そしてアメリカである。これらの国では，独立住宅のほとんどが木造であったから，公共建築や都市住宅における組積造と平行して，木造住宅の伝統もまた持続していた。これら木造国の木造建築を互いに比較してみると，風土や時代や国情の相違を越えて，手法に似通った点が多く，われわれが西洋建築の通史で知っている組積造の歴史とは全く異なったひとつのまとまりを形づくっていることが判る。まず，木材の豊富な国ではヨーロッパであろうと，アジアであろうと，たとえ石材があっても，木造が主流となるという事実。そして建築の根本的性格が，まず何よりも，その木材という材料で決定されてしまうという，当り前の事実を改めて思い知らされているからである。

しかし，近世ヨーロッパにおいては，木造の建物は木造として進んだ。木造の建物は，まずアーキテクチャーと考えられず，建築家が関係する機会が少なかったから，石造や煉瓦造を克明に模写する必要がなかった。そのような必要や要求がある場合は，はじめから組積造にすればよいのであって，木造に無理強いをすることはない。また火災に対する顧慮から，木造国であるスカンジナヴィア，オーストリア，スイスでも，都心部の建物は組積造にするのが常識であった。つまり近世ヨーロッパでは，たとえ木造国であっても，木造と組積造が，場合に応じてどちらでも任意に採りあげられる二種の道具であった。建築家が木造を採り上げる場合は，たとえばピクチャレスクの建築のように，何か特別の意図を持った場合である。いずれにせよ，木造は木材を素直に生かすことによって，独自の伝統を保っていたのである。

問題は，木造の伝統しか持っていない国，あるいはそれに近い状態の国で起ってくる。日本やアメリカがそれである。こうした国では，一部の記念的な公共建築を除いて，組積造が用いられることは稀で，多くの公共建築物，大半の大邸宅を木造で建てねばならなかった。17世紀のアメリカでは，各所の開拓地で，ヨーロッパの母国の木造手法をもとにして素朴な住宅を建てていた。しかし，開拓地の生活が向上するにつれ，木造に対して石造や煉瓦造の表現を強制するようになっていった。これは主導的立場にあったイギリス系移民が，英本国の文化と生活のパタンを至上の範例としたことから生じたのである。

イギリスの木造建築の伝統とは，ハーフチンバーと下見板張りである。チューダー期に完成されたハーフチンバーは，太い角材を枘差し込栓打ちで組立てた軸組に，木舞下地にプラスター，あるいは軸組間に煉瓦をつめて帳壁とし，プラスターで仕上げた真壁の建物である。同じハーフチンバーでも，北西部イギリスでは，壁に水平材が幾段も入り，真壁のパネリが正方形に近く，おびただしい数の彎曲した筋違を入れる。東南部や南部や大陸北岸に下るほど，垂直材が多く，密に立てられ，水平材や筋違が少なくなる。中世末期に完成されたとはいえ，この手法は19世紀前期まで，300年にわたってイギリス北フランス，北ドイツの木造民家の基本形式であった。

これに対して下見張りは，イギリスでweather-boardingと呼ばれているように，南部やイーストアングリアの海岸のような風雨の烈しい地域に用いられた壁であり，決してイギリス木造建築の一般的特色とはいえない。歴史

的にみても，まずハーフチンバーがあって，その上に風雨に強い外皮をかぶせるようになったのであって，比較的新しい手法なのである。ちなみに，18世紀・19世紀を通じて，下見板の寸法は，だいたい7×¾×¼インチのクサビ形断面の巾広いもので，通例タールを塗って腐朽を防いだ。

下見張りの廉価と実用性に目をつけたのは初期のエンジニアであった。風車小屋，水力紡績工場，醸造場のような産業建築にうってつけの材料と考えられたのである[3]。1784年から1850年に至るまで，煉瓦に対する課税があったことも[4]，この時期に多い理由となるだろう。安建築は木造で，というのが，この時期の南部諸県における木造復活の基調なのである。

下見板ほど用いられなかったが，下見張よりさらに風雨に強い木造用の壁仕上げとして，シングルとタイル・ハンギングがある。シングルは，長方形の板をウロコのように壁に打ちつけるもので，屋根葺材にもなり得る。タイル・ハンギングはシングルの板の代りにタイルを用いるもので，すなわち瓦張りである。これにもいろいろのタイプがある。おもしろいのは，18世紀末から現われる南部諸県のもので，全く煉瓦壁と見分けがつかないくらい巧妙に造られているものがある。木造で煉瓦造を模するとすれば，これ以上の材料はない。しかし，このようなタイルが焼けるということは，煉瓦の国だからできることなのであって，もし煉瓦税がなければ無用のものであったろう。神戸の洋館にはみられないが，日本の初期洋風建築で，ナマコ壁が外人にやすやすと是認されているのも，それが一種のタイル・ハンギングとみなされたからにほかならない。

もうひとつ重要な木造手法として，プラスターによる大壁がある。これは，やはりイーストアングリアなどで，16世紀・17世紀に行なわれたもので，ハーフチンバーの壁を軸部まで全部プラスターで塗りあげてしまう。とくに17世紀後期によく行なわれたらしく，後にノーマン・ショーのクィーン・アンとして知られた近世民家の一典型は，この系統の，一部大壁づくりのハーフチンバーであった。プラスターの大壁は，木摺を打って下地とすることもあり，煉瓦のインフィリングの上から直接塗り上げているのもある。前者のなかには，石造を模した目地切りを施したものがみられ，バロック時代のヨーロッパのプラスターの活用ぶりの一端を示しているし，これがまた18世紀末から19世紀中期までのスタッコの普及につながるのである[5]。

1770年代からのスタッコは，もはや単に石灰・砂・水・牛の毛の混合物ではなく，セメントを用いてとくに外装用として強化されたプラスターである。このセメントとは各種の天然セメントであって，リアルデーのパテント・スタッコ，ヒギンスのセメント，パーカーのローマン・セメント，また1820年頃には，ヘイムリンのマスチックとか，デールのマスチックとか，いろいろの特許があった。これらのスタッコは，もともと煉瓦造の建物を石造にみせかけるために工夫されたものであって，はじめは目地切りや彩色を施して石に似せる努力がなされたが，1840～50年頃になると，全く今日リージェンシイの典型的な壁仕上げとみなされているフラットな面に仕上げられるようになる。

スタッコの技法は，グリーコ・リヴァイヴァルや，その系統をひくリージェンシイの建築で広く用いられたのであって，当時，安建築を上等にみせるもっとも便利で有益な方法と考えられていた。それに対して，18世紀後期から19世紀前期まで，むきだしの煉瓦の壁は，低級なもの，みすぼらしいものとみられていたのである。リージェンシイ・スタッコの影響は，19世紀中期後期の北西ヨーロッパでは決定的である。もともとプラスター塗りの伝統があった地中海沿岸は別として，オースマンのパリも，ストックホルムもオスロも，スタッコの街並で満たされた。ポートランド・セメントの発明がスタッコの普及を一般的なものにしたことはもちろんだが，その下地はナッシュのロンドンで形づくられていたのである。むきだしの煉瓦壁が再び好まれるのは，ゴシック・リヴァイヴァルの思想がゆきわたって，人々の眼が中世後期や近世初期に惹きつけられるようになってきてからである。イギリスでは，「赤い家」がそうした意味での先駆であり，60年代・70年代のドメスティック・リヴァイヴァルがその推進力であった。他のヨーロッパ諸国やアメリカでも，やや遅れてそのあとを追うのである。

§4. アメリカにおける木造技法

アメリカは，イギリスを中心とする北西部ヨーロッパから，その基礎的な木造技法のすべてを導入したのであるが，その各種技法に与えたウエイトは全く異なっていた。まず木造民家の基本形式だったハーフチンバーが，北米のきびしい気候に耐えられず，たちまち抛棄されてしまうことである。すでに建てられたハーフチンバーには，急いでその上から下見板を打ちつけねば，隙間風を防げなかった。シングルも用いられた。イギリスでは補助的な役割しか持たなかった下見張りやシングルが，アメリカでは主役を演じなければならなかった。

下見張りのシングルに対する優位は，イギリスにおける状態をそのまま反映した上，さらに石造，煉瓦造のジョージアン建築の模写に適するという点で，決定的なものとなった。下見張りは単に木造の皮膜としての役割だけでなく，煉瓦造や石造の壁に代るという役割も果さなければならなかった。組積造は，ごく少数の建物にしか行なわれなかったからである。18世紀のアメリカにおい

ては，木造と組積造は，ヨーロッパにおけるような平行する二種の技法ではなく，アメリカは圧倒的に木造の国であった。この点に関しては，アメリカほど日本に似た事情をもっていた国はまず見当らない。

アメリカの完成された下見張木造ジョージアン住宅はこのような条件の下で到達した最高の木造技術を示しており，その完成度の高さは，イギリスの原型をはるかに抜いている。粗いイギリス下見は，ナロー・サィディングという巾の極めて狭い下見張りによって，きめ細かに，優雅に，均質なものになった。この見事な順応は，ジョージアン住宅というものが，開口部の注意深い比例に主な重点を置くという，きわめて抑制されたプリンシプルを骨格にしている簡素な平担なスタイルだから可能だったのである。しかし18世紀の末，ヨーロッパのクラシカル・リヴァィヴァル，ローマ式とギリシャ式の再興がアメリカに波及していった時，簡素で質実な木造下見張りとの間にようやく成立しかけたバランスが崩れた。アメリカはモニュメンタルな大邸宅をしばしば木造で造らなければならなくなったからである。1850年までの邸宅建築を調べてゆくと，とくに南部において，木造によって石造を模す技術が極めつくされて，しかもついに真の石造にはみえない，という努力のあとをみることができる。木造壁の表面をいかにいじくっても，石造の重量感と厚みはでてこない。やはり，薄べったい偽の壁にみえるのである。ジョージアン住宅の人間的規模を離れてモニュメンタルなスケールを表現しようとすればするほど，そうした欠点があらわになった。

しかし，日本の開国も近い1840年代には，アメリカの木造建築に大きな変革が起って，木造建築が木造の本質を取りもどすにいたる。その原動力となったのは，やはり英本国の変化で，ロマンチシズム，中世主義，ピクチャレスクの思想である。また，40年代に，アメリカが主流建築の組積造において，イギリスの水準にようやく追いついたことも，大きな原動力であった。つまり，木造建築は重すぎる任務を組積造にゆずって，木造の道に帰ることを許されたからである。さらに，ピクチャレスクの思想が，建築家の眼を，木造につなぎとめたのであった。クラシカルの思想と対照的に，ピクチャレスクの思想は，中世的なもの，エギゾチックなもの，とくに東方的なもの，民芸調のものを楽しむ。中国のパゴダやあずまや，ゴシックの廃墟，イスラムのヴェランダ，スイスの田舎家，これらすべてがピクチャレスクなのである。この思想は，イギリスでは，すでに1790年前後から具体化されていた。1840年代にいたって，アメリカは，はじめてその洗礼を受ける余裕を生じたのであった。

40年代のアメリカにショックを与えたのは，30年代のイギリスで流行した，いわゆるスイス・コテジである。ハーフチンバーの壁，大きな緩い傾斜の屋根，深く突き出た軒とそれを支えるブラッケット，スイス・ギャラリーと呼ばれる山小屋的ヴェランダ，どの要素も木造らしさの極致というべき特色である。そして，中世的なもの，エギゾチズム，民芸趣味のいずれの条件も満足させている。ヴィクトリア朝イギリスの郊外住宅の平面と，このスイス・コテジのデザインを組合せて造られた40年代・50年代のアメリカ住宅が，ブラッケッテッド・モードとか，推進者ダウニング A.J. Downing（1815〜52）の名をとって，ダウニング・ハウスとか呼ばれているタイプである[6]。

もちろんアメリカでは，ハーフチンバーは，造型的には理想であっても，実用上は適当でない。ダウニングは下見張りでなく，目板羽目を推奨した。色も従来の白ペイントでなく，グレーかベージュとした。その他，各室に張出窓をつけ，十分なヴェランダ・スペースをとり，すべての細部はチューダー式とする。すなわちバージボード，4点アーチ（チューダー・アーチ），ブラケット，フィニアル，ペンダントなどである。住宅におけるゴシック・リヴァィヴァルが，この時期からすでにチューダーを指向していることに注意したい。

下見張りの発生契機について，すでに述べてあるのでブラケッテッド・モードの隆盛期に発達し，当時シカゴ・コンストラクションと呼ばれたバルーン・フレーム（軽構造）については簡単に触れるだけでよいと思う。結論からいえば，バルーン・フレームが発明されたから板張り木造が行なわれたのではなく，アメリカでは板張り壁が絶対に必要だったから，バルーン・フレームがあれほど普及したのである。実際，現在にいたるまで，アメリカの木造の軸組の工法は，1）少数の規格材しか用いない真のバルーン・フレームと，2）伝統的な枘差軸組を修正した方式で種々の断面を持つ材を組合せるコンビネーション・フレーム，の二種の伝統が平行して残っている。これらの前に，イギリス式の重々しい枘差込栓打の軸組があって，これも1860〜70年ぐらいまで行なわれていた。従って，アメリカの木造軸組といっても，かなり多様でフレキシブルなものと考えてよいと思う。

次に，1860年代からのスティック・スタイルを見ると目板羽目，あるいはヨロイ下見の上に，ハーフチンバーを模したスティックを張るという点を除いて，ブラッケッテッド・モードの自然な発展と考えられ，その特色を継承し，自由に活用している。ハーフチンバーそのものがチューダーなのだから，他のチューダー的特色も失なわれないし，大きなヴェランダもそのまま引継がれてゆく。ゴシックとか，スイスとか，チューダーとか歴史的様式にこだわらず，他の細かいモチーフも適宜に取捨して，ただピクチャレスクなものを自由につくることに帰着する。

結論として，1840年から70年代までの木造住宅の展開

は，自由に組立てられた変化や凹凸の多い骨格の上に，板壁を張ったハリボテ木造建築技術の確立の期間であるということができる。ブラケッテッド・モードや初期のスティック・スタイルは，いわばその先端的な試みであり，自由な平面計画の発展を積極的に助けていたのである。

ヨーロッパの木造国の状況については，アメリカほど画期的な変化が認められない。もちろん。イギリス住宅の影響が大きく，1790年来イギリスで蓄積されてきたコテジ建築が，ゴシック・リヴァィヴァルという主流建築の運動を機にして，急速に国際的なものになる。たとえば，デンマークでは，1840年代にイギリス風のコテジが現われはじめるし[7]，ノルウェーでは50年代にスイス・スタイルが現われはじめるのである[8]。しかし，アメリカにみられたような木造建築の可能性のエネルギッシュな追求は，すでに述べたような理由によって，格別行なわれなかったのだと考えられる。すなわち，19世紀後期の木造建築の主流は，決定的にアングロ・アメリカンであり，その知識が国際的にプールされていたと考えるのが至当であろう。

§ 5. イギリスとアメリカのクィーン・アン

木造の民家やコテジや産業建築が，かなり造られていたにせよ，イギリスにおいては，主要材料はやはり煉瓦造であり，建築家が純粋な木造を手がけることは稀であった。1860年頃からの，ウェッブ，ネスフィールド，ショウなどによって推進された住宅運動でも，煉瓦造が中心であって，そこに半ば後期ゴシック，半ば初期ルネサンスという要素を強く盛り込むことによって，独特の住宅形式のいくつかを生みだしたのである。方法としては，伝統のなかの不朽の魅力を探り，それらを自由に構成するという折衷主義の一派であるが，自由な平面と自由な構成を用いたために，歴史的様式のなかで比較的自由な取扱いの利く，中世から近世への過渡期が選ばれたものであろう。

一般にノーマン・ショーのクィーン・アンと呼ばれているスタイルは，窓のサッシュを除けば，本当のクィーン・アン時代の様式とは，それほど深い関係がない。それは，中世後期と近世初期の巧妙な融合に長じていたショーが，17世紀のモチーフに心を奪われていた時期の作品というほどの意味なのである。ショーにとっては，いかなるスタイルも思いのままにこなせる道具であったので，クィーン・アンの前には，ネオ・チューダー（リースウッド，グリムスダイク）で建築界を驚かし，クィーン・アンのあとでは，近世民家（クィーン・アン時代前後の民家）のスタイルで建主たちを喜ばせたのである。いずれにせよ，この期にイギリスの一流の建築家が建てていた住宅は，一種独特の高度の熟練と完成感を示しており，アメリカにせよ，日本にせよ，他国が容易に輸入したり模倣したりできるようなものではなかった。

従って，アメリカはショーの作品から大きなショックを受け，熱狂的にショーを崇拝したが，アメリカでクィーン・アン・スタイルとして理解されたものは，実際のクィーン・アンとは，さらに関係が薄くなっている。1870年代のアメリカにおけるクィーン・アン・リヴァィヴァルなるものを，同時代のアメリカ人の眼からみると，エリザベス式，ジェームズ二世式，フランソワ一世式などのごとき「フリー・クラシック」と，同時代の「コテジ・アーキテクチャー」の影響を混じたものであって[9]，建物の輪郭は，ピクチャレスクでゴシック的な変化と，自由で大胆な構成を持ち，それに対して，細部はクラシカルである。コテジ風の特色は，壁面の一部をハーフチンバーにし，一部をタイル・ハンギングにするといった取扱いや，大きな煙突にみられる。

こうした特色から理解されることは，アメリカにおけるクィーン・アンとは，ショーの作品のなかでも，もっとも中世に近いもの，たとえばリースウッド（一階は煉瓦，二階はタイル・ハングと模造ハーフチンバー・パネル）に示されたような手法をさしているようである。また1876年のフィラデルフィアの博覧会に出品されたショー・スタイルのイギリス住宅二戸（ハーフチンバーのコテジ・スタイル）も，イングリッシ・ゴシックとかエリザベサンとか呼ばれたほか，クィーン・アンとも呼ばれている。要するに，アメリカのクィーン・アンとは，コテジ，それもチューダーあるいはエリザベスのハーフチンバーと，フリー・クラシックの細部，そしてタイル・ハングやシングルの活用を中心とした独特の混合体である。木造に適した選択と考えられる。

リースウッドの本体は煉瓦造であるが，その衣裳は木造にも適用できるものであり，とくにシングルの使用が画期的な影響をもたらした。いわゆるシングル・スタイルは，このように，土着のスティック・スタイルとショーのクィーン・アンから出発して，独自のアメリカ様式となったものであるが，80年代のはじめに確立されたその特色は，開放的な内部空間，ヴェランダ，シングル壁の三つである。しかし，外壁が完全にシングルで厳われるという典型的なタイプは，1880年頃になって，ようやく現われるのであって，それより前の70年代の住宅は，スティックからシングルへの過渡期と考えられる。

§ 6. ヴェランダについての補足

ヴェランダについては，先の論文で触れたことに若干の補足をしておきたい。まず，イギリスのピクチャレスクの建築における東方系異国趣味のヴェランダの源泉は

インドだということである。しかし，ピクャレスクではコテジ趣味と融合して，細部が消失してしまうので，源泉そのものは，あまり問題にならない。

次にオーストラリアの鋳鉄製ヴェランダについては，さきの考察でも，英文版の注記で触れておいたように，日本のヴェランダの重要な源流のひとつとして一応考察すべき特質をもっている[10]。それは，住宅のファサード全面に附着したヴェランダ形式では，オーストラリアのものが，もっとも日本のものに構成やプロポーションが近いということ，また，柱頭の頭貫や力板（オーストラリアではフラットピースと呼ぶ）について，日本の木造例にみられるほとんどすべての形態が，オーストラリアの鋳鉄の例に容易にみいだされることである。第三に，明治初期において日本とオーストラリアの関係が意外に密接なことである[11]。

しかし，もっと妥当な解釈は，これらのフラットピースが，中国の19世紀木造建築のヴェランダを共通の源泉としているのではないかということである。オーストラリアの多様なフラットピースは，インドのヒンズー・イスラム系のヴェランダと中国のそれらを，ヴィクトリアンのタッチで鋳鉄に写したものといえるかも知れない。これらの点は，やがて明らかにできると思う。

南方旧植民地の要港については，最近ホンコンのチャター・コレクションをはじめとして，かなり多数の資料を手元に集めることができたので，18世紀末から19世紀中期のインド，シンガポール，マカオ，カントン，19世紀中期・後期のホンコン，シャンハイなどの情況の概要を知り得た。これらの地域では，現在はアーケイド・ロッジアした残存していないが，19世紀前期・中期には，コロネード・ヴェランダの隆盛期があったのである。ホンコンを例にとると，クラシカルの多層コロネード・ヴェランダの流行期は，1840年代から60年代までと推定され，以後はアーケイド・ロッジアの全盛となる。ホンコンのヴェランダは，イギリス本国の実例や，カントンにおける発展を基礎としているが，カントンにおいても，多層ヴェランダによるファサードが完成するのは，40年代と考えられる。シャンハイの建築も，ほぼホンコンに準じた変化をたどっているが，コロネード・ヴェランダの流行はホンコンほどではなかった。

ホンコンの建築は，1841年の開拓開始から花崗岩と煉瓦を主材料とし，壁は煉瓦造スタッコ仕上げのリージェンシイ・スタイル，基礎・柱・ドレッシングは花崗岩という組合せである。これは19世紀前期の煉瓦造洋風建築の普遍的形態であるが，ヴェランダの細部の扱い方を見ると，イギリス系植民地に共通の意匠が認められる。曲線を持つフラットピースは，これらのコロネード・ヴェランダとは無縁で，やはり中国建築のみに見出された。

§ 7. 神戸の初期居留地の建築

神戸（兵庫）の開港は1868年の元日であった。長崎の開港におくれること9年である。後には長崎の繁栄を奪うほど隆盛をきわめた神戸も，その出発はあまりめぐまれていなかった。第一に日本側の選定した居留地の敷地がひどい場所だったこと，第二に開港早々に明治戊辰の役が起ったことである。しかし，外人たちは酒倉や寺や武家屋敷に仮住居しながら，おどろく速度で居留地の土盛，下水施設，護岸などの工事をやってのけ，その年の暮にはすでに競馬を楽しむ段階に達していたのである。

われわれは，神戸女学院図書館所蔵の写真によって，明治12年頃の神戸居留地を詳細に見ることができるが，それは19世紀中期に栄えた南カロライナの開港地チャールストンをほうふつとさせるヴェランダの町である。

また明治4年の海岸通りの写真や，明治19年の「日本絵入商人録」神戸の部の図版を見ても，かなり多数のコロネード・ヴェランダのファサードが示されている。それらのヴェランダを調べてみると，一・二階ともコロネードのものは数棟で，当時の神戸では，一階を普通の壁あるいはアーケイドにし，二階のみをコロネード・ヴェランダとしたものが，ひじょうに多い。坂本氏に最近見せていただいたアメリカ系のウォルシュ・ホール商会の写真は，おそらく，そのもっともすぐれた実例の一つで明治4〜5年という日附が信じられないほど見事なヴェランダを示している。このようなヴェランダは，その半地下階のない点，複柱の多い点，抑揚のある点などからホンコンにおける1860年前後のヴェランダの処理に酷似しているが，二階建という規模は，ホンコンでは40年代のものである。ただ，ホンコンでは，すべてが煉瓦造であるのに対し，神戸居留地では，煉瓦造はごく少数であって，80%以上が木造であった。ヨロイ下見張はひとつもなかったらしい[12]。これは偶然ではなく，歴史的に明瞭な建築上の嗜好を示すものである。

初期の神戸居留地の建築として，坂本勝比古氏の調査された浪花町15番（現在江商神戸支店）がある[13]。これは開港後10年以内に建てられた建物であることがほぼ確実な，ほとんど唯一の現存建物なので，これを中心にして，上記写真に現われた当時の居留地の商館を考えてゆきたい。まず構造であるが，ほとんどのものが木骨造スタッコ仕上げであった。煉瓦造と思われるものも，白色か淡色のスタッコで仕上げてあり，煉瓦壁があらわに出ているものが見当らない。

これは，すでに述べたように，ヨーロッパ系の市街地の代表的な壁仕上げで，地中海沿岸地域では伝統的なものであり，北西ヨーロッパでも，イギリスのリージェンシイ・スタッコ以来，急速に普及していたものである。したがって，東南アジア，オーストラリアの植民地でも，主流をなしているが，いずれも通例下地は煉瓦であ

る。木骨の上にスタッコの壁をつくることは，ハーフチンバーをそのまま下地にしてもできるし，木摺下地でもでき，いずれもイギリス南部に実例がある。江商支店の場合，壁の構造の詳細が若干異なると思うが，とにかく木骨煉瓦造というのは，スタッコ仕上げの簡便な下地として成り立つやり方である。すなわちスタッコ下地としては煉瓦がもっともよいが，煉瓦造にすることが困難な場合，手なれた木造軸組に，補助的に煉瓦を使えば，技術的には容易になるし，煉瓦も節約でき，また，さして上質の煉瓦でなくてよいという利点がある。スタッコにすでに述べたような18世紀末から19世紀前期にかけて現われた各種のパテント・セメント（多く天然セメントかその加工品）が用いられても不思議でない。

ヴェランダは，恒風の方向に向けるというより，通りに面しておかれ，見せる面として重要であったようである。江商支店の場合，プランからいうと東側のアーチ形の入口が玄関であるが，ヴェランダも通りに面している。もし一面しか通りに面していなかったなら，ヴェランダの下をアーケイドかコロネードのポーチにして，そこに玄関を設けるよりほかはない。江商の変ったプランは角地であるが故のものである。当時の商館の用法に準じて，一階は事務所，二階は住宅として用いられたのであろう。

屋根は，ヴェランダまで含めて架けているものもあるが，母屋だけにかけ，ヴェランダの部分は庇にしているものもかなり多いし，公共的な建物や上級建築ほど後の形式が多い。つまり本格的なものほど，ヴェランダの屋根を母屋と別に葺いている。ヨーロッパ系の組積造の母屋に，木造や鋳鉄製のヴェランダを取附ける場合には，このような手法が通例である。つまり，ポーチコとか，屋根つきバルコニーの軽い屋根が拡大した型式で，このタイプだと，ファサードのスカイラインが水平にきれいに切れるから，意匠的にはひじょうな相違がある。そこまで考慮した建物には，母屋が木造であっても，この手法がとられたであろう。

ヴェランダまで含めた日本瓦葺の大屋根は，上に述べたような意味で，木造から自然に出てくる形ではあるが，それ故に，日本の居留地洋館の日本らしさ（逆にいえば，洋風らしくない，垢抜けしないこと）の第一の特色となるのである。また，勾配を5寸前後にほぼ一定し平面の性質や屋根の姿にかまわず，ただ機械的に寄棟にしていることも，また，大棟・隅棟の太い線や鬼瓦・すはま瓦などの存在が，洋風らしさをいちじるしく損じていることも否めない。屋根葺材と葺き方を変えねば，真の洋風らしさは達成できないということを日本人が悟るのは，明治20年頃からであろう。しかし，外人の方は，むしろこれらの日本的特色をエギゾチックなものとして，のちのちまで楽しんでいたように思われる。

壁面の細部は圧倒的にクラシカルである。それにリージェンシイ・スタッコにつきものの，グリーク・リヴァイヴアルの手が所々に窺われる。まず，建物の本体がずんぐりした箱形であるうえ，壁面はひずょうに平坦性が強く，ピラスターやモールディングは薄い。屋根の関係で，軒廻りだけが厚いのである。窓廻りのアーキトレイヴやバラストレイドにも，リージェンシィの特色が見られる。江商支店の現状は，外壁の改変がいちじるしいが写真に見られる原状には，同じような特色が現われている。江商支店の玄関ホールと階段室の境には，パラディアン・ウィンドウに類似した構成のスクリーンがあるが，かなり立派なギリシアのイオニア・オーダーを用いている。内部も改装されているであろうが，二階東側の二室の間に引戸のダブル・ドアがあって，壁の中に収まるようになっている。この種の引戸は，イギリス本国では1830年前後から用いられたのであるが，アメリカほどは普及しなかったようである。しかし，植民地では大いに歓迎されていたであろう。

ヴェランダ側の軒廻りはよく判らないが，両袖を突出させるヴェランダはイギリス好みである。対称型を強調した上，ペジメントを使いたかったためと思われる。ペジメントは，リージェンシイのものとしては傾斜がやや強すぎるが，これは屋根葺材との関係があるための結果であろう。街路に面して，母屋と附属家をつなぐ通用口つきの塀があるが，これも19世紀初期のタイプを示している。

すでに述べたように，一階をアーケイドあるいは壁，二階をコロネードとするヴェランダの型式は特異なものであるが，立面の構成としては，ジョージアンの基本型の一つであるから，発生的にはごく自然に採択されるだろうと思う。ホンコンのヴェランダは，40年代からこの型式をとっているものがかなり見られる。50年代以降の建築は3階建以上が通例で，一階はアーケイド，二階以上をコロネードにする定型を持ち，この型式は60年代半ばまで行われた。この終末期が明治初年にあたることがわが国の初期洋風を複雑なものにする要因とみられる。

以上を総括してみると，初期の居留地の建築の多くは，だいたいコロネード・ヴェランダ附リージェンシィ・スタッコを，木造に飜訳したもののようである。細部は18世紀後期から19世紀前期にかけてのものが用いられまだ19世紀中期のゴシック的傾向は入っていない。ざっとこういったところが，明治10年代半ばまでの神戸の欧風商館の情況ではなかろうか。

§ 8．神戸山の手の木造洋館

神戸の山手，生田区に見られる数十棟の木造洋館については，まだその編年ができていないし，関係者につい

ての文献も乏しいので，やはりごく概略の傾向を推定するに止めるほかはない。

まず木造洋館は，大別して三つの顕著なタイプに分けられるようである。まず，初期居留地に多く見られたような，ずんぐりした箱型の母体の一面に二層コロネード・ヴェランダを附けたタイプと，非対称の平面をもち，突出部分や凹陥部分が多く，その凹陥部分に比較的小規模なヴェランダを設けたタイプ，第三に前二者の特色を混合したタイプである。一般にヴェランダ部分の改造がいちじるしく，ほとんどが後に建具を入れてしまっているが，以上のような特色はかなり明瞭に見てとれる。

第一のタイプは，居留地の初期商館から来たタイプであろうが，専用住宅であるから商館よりずっと軽い型式になっている。壁は下見張で，ヴェランダの柱も角柱がかなり多い。しかし，比較的細い柱を用いているにもかかわらず，方杖やフラットピースは用いず，簡素なアバクスの上に直接コーニスを支えている。つまり，略式ではあるがクラシカルなデザインのルールを守っているのである。柱は多くドーリックを簡略化したような形をしているが，アストラガルの位置がいちじるしく低い。これは大阪造幣寮の泉布観の円柱にも見られる特色である。はじめ，これをすべてのオーダーを代表する略形式で，長さとコーニスでオーダーを示すのかとも考えたが必ずしも対応しないようである。

第二のタイプは，ストロヴィー邸などに代表されるゴシックの手の入った不整形プランで，ヴィクトリア朝の郊外住宅や，すでに述べたアメリカのスティック・スタイルやクィーン・アンなどに対応するタイプである。同じく下見張りであっても，張出窓などを各室につけ，それが外形にベイ・ウィンドウやオリエル・ウィンドウになって現われる。切妻壁を平気であらわし，そこにハーフチンバーのスティックを張る。つまり，チューダーやエリザベサンのモチーフが好んでとり入れられているわけだが，他方窓廻りやヴェランダ廻りの取扱いはクラシカルなのである。建物全体のまとまりはかなり違っても，使われている技術やプリンシプルは，完全にスティック・スタイルのそれであり，この技法の興味あるヴァリエーションの一つとして，当時の傾向を理解することができよう。

第三のタイプは，前二者の混合で，大ヴェランダもあるが，ゴシックの手もあるといったタイプである。北野寮はその好例で，母体もヴェランダも張出し部分があって不整形だが，正面の対称形は守っているし，開口部の扱いも，ヴェランダもクラシカルだが，一階にはゴシック的なペンダント附きのフラットピースが入っている。このフラットピースのデザインは，また鋳鉄製ヴェランダの同型式のものと全く同じなことも興味深い。ハンセル邸は，もっと自由な楽しい建物であるが，やはりゴシック的モチーフとヴェランダ側の対称形をともに満足させた混合型である。ここではヴェランダ廻りもピクチャレスクの気まぐれで，フラットピースはイスラムである。こういうタイプの柱は，ろくろ挽きのものが，世紀末から20世紀初期にかけて，アメリカで流行していたようである。

これらの木造洋館のペイントは，幾度も塗りかえられているであろうが，欧米の例から，建立当時の色を想像してみよう。だいたい19世紀中期までは白ペンキが多いが，その後は，灰色かラクダ色のような，やや鈍い色が中世的であるが故に好まれる。世紀末には，青や緑色や黄褐色やインデアン・レッドに白色のトリムといった強い色彩が用いられた。これはアメリカのコロニアル・リヴァイヴァルの影響であって，20世紀初頭，さらに現在に至るまでのアメリカ木造住宅の多彩さは，このあたりを起点としている。神戸でも，古いペイントには，緑，黄褐，赤さび色などが多く見られるようである。

神戸の明治建築について，現在のところ，この程度のことしかいえない。平面や内装については調査はこれからという段階であり，建立事情についても，意外なほど資料が乏しい。神戸居留地そのものの資料も少ないようである。これは居留地の治外法権がなくなった明治33年

ブロックの防水塗料！
ビニール・セメント・ペイント
ブロックタイト
刷毛又はスプレ塗り　常備淡彩１２色
安　価・速　乾・美　麗
水谷ペイント

に，兵庫ニュースの社屋が焼けて，そこに集積して出版準備中であった居留地史の資料・原稿・校正刷が全部焼失してしまったためらしい。個人のコレクションも，多くは戦時中失なわれ，恢復される見込はほとんどないようである。建物は数十棟あっても，最後の決め手である文献の乏しさが，研究の大きな障害になっている。しかし今となっては刻々失なわれてゆく建物を保存し，できるだけの記録をとってゆくよりほかはない。坂本氏の研究が期待されるのは，ただに建築史上の興味のためばかりではない。明治の日本が，西欧的な商業・工業・貿易・学芸・行政・生活の方法を学んだのは，ほとんど居留地の外人を通してであったにもかかわらず，その歴史的意義が正しく評価されていない。その伝統の遺産も正しく継承されたとはいえなかったからである。明治32年，神戸居留地が日本の手に返還された時，街路を美しく彩っていた樹木が手入もされず，急速に見棄られていたことを決して忘れない外人が今もそこここにいるのである。

§9. 結　　語

上述のような考察の結果について，ある様式の名が，その源泉の建物の形態の全体を示しているかのように受けとられる方が多い。モニュメンタルな建物ならともかく，一般建築ではそうしたルールはしばしば通用しなくなる。たとえば神戸居留地においても，メイソニック・ホールは，ロンドンのマンション・ハウスを模していることがすぐに判るが，他の一般商館は，イギリスにはまず見られない。ただそれらを貫いているプリンシプルや技法が，リージェンシイの建築を基本にしているということなのである。同様に後期の山手洋館群に，アメリカのスティックの技法が採り入れられていて，細部の特色まで共通していても，スティック・スタイルの建物の全体の形態がそっくりそのまま模写されているという意味ではない。やはりプリンシプルと技法とモチーフが中心である。スタイルは，建主と建築家の意匠によって，国際的になるものであって，建物がモニュメンタルであればあるほど，その形態は相互に接近してゆく。一般建築の場合，モチーフや技法やプリンシプルが国際的にプールされ，それが，はじめに述べたようなプロセスでさまざまに発現されてゆく，それが19世紀後期の世界なのである。また，そうした多様で微妙で複雑な，いわば有機的なプロセスの存在こそ，生なき建物の姿から，生ある歴史を読みとる作業を可能にする前提条件であろう。

参考文献と注記

1) 桐敷真次郎：「明治初期洋風建築におけるヴエランダモチーフ」学会論文報告53，1959.
2) Kirishiki,S., Anglo-American Verandas in Japan before 1890, Memoirs of Faculty of Technology, The Tokyo Metropolitan University, No. 10, pp. 48—62, 1960.
3) 初期の産業建築については，Richards, J. M., Functional Tradition, 1958を参照されたい。
4) Lloyd, N., A History of English Brickwork p. 52
5) 18世紀前期までは，すべてのプラスター工事をスタッコと呼んでいた。18世紀後期からは，特に外壁用のプラスターをさしてスタッコというようになつた。
6) プラツケツテツド・モード，スティツク・スタイル，シングル・スタイルなどについては，Scully, V.J., Romantic Rationalism and Expression of Structure in Wood……, Art Bulletin XXXV, 1953 および Shingle Style, 1955を参照。
7) The Architectural Press, The Architecture of Denmark, 1949, pp. 18—19.
8) Kavli, G., Norwegian Architecture, 1958, pp. 100—101.
9) アメリカのクイーン・アンについては，前記 Scully の Shingle Style に特に一章が設けられ，当時の見解が多数引用されている。
10) オーストラリアのヴエランダについての論文は，Boyd, R., Melbourne Ironwork, Architectural Review, Sep., 1956, pp.192—3 や，Robertson, E.G., The Australian Verandah, Architectural Review, Apr., 1960, pp. 239—245がある。
11) 日濠関係および神戸居留地の歴史については，Williams, H. S Foreign Settlement in Japan, 1957.
12) 坂本勝比古：「神戸居留地の成立過程と現存する一洋館について」学会論文報告 66,1960. 第1表
13) 坂本勝比古：「株式会社江商支店」建築と社会，1960年5月号

（筆者　東京都立大学助教授）

建築材料の選び方使い方の専門誌
建築技術者と材料業者の必読書
建築雑誌　材料と設計
毎月1日発行
B5 ¥150〒共
全国書店で発売
建設文化社
本社　東京都文京区小石川町1－1　電話(921)2739
支社　大阪市西区西長堀1—5 四ツ橋ビル　電話㊸9200

杭
株式会社　武智工務所
取締役社長　福留並喜
大阪市東区瓦町3ノ11(井池筋)旭洋ビル3階
電話 ㉖ 3606・4089

神戸の洋館と「外国造」

稲垣栄三

1

明治時代の洋風建築が数少なくなったこんにち，神戸の山手にむらがる洋館は，当時を髣髴させる貴重な遺産となった。明治時代を知らないわれわれにとってもこのあたりの情景から，ただの異国情緒というもの以上に，当時の感動や活気を感じとるのはそれほど困難なことではない。明治が遠くなったという感慨は，もちろん明治の空気を吸った人々のものであるが，そのような感じ方がわれわれにも共感されるのは，明治の遺物そのもののなかに，そのようなセンチメンタルな幻惑に誘いこむひとつの雰囲気が備わっているからだろう。実際，城の天守やあるいは書院などの，いまではすっかり過去のものとなった建築が，歴史的にすっかり枯れきった安定した姿でわれわれの記憶のなかにあるのにくらべると，明治のものは，時間的にそれほど遠くないなまなましさがある一方で，そのわずかの時間の開きのために，すでに生活感情の上で容易にとけこめなくなってしまった遠い別の世界が開けていて，まったく独特な情感を呼び起すムードがそこにはあるようである。明治が遠いという実感が生れるゆえんのひとつは，案外明治という時代そのもののなかにある本来の性格によるのかもしれない。

少なくとも明治の洋風建築が，その後の時代の建築とは意外に浅い結びつきしかもたないことは事実のようである。明治の人々ですら，それほどつねに洋風文明のなかにあったわけではない。多くの官庁・学校・事務所などの公共建築が西洋文明のさきがけとなって造られ，また一部の大邸宅もそれを追った。しかし，ひとつの町，ひとつの街並が洋風をもって埋められたところは，例外的にしかない。洋風がひとつのムードとしてでなく，日本人の生活のなかにとけこむには，明治時代はあまりにも短かかったというほかはない。戦後にいたって，われわれが明治建築に接する機会はますます乏しくなった。失われた建物は公共建築に多く，かろうじて残っている住宅・クラブ等も一般の眼の届かないところにある。神戸の洋館はそうしたもののひとつである。

明治の洋風建築は，歴史的に孤立しているようにみえながら，その反面，明治時代を代表できる建築としては周囲から孤立したその洋風建築のなかからまずえらばなくてはならない。なぜそれが孤立しているかということも，なぜそれが明治を代表できるかということも，すべて建築の背後にかくされている。神戸の洋館はそのへんの事情をよく物語る例といえるとおもう。

2

神戸における居留地の建設の歴史は，明治元年よりはじまる。坂本勝比古氏によると，イギリス人土木技師ハートが測量し地割をして，4回にわたってこれを競売したのであるが，ここに建築が建ちはじめ，市街を形成して行くのは3年ごろからであるという(1)。この草創期にすでに神戸には建築家が二三いたこともまた指摘されている。彼等の活動がどの範囲にわたったのかは不明であるが，明治初期においては，おそらく居留地の建築が大部分を占めたであろうということ，また彼等の職能は，その広告が示すように広汎であって(2)，創生期のあらゆる需要に応じたであろうことなどはおよそ推測できることである。初期の居留地を写した写真は，事実多くの居留地内の建物が，在来のこの地方の町家の風貌を全く止どめないものであることを示している。明治5年の地図によると，その構造が多種類に分れていて，煉瓦・石・鉄板等がすでに使われていることが明らかであるが，同時にその外形も，住居に用いられた家屋の場合はほとんど簡潔なスタイルに統一されている。あとでも触れるように，洋風のディテールを正しく使いながら，全体を素朴なバランスをもって構成するところに，コロニアル住宅を扱う建築家の本領があり，そしてまたそれが明治初期の日本人技術者にとっては困難な仕事だったのだから，神戸の場合，居留地の多くの建物は，外人が多かれ少なかれ，たずさわったとみてよいとおもう。現江商神戸支店が，そのようなもののひとつであることはいうまでもない。

神戸の居留地の建築についてみる場合，忘れることのできないのは，明治初期から大正時代にかけてほとんど連続的に外人建築家が滞在していたということである。居留地は明治20年代には山手の方にも拡張されるが，下町・山手を通じて，つねに外人が活動し多くの建物を手がけたことは，神戸の洋館のスタイルを高いレベルで統一することに役立った。

神戸の居留地が比較的順調に建設されていったのにくらべると，たとえば横浜の場合はかならずしもそのようには運んでいない。横浜の開港・居留地の建設ははやくも安政5年に開始されているが，この交通不便な地域に強引に居留地を建設し商人を誘致しようとする幕府の政策は，つねに外人側の抵抗をよんで，維新をむかえるまでに3度も約書を交換しなければならなかった。この間に清水喜助その他の大工棟梁の活動する余地があったわけであるが，当時の状況は，たとえば万延ごろと伝えている大絵図が示しているように，外人用の住宅そのものの大部分がまだ和風の家屋であった(3)。横浜の居留地がようやく形を整えるのは慶応2年10月20日の火災直後，第3回地所規則交換して後のことであった。この規則にしたがって，山手を含む横浜居留地の拡大と整備は，事実上明治政府によって行なわれることになったわけである(4)。

横浜の場合，どのような外人建築家が活動したかについてはいまのところ，ほとんどわかっていない。堀越三郎氏によるとブリジンスが一時活動したであろうということ，また工部省が招聘したダイアックもここで仕事をつづけたらしいということが知られる程度である。しかし，明治19年発行の絵入商人録に描かれた居留地の商館や住居をみると，このころの横浜の家屋は神戸と同じレベルに達していて，少なくもここにいたる過程には外人建築家の何らかの参加があったとみなすべきであろう。堀越氏の紹介している明治20年前後の横浜の状況によっても，このころの海岸通の居留地は，幕末の状況とは面目を一新していることは明らかである。

ところで，初期の洋風建築の建設は外人建築家だけによって造られたのではなかった。多くの日本人技術者が設計にも施工にも活躍していた。とくに明治初年から20年ころにかけては，大工棟梁層の活動が洋風建築の普及に大いに貢献している。正式な教育をうけた日本人の建築家が設計活動を開始するのがちょうど明治20年ころだから，その直前に，かれら棟梁層が施工のみならず設計計画にも進出して，その空白を埋めた期間があったわけである。現在多くの地方都市で再発見されている木造の洋風家屋は，おおむね明治 6・7 年ごろから20年ごろに建てられたものが多い。これらの多くは，これまでもしばしば指摘されてきたように，地方に埋もれていた大工棟梁が，渾身の創意を注いで西洋風に近づこうとした，その意味では記念的な力作である。

どのようにして洋風に接近するかについては，彼等がどの程度洋風建築について詳しくみ，知っていたかによって，いろいろなしかたがあった。関東地方やその周辺に建ついくつかの例は，技術者がその模範を横浜に求めたと伝えているが，たしかに居留地に建つ家屋はそのような洋風建築のモデルとして唯一のものであった。山形

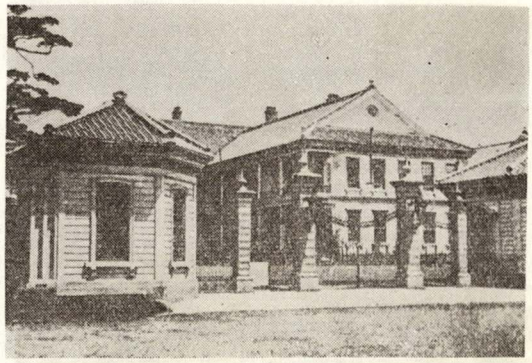


写真 1　内務省（林忠恕設計，明治7年竣工，東京大手町，堀越三郎氏「明治初期の洋風建築」所収）

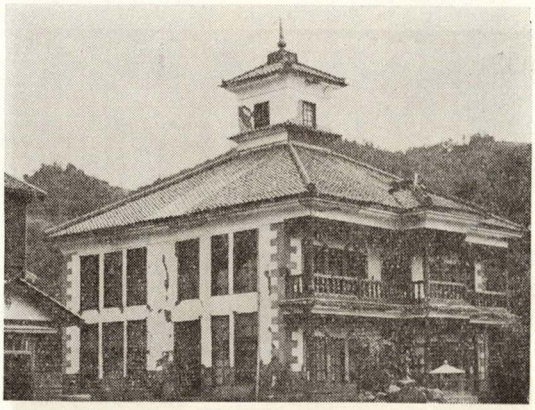


写真 2　睦沢小学校（松木輝殷設計，明治8年竣工，山梨県敷島町）

・山梨・静岡その他の各県にある庁舎や学校建築が示しているように，東京・横浜から遠い地域では，洋風の表現は，そのころ「洋風」として把えられた外観の特徴をどのように強調するかにあったし，しかもそれすら職人たちの親しんでいた伝統的な工法によって仕上げなければならなかった(5)。

その点，東京・横浜など居留地をもつ都市では多少事情がちがう。東京・横浜とも居留地の本格的な整備は明治維新後のことであるが，幕末に棟梁たちが建てたいくつかの例は，その洋風が山梨県や静岡県に現在みられるものよりも，さらに稚拙な細工であったことを物語っている(6)。しかし，外人が積極的に建設活動をはじめ，当地の棟梁たちがその施工にたずさわるようになったころから，彼等の洋風への理解は，急速度に深まるのである。幕末に神奈川役所の定式請負人となった清水喜助も明治初年から営繕寮で官庁の新設にたずさわった林忠恕も，直接外人に接触しながら洋風を設計する機会があった。しかし林の設計（**写真1**）がよく示しているように新来の技術や工法の理解がそのまま，オーソドックスなコロニアル形式を再現できたわけではなかった。山梨における松木輝殷（**写真2**）の稚拙さがなく，個々の洋風

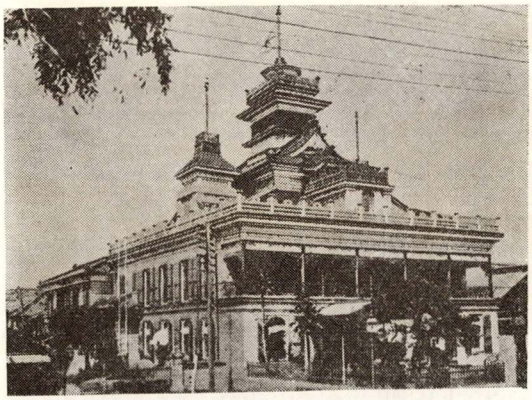


写真 3　第一国立銀行（清水喜助設計，明治５年竣工，東京日本橋）

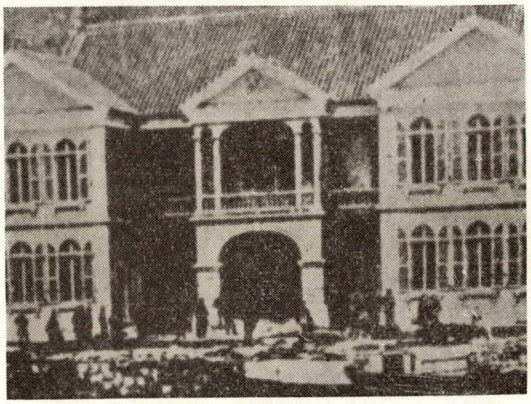


写真 4　神戸港東運上所（明治５年竣工，「神戸の歩み/市制70周年記念」昭和34年刊・所収）

の特徴が一応把えられながら，しかもそれが全体の様式的把握には到達しないのである。清水喜助の場合，そのような日本人技術者の当然直面しなくてはならぬ限界を，むしろ別のしかたで乗越えようとした。

彼は最初の洋風である築地ホテル館（明治元年竣工）で，洋風のプランやディテールに，日本人としてはおそらく最初の理解を示した。たとえコロニアルであってもそれの設計は洋風の細部や工法の寄せ集めのみによって可能なものではなく，全体の統一的な掌握がその様式を左右するわけだから，彼の行き方は築地ホテル館に関するかぎりはただしい方向を示したといえる。だから，彼が続く第一国立銀行（明治５年竣工）（**写真３**）で奇怪なモニュメントを志した時，それはおそらく外人の示したモデルに追随しないという―むしろそれに和風をもって対抗しようという―野心があったとみなくてはならない。

東京・横浜には，地方都市にあるようなレベルの洋風家屋がまったくなかったということはできないとしても少なくも清水喜助のようなタイプは，つねに外人と接し外人の建設した建物を目前にみることのできた開港都市にのみ育ったことは明らかである。

さて，神戸はどうか。

3

明治元年に当時の宇治野村に神戸病院が設立された。外国掛が病院建設の必要を感じて神戸・兵庫そのほか広く有志に呼びかけて義捐金を徴収し，神戸港にそれを建設してあまねく民を救治しようとしたのであった。元年閏４月には仮病院が，翌２年３月本病院が竣工した。この病院は洋医を傭聘し西洋治術を施そうとするものであったから，その建物もまた洋風でなければならなかった。「然るに此地を営業区域となせる当時の大工棟梁は洋館建築の図取方式を解せず，此に於て棟梁二三を集めて議し，遂に将に横浜に赴きて雛形を実験し来らんとす[7]。」ところがそこにたまたま１人の大工ですでに横浜で洋風家屋築造に従事したものが現われたので，無事に設計を終り工事に着手できたという。それが元年の仮病院であった。しかし一夜の暴風で，それは倒壊したので翌年建てなおさなければならなかった。

明治元年閏４月といえば，居留地での建築活動がはじまる直前のことである。そのころは神戸においてさえ，洋風習得のためには横浜におもむく必要があったわけである。

その後数年のうちに，兵庫県庁の手によって，ふたつの建築が建てられている。ひとつは明治５年に竣工した東運上所，ひとつは６年５月に竣工した兵庫県庁舎である。

神戸港の東西の運上所は，両者とも最初は商家や会所をもってそれにあてていたが，明治４年にいたって両者ともに新築の要望が起った。４年10月に完成した西運上所は煉瓦造平家で48坪の小さなものであったが，東運上所は２階建（おそらく木造）階上120坪，階下136坪の大きさをもつものであった。５年５月この両者は県庁から租税寮に所管が替り，７年１月には東運上所を石造２階建上下各々160坪に改築し，そしてこの年運上所の呼称を神戸税関とかえたのである[8]。写真にある建物は石造に改築した直後のものとみなされよう（**写真４**）。

一方，兵庫県庁の場合は，元年９月に完成した庁舎がまもなく腐朽し，かつ居留地から隔絶していたため，これの再築がとりあげられた。かくて和蘭領事の住居に増築してこれを新庁舎とし，和風をもって建てられた旧庁舎は裁判所にあてられることになった。増築工事は６年１月に着工し５月に竣工している[9]（**写真５**）。

この両者の建築工事にたずさわった人としては後者の請負人の相生町古谷喜平次の名が挙げられるだけで，その他については，いまのところわからない。運上所の場合も請負工事であろうが，当時のこのような工事の過程については，たとえば次の国産改所の例が示すようなものだろう。

神戸港西運上所の落成（明治４年10月）後，県庁は国産改所を洋風に改築したいという要望を大蔵省に申請している。その文に

（前略）就ては同所（西運上所）続御国産改所の儀も御国屋造にては不都合且つは非常の為め不可然候に付別紙絵図面仕様帳の通「外国造」模様替の積り入札申付候処八百九十四両三分にて本城新助へ落札相成（後略）(10)

とある。すなわち県庁が絵図面・仕様帳を作成し，これにもとずいて入札をおこない，本城某が落札したのである。

しかし民間工事においては，棟梁自身の設計への関与はより深かっただろう。明治16年８月に着工し，翌17年３月に竣工した神戸小学校の場合，これの工事請負人として記されている吉本甚八郎が，事実上形を決定し，かつ工事を行なったとみてよいとおもう(11)（**写真６**）。

これらの建物の設計が，官庁側によるのか，あるいは請負人かという疑問は残るとしても，少なくとも外人建築家・技術者が介入しているとは考えられない。設計過程については不明の点が多すぎるが，それについてはむしろ建物の写真の方が正直に物語るだろう。兵庫県庁の場合，増築であるとともに写真も不鮮明で検討するにふさわしくないが，他の２棟は，明治初期に日本人技術者が到達したひとつのタイプを示しているとおもう。両者ともほぼ同形のプランをもち，正面の両翼を前方に張りだして，それぞれにペディメントをのせるという構成は，神戸居留地によくみるタイプである。外壁は小学校の方は下見板貼であるが，運上所はおそらく改築後であって石貼をもって仕上げとしている。

総じて神戸の居留地で一般に行なわれていた手法が—プランやヴェランダをはじめ細部にいたるまで—よく受けつがれているようにみうけられるばかりでなく，個々の部分をとりだしてみても，そのプロポーションに極端な不均衡がない。運上所が明治５年に完成していることを考えると，当時の技術者はわずか数年でこうした洋風の技法を一応体得したかにみえる。

これらの建物を外人の作ではなく日本人のものだろうと推測するゆえんは，個々の部分や細部において滑稽な破綻がみられない反面で，全体的な構成に，当時の共通した日本人臭を感ぜずにはいられないからである。それは主として中央部の強調のしかたに関連している。当時洋風で公共建築を造る場合，日本の技術者たちは左右対称をひとつの前提にするとともに，中央の部分（多くはそれが主入口でもあるが）をできるだけ大きくみせるという欲望には抗し難かったようである。当時の居留地には住宅のみならず商館あるいは公館もあって，こうした公共の建物のモデルを求めるのは困難ではなかったはずであるが，それにもかかわらず，一般に住宅の構成に従

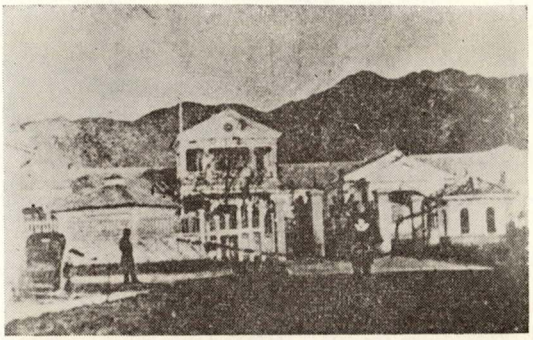


写真 5　兵庫県庁（明治５年竣工）

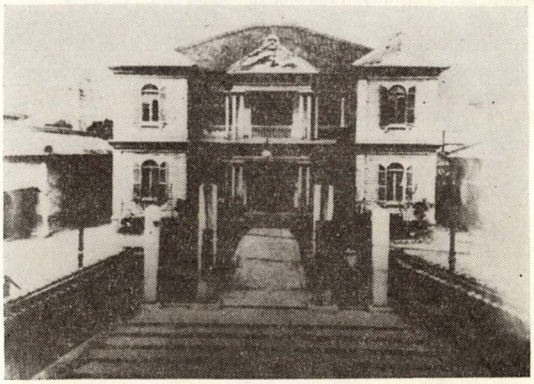


写真 6　神戸小学校講堂(明治17年竣工)—滝沢真弓氏所蔵—

いながら，そこに巨大さと威厳とを附加しようとして，かえって不均衡を招くのを避けることができなかった。

彼等の技術は多くの住宅を建てる過程で育成されたであろうが，職人的な技術はきわめて短時日に会得されながらも，全体の構成を動かす才覚は，そうした過程のなかでは育つ理由がなかったということであろう。しかし神戸のこれらの建物の示しているいちじるしい特徴は，居留地で外人建築家によって先鞭のつけられた方法を，ほとんど抵抗なく受け入れているという点にある。洋風の特徴を貧弱な知識と経験で，どのように処理し誇示するかという地方の技術者の「創意工夫」も，外人の方法とは別の行き方を示そうとする東京の技術者の対抗意識も，ここでは（少なくともこれらの建物では）必要がなかった。かえって神戸の技術者のように経験のみを拠りどころとする行き方が，この土地の洋風建築を高いレベルで支えたひとつの力となっているようである。

4

明治初期，大体20年代までに建てられた木造コロニアル・スタイルの小建築は，現在残るものでもおおむね全国的に分布しており，しかも，現在ただ一葉の写真のみを残し，まったく誰の記憶にもないもの，あるいは，名称だけで写真すら伝わらないものも数多いことを考えると，当時のこの種の建物は想像以上に多かったことが

うかがわれる。それは外人建築家・技術者の設計ないしは指導によるもののほかは，大工技術者たちの創意と工夫とによって完成したのである。この時期に活動したその技術者の多くは，政府・民間をとわず，町方・在方の棟梁たちであり，幕末の職制における大工棟梁に相当する人たちであった。

これらの建物は，外人の設計に酷似したものから，ほとんど和風に近く，たんに一部のディテールにのみ辛うじて洋風を止めるものにいたるまで，あらゆるレベルのものを含んでいた。もっとも特異な例として，たとえば尾山神社神門（金沢）のように，洋風を階段の手摺や最上階の窓に利用しながら，全体の結構においては，むしろまったく独自なスタイルをうち立てたものまである。このような場合，洋風の細部はあっても西洋建築への追随という意識が伴なわないから，かえって全体の意匠は統一した意図のもとに完成しえたのである。それに反して，多くの洋風建築は，外人の示した粉本への接近のしかたに深浅はあるとしても，本来の意図が外国風にしたがうことであった。技術的に洋風を把握していない例はもちろん，多くの点で洋風技術を手中に収めた技術者でさえ，建物の建築的な意味での掌握においては，結局のところ外人建築家に一歩譲らざるをえなかった。

本来，棟梁・職人層の技術的伝統が，そのような建築の全体におよぶものではなかったのである。個々の細部や仕上げの技術的処理については，こうした技術者たちが当時きわめて高度のレベルにあったことは，幕末から明治初期のわずか数年間における外人との接触で，おおむね吸収すべきものは吸収してしまった事実によってもうかがえるところである。しかしその反面，彼らの自主性において一個の洋風建築がいとなまれる場合，かならず建物の建築的な把握に破綻が生じた。彼らの技術は，設計において全体を統轄できる建築家のもとで活動した場合に，もっとも高度に発揮できたのである。

江商神戸支店の二階ヴェランダの柱に残るキャピタルと，旧神戸女子短大北野寮のそれとを比較した場合——それがおなじ図面から造られたものでも，またおなじ職人が造ったものでもないとしても——彼らの洋風への習熟がこうしたところで着実に展開していたことが知られるのである。

前にもふれたように，日本人の建築家が活動を開始するのは明治20年ころからである。日本の各地にこれら建築家が分散するには幾年かの時日を要したであろうが，その進展に伴ってそれ以前の洋風を推進した立役者，大工棟梁たちはここに存在現由を失なうわけである。それはたんに設計という職能の上で強敵が現われたということではなく，本来棟梁・職人層による洋風建築が発展性を望みえない性格のものだったからである。彼らの活動が世代的にも一代で終り，継承されることがないのも，そのような理由によるのであろう。

こうして明治時代を代表できる建築は，外人・日本人を問わず建築家が担当しなければならなかった。明治時代の日本人建築家の活動は，外人のレベルに早く到達しようとする血のでるような努力の連続である。明治末年には多くの日本人建築家が，ようやくヨーロッパと肩をならべるにいたったと自任するほど，その習得の速度は早かった。建築家によって造られた建物は数は少ないとしてもこの時代のあらゆる力がここに結集されている。

神戸の場合，外人建築家たちの仕事は，外人関係以外にはそれほど及んでいないようである。明治20年に来日したハンセルにしても，大正時代まで滞在しながら，現在判明している彼の主作品は，ドイツ領事館（明治33年），香港上海銀行（明治35年）などである(12)。神戸における日本人建築家は彼らのもとから育ったのではなく，東京から山口半六や河合浩蔵がおもむいたときにおそらく始まったのであろう。その意味でも神戸居留地の建築は，閉された世界として終始したようである。

しかし，直接の接触は少なかったとしても，神戸における建築家の活動は全国的な視野のもとに考慮し評価すべきである。明治30年代以降の建築家は内外人をとわずそれぞれ地域社会において貢献したのであったから，そうした孤立性や閉鎖性はかならずしも神戸にかぎったことではない。それぞれの地域社会における建築家の活動が，やがて大正時代には多くの面で接触し合い，近代建築への芽生えが，そうした過程から生まれてくる。神戸の洋館も，そのような地域における役割という観点からあらためて評価すべきであろう。

注

（1）坂本勝比古氏「神戸居留地の成立過程と現存する一洋館について」（日本建築学会論文報告集66号，昭和35年10月）

（2）坂本氏上掲論文によると，J. W. Hart は新聞に掲げた広告に，Civil and Mechanical Engineer, Architect, Surveyor と列挙している。

（3）堀越三郎氏「明治初期の洋風建築」（昭和5年刊）

（4）横浜市史・第2巻（昭和34年刊）

（5）渡辺保忠氏「磐田三大洋風小学校建築始末記」（「民家」昭和34年刊所収）

（6）たとえば辻内近江による品川台五箇国公使館普請絵図（東京都立日比谷図書館蔵）

（7）神戸開港三十年史・乾（明治31年刊）

（8）神戸税関沿革史（明治37年刊）による。これには西運上所の記録は比較的詳細であるが，東運上所については明治5年正月に新築工事が創まることになつたということ，同年5月には西運上所その他とともに東運上所二階建一棟も租税察に移管されたということがみえているだけである。移管直前に竣工したとみてよいとおもう。なお坂本氏前掲論文には林忠恕が神戸運上所を設計したとある。

（9）神戸開港三十年史・乾

（19）神戸税関沿革史

（11）神戸小学校五十年史（昭和10年刊）

（12）坂本氏前掲論文

（筆者　東京大学工学部助教授）

居　留　地　と　神　戸

島　田　勝　次

はじめに

「神戸」といえば，昔から何かしらハイカラで，モダンな，アカヌケした，明るい国際都市のふんいきを身につけ，関西の中でも感覚の違う，毛色の変った存在として現在まできている。これは明治初期から外人との接触が多く，港をもち，新しい文化に早く触れ，進取の気象に富んでいたことなどによるのであろうが，ひいては歴史的に，神戸の発展における居留地の果した役割の大きさにもつながってくるのではないかと思われる。

神戸の地は，神功皇后の時代から歴史に名をとどめ，この地において，清盛・義経・正成などが活躍し，また古くから大陸貿易や内海運航の港町として栄え，奈良時代から「大輪田の泊」として，また足利時代以来「兵庫の津」と呼ばれて活躍していたところであったことは，ここでいまさらあらためてご紹介するまでもあるまい。しかし，現在の神戸の形成は，そういう古い歴史的背景の上に立っているというより，むしろそれとは逆に明治以降の近代の開花とともに歩んできたものであり，居留地の形成の上に築かれて行った，ともいい得るのである。この神戸の居留地についての詳細は，本号の別稿で述べられるはずであるから，本稿では，神戸と居留地――神戸における居留地の位置といった面を探ってみたいと思う。

1. 居留地の成立

神戸の大きな発展のいとぐちは，幕末の兵庫開港であり，それにともなう居留地の成立が，その発端をなしている。

1853年ペリーが浦賀に入港したのを直接のきっかけとして，わが国は長い徳川幕府の鎖国の冬眠から目覚めようとしていた。開港問題は起り，翌年には下田・函館の二港が，そして1858年には下田・函館・神奈川・新潟・長崎・兵庫の六港開港協定が成立した。しかし幕末の物情騒然とした中に激しい攘夷論が起り，各地で混乱や殺傷が惹起したのである。とくに兵庫は京都に近いという関係もあって，いろいろ問題も大きかったが，これらの反対や妨害を押し切って，慶応3年12月7日，すなわち1868年1月1日に兵庫港は開港された（開港直後，三宮神社前で外人を刺傷した「神戸事件」が起ったが）。神戸の夜明けは，日本近代史の第一頁が開かれるのと全く時を同じくしたのである。

ここでいう「兵庫」とは，いまの「兵庫県」を指すのではなく，神戸の湊川以西のいまの神戸駅より西の方一帯をいったのであって，慶応年間には人口2余万，戸数約5千の当時としては大きな都市であり，徳川幕府の直轄として，大阪町奉行の所管であった。これからも当時の兵庫の重要性がうかがえる。

これに対して，現在の神戸の中心地をなしている元町・三宮など，兵庫のずっと東の方は，当時は西国街道に沿って，走水村（戸数約200戸），二つ茶屋村（約300戸），神戸村（約600戸）などがあり，これらは明治に入って「神戸町」と称するようになるが，これらを合わせても人口は4千人を越えず，寒村に過ぎなかった。それが今日では位置が逆転して，都心は東に移ってしまった。居留地が当時は田畑だったが，現在の市役所・大丸・アメリカ総領事館・オリエンタルホテル・電報局・朝日会館・電々公社・各種船会社・日銀・東銀などの多くの銀行・商社などのある位置につくられたことが，神戸を東方に伸展させる大きな素地となったのである。

兵庫開港によってきた外国人には，人家の多い既成の兵庫に割り込ませてトラブルの起ることを避けさせて，東の離れた神戸の地に，敬遠して送り込むことにしたのである。

そして，旧生田川（現在の市庁舎前の三宮から税関までの電車通りの地）の西川尻に，その居留地の建設が進められて行くのであるが，工事が開港までに間に合わず，外人達は東の旧生田川と西の宇治川の間に居住の枠を定め，神戸・二つ茶屋・走水・生田・中宮・宇治野・城ケ口・花熊・北野の九ケ村で内外人雑居し，外人達は山手にも好んで土地を求めて行った。

神戸居留地に関する各国公使とのとりきめは，1867年5月に成立し，土工の完成を待たずに，居留地を外人に譲渡競売を始めた。明治元年より6年まで四回にわたって行なわれ，計126区，約4万坪が完全に外人に使用されることになった。

この地の敷地造成や区画などは，この居留地検地司だった英人土木技師 J.W.Hart 達の手で行なわれたようであり，話は違うが，レンガの製造指導なども行なって，明治初年から神戸でもレンガが焼かれていたらしい。この居留地の競売約定書によると，将来開設すべき道路や下水等は指示布告すること，道路は40尺以上，地面一区の面積は200～600坪，地代の一部を道路・下水・常夜灯・その他の居留地の用途に充てること，などを決めている。この地のアフターケヤにもいろいろ意を注いでいたことがわかる。

なお，当初計画・新設された道路としては，東西5本（海岸通・前町・中町・北町・裏町），南北8本（東町・伊藤町・江戸町・京町・浪花町・播磨町・明石町・西町）があるが，現在でもほとんど変更なく使用されてきており，下水道もずっと生きているのをみても，最初から欧米諸都市に準じて行なわれ，本格的な計画性を盛り込んでいたことが推察され，90年たった今日でも，ここだけは雑然とした街の姿から救ってくれている。

当初居留地に建った建物としては，外人商社や居館・各国領事館・銀行・教会・ホテル・クラブ・倉庫などがある。これらのうち，まず最初に慶応3年，海岸通1丁目に香港上海銀行が建てられ，当時の人々の評判になったといわれ，明治元年末にはドイツ商館4戸，続いてイギリス商館が建設された。明治元年鯉川尻にメリケン波止場がつくられ，ここから東に外人の建物が続々と軒を並べ始めた。そのどれもが木造二階建・前面吹きさらしのベランダ付・ヨロイド付の窓などの，独特のコロニアルスタイルでつくられている。

ここに入ってきた外人は，英・独・仏・和蘭・米など各国にわたるし，ドイツ人は比較的早かったが，主流はやはりイギリスだったようである。

明治5年にいたる頃までには道路も人道と車道の区別がつき（横浜より遅れるが，東京レンガ街道路より早かったようである），明治7年にはガス灯がつき，明治10年頃には積極的な都市計画にもよって，立派な近代的都市として育ったようである。

こうして成立した神戸居留地は，以来明治32年の条約改正による租借解消まで「犬と日本人立ち入るべからず」の立札にも現われているように，植民地的な，治外法権地帯であった。

租借解消後は，日本人もどんどん入って行き，居留地の様相は変貌をとげて行くが，外人の所有地には昭和12年まで永代借地権が認められ，その後も5年間猶予期間をとられ，ずっと国際的場裡を保ち，そのふんいきは，神戸の発展とともに，また神戸港の繁栄とともに，街の中に浸透して行くのである。

2. 居留地の周辺

明治のはじめ，国政は多端，政府や地方の支出は限りがあり，土木工事が全国一般に閑却されていたなかにあって，神戸は当局者の積極性と貿易商などの援助によって，居留地市街や周辺の道路開設・舗装，河川の改修・附替，海岸石垣の築造などの方面に大きな力を注いだことは注目すべきことであった。この傾向は居留地の隣接地域にも及んで，神戸近辺では盛んに道路の新設や改修・拡張などが行なわれた。この近郊の新設道路としては，現在の湊川神社の周辺や，明治3年から始まった鉄道敷設の沿線，山手道路，そして明治6年に竣工した，現在証券・銀行街となっている栄町通りなど，数多くあるが，道路の造成によって家が次第に立ち並び，街並が拡がり，神戸と兵庫が一つのものとなって行った。

居留地の成立当時，港町として繁栄していた歴史の重みをもつ保守的な兵庫に対して，神戸は兵庫に従属した僻地であったが，発展の条件を兼ね備えた神戸は，はじめは他動的に開発されたのではあるが，居留地が発足し，整備してくるとともに異常な発展をとげ，「兵庫の神戸」から，旧態依然たる兵庫を「神戸の兵庫」として



建築界待望の新扉錠-----!
ゴールユニロック
日本住宅公団・公営住宅御指定
株式會社 谷山製作所
本社工場 大阪市東淀川区三津屋北通四丁目 電(301) 5231～4
東京営業所 東京都港区芝浜松町四丁目 電(431) 8708
GOAL
シリンダーレバーハンドル錠
押ボタン式シリンダー錠
アンチ式シリンダー錠
シリンダーナイトラッチ
シリンダー抽斗錠
各種高級彫込錠

しまった。明治12年には郡区町村編成法によって，神戸と兵庫およびその中間の坂本村とが合併して「神戸区」が誕生する。兵庫が神戸に併合されたともいえるのである。これは発展して，明治22年市制実施に伴ない「神戸市」ができあがる。

神戸における居留地外の初期洋風建築としては，居留地の近く神戸税関の前身たる運上所と，元町の北，諏訪山のふもとに神戸女学院の前身たる神戸ホームの建物が相ついで建設されている。

運上所は，和洋折衷で，ガラス窓障子に多く使用して明治5年～6年12月に新築された。こんな建物に見馴れない人々は「ビードロの家」といって，日夜遠方から見学にきたようである。新築後港湾の管理はここで行なわれるようになった。石造2階建，1階136坪，2階120坪，7年上下階各160坪増築，林忠如氏の設計であるという。

神戸女学院旧校舎は，デビス，アッキンソン両氏の設計で，I字形の平面，前面全部ベランダ付，壁は普通の壁土を塗っている。木造2階建，寄棟，延152坪余，これにつづいて南舎が9年～10年に建てられた。簡単なベランダ付，木造2階建，延約140坪。写真によると，簡素だが格調のある洋風建築であったようである。

その他，明治5年の学制発布後，続々と小学校は開設され，はじめは大部分町会所・寺院・民家・寄席などを利用していたが，神戸や兵庫では明治7年以降にぽつぽつ校舎の新築が始まった。上田小学校・兵庫小学校（明治16年），神戸小学校（明治17年）などが洋風で新築され，世人に洋風建築が注目をあびていた時期であるだけに，一層興味をもたれた。

兵庫県庁舎は，はじめ切戸町奉行所内に設けられていたが，事務が多いのに狭く，腐朽し，構造も執務に不便その位置も居留地等と離れて不十分なので，明治元年末坂本村の現裁判所の地に建築された。だが土地の関係などから明治6年現在地に庁舎をつくって再移転した。また明治15年にはこの近く現県商工労働部の地に，あの八角の兵庫県会議事堂が建つ。これらはいずれも居留地の建築と同じく，初期の未消化さをもっていようが，西欧建築の片鱗をみせ，次代への発展を期待させる。

神戸の人々は，衣食の方面では身近かに直ぐ外人の影響をうけ入れ，文明開化の気分を素直に味わっていた。明治2年には元町に神戸牛肉すき焼店ができるし，洋服を着込むものもかなりでる始末だった。ただ建築では洋風建築は，官公庁や学校などの公共の建物に限られ，商店や住宅まではなかなか浸透しない。外国文明摂取の政策の性急さについてゆけないことにもよるのだろう。だがもちろん，洋風建築にタッチした大工や職人は，あちらの技術を身につけて行き，本格的な新しい建築の芽生えを蓄積して行く。

3. 神戸の発展

ところで，こういう明治初期以来の神戸の成長は，種々の契機をもって，一段と飛躍をとげて行く。

明治10年の西南の役，明治27・8年の日清戦争，明治37・8年の日露戦争，そして第一次世界大戦は，神戸に大好景気をもたらした。これはあながち神戸に限られないだろうが，港湾の整備・拡充と，工業都市としての発足に伴なったことは大きかった。

とにかく，神戸の発展の大きな基礎は神戸港にある。明治5年に兵庫港から神戸港に改称されたが，当時は生田川尻から湊川尻にいたる所を港域として，たんに船舶の停泊ができたに過ぎなかった。港湾の設備としては，メリケン波止場と，私設の桟橋がいまの第一突堤付近にあっただけの貧弱さだった。この神戸港の築港問題の萌芽は，明治6年から始まっている（当時の神戸港長であった英人ジョン・マーシャルが築港計画を立てて知事に進言している）。以来ずっと築港運動が行なわれるが，小さな埋立て，拡張や修理に終っていた。現在の神戸港の姿の出発は，明治39年「神戸港築港工事計画」が国会を通過して，明治40年から近代港湾施設の工事が着手されてからである。第一期は大正15年，第二期は昭和12年に完成し，日本一の貿易港として栄えて行く。戦後は第七・第八突堤を建設し，摩耶埠頭も起工され，神戸の発



展と同じく東へ東へと伸びて行く。

初期の神戸港は輸入港として繁盛し，大震災による横浜港の機能麻痺によって，輸出入を一手に引き受けることになる。この神戸における輸入の伝統は，あらゆる面に現われているようにみえる。映画が日本最初に上映されたとか，マッチの製造も日本で始めてだとか，居留地に立った教会も最初だとか，六甲山につくられたゴルフ場も最初とか，とにかく神戸は新しいものをそのままスムーズに抵抗なくうけ入れる素地をもっていたように思われる。

建築についていえば，鉄筋コンクリート造で日本最初といわれる東京倉庫が，明治39年に生まれているし（現在新三菱重工の倉庫として，戦災で二階部分は消失し，下部はそのままで，上部だけは木造で復旧され，往時の面影を残している），また最初の鉄筋コンクリート造の小学校として，大正9年雲中小学校ができている（現存，一部増築された）。

ところで，その後の居留地の建物は，明治20年代以降になると，応急的なものの建て替えや，レンガ造・石造などの本格的な建物の建設時期に入り，租借解消に伴なう日本の商社や銀行などが入り込み，オフィス街・業務センターとしての性格を打ちだして行く。

明治中・後期から大正にかけて，居留地の建築とともに，その他の市街でも恒久的な建築が相ついで建設される。とくに目立つのは栄町通りの銀行建築と，各官庁建築である。そしてこれらの建築には，当時の日本の代表的な建築家であった，辰野・片岡・曽弥・中条・長野・野口・河合・山口・武田などがタッチしている。その数多くが改造されながらも現存していて，手近かに日本建築の足跡をみることができる。施工の上では，明治32年に名古屋から神戸に進出した竹中が，多くのものを手がけた。

また居留地建設当時から，神戸は外人から多くのものを学んだ。海と山にはさまれた土地に，外人が山手や六甲山，そして昭和初期には塩屋のジェームス山などに居住の地を求めて開発し，自然を新しくつくりだすことを教えてくれた。いまでは神戸の背山は，市民の裏庭として親しまれているが，外人に負うところが大きい。昭和期に入ると建築の上でのヴォーリスの活躍を忘れることはできない。

こうして，神戸という土地柄が，外来のものを卒直にうけ入れ，優秀なものを，因襲にとらわれずに伸ばしてゆけたのは幸いだった。こういうと何か神戸に自主性がないともとられようが，絶えず新しく向上しようという意欲を買ってもよいのじゃないか，と一応弁護しておこう。

おわりに

戦後の神戸は，戦前ほどの活発さはなくなり，貿易額はふえているが，「斜陽神戸」とさえ呼ばれている。神戸から東京へ本社を移す会社もで，中央化の傾向が激しい。神戸にヒンターランドがないためと，大阪との交通路の悪さが，それを一段と深刻化している。現在，阪神都市圏の構想だとか，港湾の整備拡大，名神高速道路や第二阪神国道の工事，淡路や四国・九州のヒンターランド開発の意味をもつ「夢のかけ橋」の計画などをもってそれに対処してゆこうとしている。

居留地建設時代以来の新興神戸には，いままで地方としての悩みやかげりはみられなかった。狭く地方性を考える必要もなく，進取の気象をもってどんどん進んで行くことができたのである。

現在でも，街の中を外人が行き通い，異人館が点在しそれが異国情緒という薄っぺらい感じとは違って，神戸ではそれが当り前のこととして，売りものにもせず，そのままうけ入れて，広量な国際性を示し，政治的・経済的問題を除いて，あまり地方性を固執していない。こういうからっとして明るいところは今後もそのままに伸ばしてゆきたい特色であろう。

「居留地と神戸」と題しながら，変な方向へ筆が走ってしまった。とにかく現在，明治の洋風建築が近代への母胎として新しくみなおされつつありながら，一般的には様式的にも断絶意識をもたれ，歴史評価がまだ難しいそのなかで神戸は居留地を踏台として順調に発展を続けていき，現在の神戸を築き上げていった。こういうところは珍しいだろうが，しかし他の都市でも多かれ少なかれ，明治の洋風建築がたんなる断絶や突発事項としてでなく，みえざる連結や影響が多くその後につながっていることであろう。このあたりが十分追跡できれば，日本の近代史は明快に出発点を浮き彫りできるのだが…。

（筆者　神戸大学講師・近代建築史）

12月号記事訂正

○児童福祉施設の建築計画

	誤	正
P.45　右段　14行	建築計画はこのような	建築計画はどのような
P.46　右段　3行	これらの指導に	これらの指導は
P.40　右段　17行	施設としては	施設と肢体不自由児施設を見て来た。その他の児童福祉施設としては

○児童福祉施設訪問記

P.70　中段　20行	開演以来	開園以来

デザインのこと

――新年のジャーナルをみて――

新年に流れてくるマスコミの調子には，去年の始めの景気づいた論調にかわって，反省と忍耐をとくことばが，多くなっている。それらをよみながら，しぜん，建築につながる私たちの姿勢を想いくらべてみた。

1．とくべつに変ったものはない？

昨年から建築界を風靡しているかにみえるものに，「都市デザイン」の問題がある。

「**朝日ジャーナル**」（1月8日号）も，このことをとりあげて，〝'61年は，新しい都市デザイン実現えの具体的な一歩をふみだす公算が大きい……〟

〝都市計画を市民の手で，という運動にまで発展すれば，まことに結構だ……〟

〝量産住宅と都市計画とを結びつけることが，できたら，生活革命というにふさわしもいのになろう〟

などといっているくらいである。

まことに，さうかもしれないし，そのように推進しなければならないだろうが，ヴィジョンがすばらしく大きくて，そのプロシデュア(手続)を組むのは容易でないことも，このさい，よく知っておきたい思うのである。

「**中央公論**」新年号で，東京の建築家が，

〝……建築家は現実的な力がないので，市民の間に都市えの夢を盛りあげるために，夢をヴィジュアライズできる技術をもった彼等がやっているのだ。……いまそういう運動の時期だ……〟

という発言をしているのも，そこらのむづかしさを裏返して，見通しているのだととれそうである。

つまり，こうした，夢を描き，理想像を訴えるという仕方は，ただそれだけなら，いまに始まったことではなく，私たちの先輩が何年もまえにも，いつも，とってきたポーズではなかつたかと思う。

建築家が，同じようなことを同じようなコトバで発表して，それだけに終ってきている経験を，ひとは思いかえすことができるにちがいない。

〝……ぼんやり一年をふりかえってみたところでは，なにも特別なことはなかったように思われてくる。いろいろなさわぎはあったが，そのやり方も，根本の考え方も，すでに類似のばあいに，くりかえされてきたもので，とくべつの新しさがあるものとも思えない……〟

京大の哲学教授**田中美知太郎**さんのアサヒ（12月31日付）でのことばが，象徴的に思いだされてしかたがない。

つまり，ヴィジョンの売りきりだけでは，もう弱いので，むしろ提案したいのは，実行するための〝環境づくり〟をもっと考え，拡げるべきだろうということだ。

私は，都市のメカニズムを解きほぐして，市民の目にみせることのほうが，より大切だと思っている。そういう観点で，プロセスにあわせた「像」，実行の手続，体制，効果もくわしくあらわし，理念を訴え，とり入れた批判は修正してゆく過程を分らせるという，つみ積ねがいるのだろう。

極言すれば，ヴィジョンはいらない。私はそうおもう。市民はヴィジョンを描く力があるのだということも忘れないでいたい。

建築家のしごとは，それよりも，実はもっと，構造的な解説役にうつってゆくだろうと思いたいのである。

2　〝デザイン〟ということばのもつ賭博性に気をつけよう。

「コルビュジェ」の展らん会にわれわれは強い感銘をうけたが，また逆に，はっきりと思い知らされた気にもなった。われわれのまわりにある建築デザインの源流のひとつを，まのあたりにしたからである。こちらは〝やはりイミテーションだったか〟という気が私には強くした。

「**朝日ジャーナル**」（1月1日号）は，ちょうどそういうことを美術らんで，こう書いている。

〝……後進国意識そのものは，あまり変らなかったといえる〟

〝様式や傾向よりも，われわれの造形的なイマージネーションそのものをどう回復するかが，ようやく切実な問題になつている……〟

〝ただジャンルのワクをひろげ，異質のメディアを結合するだけでなく，観客をつかむどんな新しいルートを開拓し，時間と空間のどんなイメージを展開するかがもつと明確にされなければなるまい……〟

私たちの意識に，いつも「外」があって，案外，自分の「内」を忘れてしまいがちだという，いままでの傾向に，思わずまきこまれてしまってはいなかったかと，この機会に反省させられるものがあった。

だから，デザイン '61 の課題は，そういう「主体イメージ」を，日本の社会，風土のなかでどううちたてるかということだというわけである。

それには，私たちが，もっとものをみる目を養わなくてはなるまいということになるのだが，そのことを，**小林秀雄**は別のことばで，（朝日ジャーナル，1月8日号対談）こういっている。

〝現実の材質をみない。現実のハダや土をみない。……ものをみる目

を失なってしまっているといった方がいいのではないかな。作家はもう……ウワのソラで書いている……しっかりと，ものをみなければ何もはじまらぬわけではないか。それが，じつに衰弱してしまった。……現代はおしゃべりの世紀なんだ……〟

概念という形でやりとりするのでなければ，傾向的に行動してしまうのが，最近の傾向だけれども，〝ものを創る〟姿勢はそうあってはならないということを，その対談会で警告していた。

おなじように，「**二十世紀日本の理想像**」のなかでも，**亀井勝一郎**さんが，

〝当るか当らないか，という賭博性，空想性は「傑作意識」とむすびついていて，これらの観念の先行が，われわれを誤るのだ……〟

という言いかたをしておられるのもおなじことなのだろう。

『推敲の持続』，『無限鍛練』，そういう精神位をもったひとを，まさしく，「建築家」といいうるとし，そこに「デザインの倫理学」があるのだと，こういう人たちは説くようである。

3. 開発の年

サンヨーデンキは，元旦の新聞ンに一面の広告をして，そこに，〝'61 に開発の年〟といみじくも打った。

哲学者からは〝何か忘れられていないか〟（前文，田中美知郎）と問われるほどに，今年は主体性をたてる年だとするならば，独占巨大資本の要請で，都市計画にいまリアリティがでてきたといって受けにいるまえに，もういちど忘れられたものはないか考えてもらいたい気がする。

下村理論だって，中小企業や農村を切捨てごめんだとは公言していないのだから，私たちは，最終の理想像だけを描くのでなくて，成長策の実証的跡づけと，途中段階におけるそれぞれの具体像や実現のプロシデュアについて，いくつもの正しい「構造図」が描けなければならないだろうと思う。

過程像を目的にし，過程像こそ大切にするという立場にいたい。

そして，そうなるためには，やはり，傑作意識にとらわれる作家主義をしばらく眠らせておいても，建築家の「体制」や「環境づくり」を考えるのが，いちばん早道のような気がしてならない（36.1.10），

（日本住宅公団大阪支所　**金沢弘真**）

1961年第2回“建築業協会賞”募集について

財団法人建築業協会では，昨年に引続き，下記のごとく，“建築業協会賞”募集をいたしていますので，ここにお知らせします。

1. 募集期間　昭和36年1月10日より同3月31日まで
1. 申　込　申込書に所要事項ご記入の上，別記関係資料を添えてご提出下さい。（申込書は建築業協会へお申込下さい）
1. 選考委員氏名（五十音順）

尾崎　久助氏　谷口　吉郎氏　松田　軍平氏
大江　宏氏　土浦　亀城氏　松下　清夫氏
久良知丑二郎氏　東畑　謙三氏　村野　藤吾氏
清水　一氏　中田　亮吉氏

1. 申込先　財団法人建築業協会（東京都中央区西八丁堀2—16　東京建設会館内
電（551）9571〜3）
1. 表彰規定抜粋

（目　的）

財団法人建築業協会は，毎年国内における優良建築物を表彰し，設計，施工，その他建築技術の進歩向上を図り，文化の進展に寄与することを目的とする。

（選考の範囲）

近年中に国内に竣工した耐火建築物のうち，その種類，規模にかかわらず，優良建築作品10点内外を選び，毎年これを表彰する。

ただし昭和35年4月30日までに竣工したものとする。

（選考の候補）

応募作品は，建築主，設計者，施工者，その一般の推薦によるものとする。

（選考の要領）

選考の資料は，申込書記載事項の他，作品の説明書，図面（平面，立面，断面とし縮尺は適宜）とし，写真（カビネ版）を添付する。なお本会はこれらの費用を負担しない。

また竣工時の記念パンフレット等は参考に添付されたい。

以上の資料は応募者の希望により審査後返還する。

なお選考に当っては，施工技術に重点をおき，現地視察の上決定するものとする。

（表彰の要領）

当選作品はその建築主，設計者，施工者に通知するとともに，これを発表する。表彰は作品を対象とし，受賞者は建築主，設計者，施工者として，それぞれに表彰状を贈る他建築主には当該建物に取付け得るブロンズ製のパネル，設計者・施工者には賞牌を贈るものとする。

当選作品はさらに必要な資料を整え，毎年当選作品集を刊行し，我国の代表的建物として内外に紹介する。このため建築主，設計者，施工者は無償で作品に関する資料の使用を認めるものとする。　以上

伊奈のタイル 衛生陶器

衛陶マーク

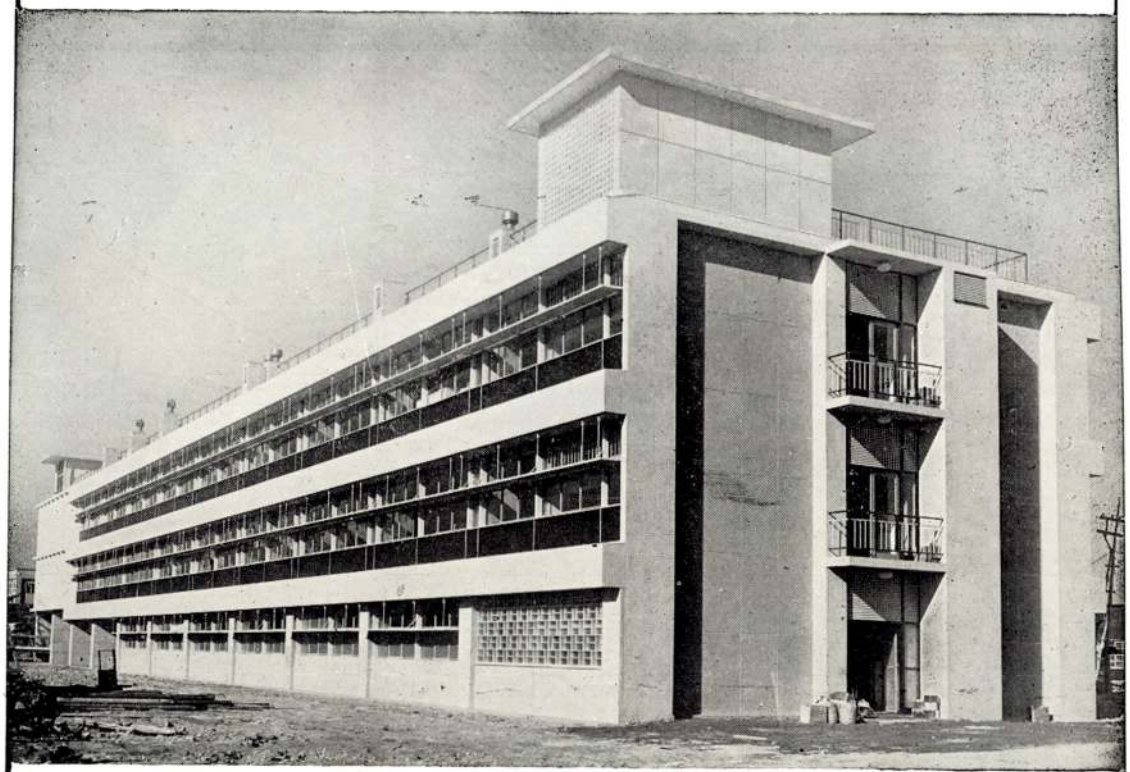
良質と量産を誇る

カタログ送呈

許可番号　第6428号

タイルマーク

衛生陶器はJIS表示の伊奈の製品を



名古屋市大基礎医学教室
設計・市営繕課
施工・大成建設
納品・CC130

伊奈製陶株式會社

本社及工場　愛知県常滑市扇面新田　電(代)　7　0　0
東京事務所　東京都中央区西八丁堀2－8　電(代)　(551)6371
大阪事務所　大阪市西区新町南通1－23　電(代)　㊾　5484

コーキングパテ

ウヅラEO



柏原瀝青株式会社

本社工場　大阪市西淀川区御幣島東２ノ５　電話大阪 ㊼ 1494～4
第二工場　大阪市西淀川区御幣島西３ノ99　電話大阪 ㊼ 0426

パテタイル

世界に誇る驚異的建材！

ガスにも熱にもビクともしない！

40年の厂史と最新技術の産物

特許……耐酸・耐アルカリひふく鉄板

オリエンタルメタル

永久建材・超ひふく鉄板

スーパーオリエンタルメタル

新時代にマッチした色つきのひふく鉄板

オリエンタル カラーメタル

美しいアルミ箔 ひふく鉄板

オリエンタル アルシート

型録送呈

責任施工

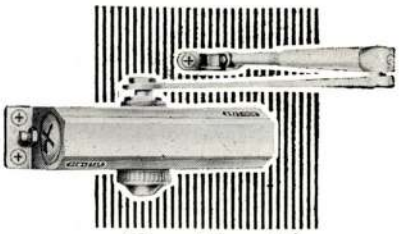
オリエンタルメタル製造株式会社

本社並工場　尼崎市大物北口　電話(48) 4947~9
東京支店並工場　埼玉県蕨市大字塚越1620　電話蕨 3252~4
支店、出張所　八幡・郡山・名古屋・敦賀・徳島・三原・徳山・延岡・岩国・宇部・川崎

NEW★STAR

創業大正八年





（新　製　品）









日本ドアーチエック製造株式会社

取締役社長　出向井啓蔵

本社工場	布施市横沼町３丁目１１番地	電話	大阪(72)代表6666－８
製工場	大阪市生野区巽矢柄町２２２	電話	大阪(72)６６６９
東京支店	東京都千代田区神田錦町１丁目２３	電話	東京(291)1920・4920
福岡出張所	福岡市舟津町１番地	電話	福岡(４)2372・3312
名古屋出張所	名古屋市中区下園町１丁目５番地	電話	名古屋(23)７３６１

クボタ　永久に美しい

（法定不燃材料）

カラーベストス

米国J M 社技術提携製品　彩色石綿セメント板

特許公告番号　昭33－9293:9692
登録商標番号　第 498,790 号



久保田建材工業株式会社

カタログ進呈
ＢＣ係へ

本社　東京都中央区日本橋江戸橋3ノ6（久保田鉄工内電話281～5621(大代表)
支店　大阪市浪速区船出町２ノ２２（久保田鉄工内）　電話 63～1121(大代表)

ABCの建材

ABCコーキング

凡ゆる間隙から永久に漏水の心配を根絶する
永久に気密を保持する
廉価で耐久性のある コーキング剤

18リッター罐		8,500円（現場渡）
1cm×1cm×1m	材料費	48円
コーキングガン		3,000円（現場渡）

カラクリート

美しく，磨耗せず，滑らず，かつ耐水性に富んだ床材床，廊下，階段，ロビー，バルコニー，ガソリンスタンド等美しい色彩と耐磨耗性を必要とする場所や，防水力があるので戸外にも使用出来る。

価格　42kg袋入（6坪分）　現場渡｛緑 7,080円（坪当り￥1,180）／その他 5,880円（〃 ￥980）

フェロコン

工場，倉庫用コンクリート床仕上材
コンクリート床の金属性硬化材で，フェロコンの施工によって床は恰も鋼板を張ったような効果をあげる。

価格　49kg袋入（7坪分）　現場渡｛色物 6,200円／ナチュラル 5,400円

コルキート

近代人の部屋には疲れをいやし，いらいらを取る壁材
合成ゴムとコルクから製造されたコルクシートで落着いた上品な感覚で，老化せず水洗出来る

価格　坪当り　東京渡　2,200円　　寸法　3尺×6尺×0.7mm

ロビンスコンダクティブタイル

麻酔ガスの爆発を防止する手術室用電導ビニールタイル

- 常に一定の電導性を保証出来る
- 施工翌日から使用出来る
- 掃除、補修が容易である

K.K. ABC商会
東京都千代田区永田町2～77
TEL（581）1411（代表）～7
大阪出張所
大阪市西区京町堀通1～18（京町会館ビル）
TEL（44）3915・0500・9303



名誉正会員 伊藤幸太郎氏逝去さる

名誉正会員　伊藤幸太郎氏はかねて病気ご療養中のところ，昨年11月18日に逝去されました。氏は明治38年関西商工学校を卒業とともに辰野片岡建築事務所に入所され，その後同事務所解散によつて伊藤幸太郎建築設計事務所を自営され，主として宮崎市，大分市，高松市などにおける諸銀行の設計に当られました。本会にはその創立当時から関係されて評議員を勤められるなど，本会発展のため尽されるところ多大なものがありました。ここにご遺影と追悼記を掲げてそのご冥福をお祈り申し上げます。

伊藤幸太郎氏を偲びて　　古賀郷実

故伊藤氏とのおつきあいは，40数年にわたるすこぶる長いものであったが，親しく氏の謦咳に接し何くれと教えを受けた期間は前後10年ぐらいのもので，したがって同氏を偲ぶお話をするのに，私は決して適任者ではないが，同氏が一生の半生を捧げられた元片岡建築事務所の所員会，三寸里会のお世話役をしている私として，若かりし日に受けた同氏の印象を少しく述べて，その責を塞ぎたいと思う。故人は容姿端麗，俳優を思わす風丰にて，資生温厚，かって他人の過ちについて，大声叱咤されたことを知らず，未熟のわれわれ後輩の面倒をよくみて下さつたことをいまさらのように思いだされるのである。優秀な氏の技術は無駄なく，その設計にあらわされていた。しかも温厚の裡にひらめく堅い信念は，やかましい片岡博士との対談の時にもよく発揮されて，さすがの博士も三叉を避ける の慨があったように思われる。氏はまたひじょうに謹厳な反面，なかなかユーモアに富み，寸鉄人を刺す皮肉と愛すべき諧謔は聞く人をうましめず，すがすがしい印象を与えたものであった。

以上述べたように結論的にいって，同氏は俗を厭い，むしろ孤高を楽しむの風があったので，公私とも派手を好まず，後半生の動静は私として，詳しくこれを知らず，お伝えすることのできぬのはまことに残念である。

戦後建築界にも師表とするに足る高潔なる人材を求むるおり，氏を失うことはいつまでも惜しまれてならぬのである。

つつしんでご冥福を祈る。

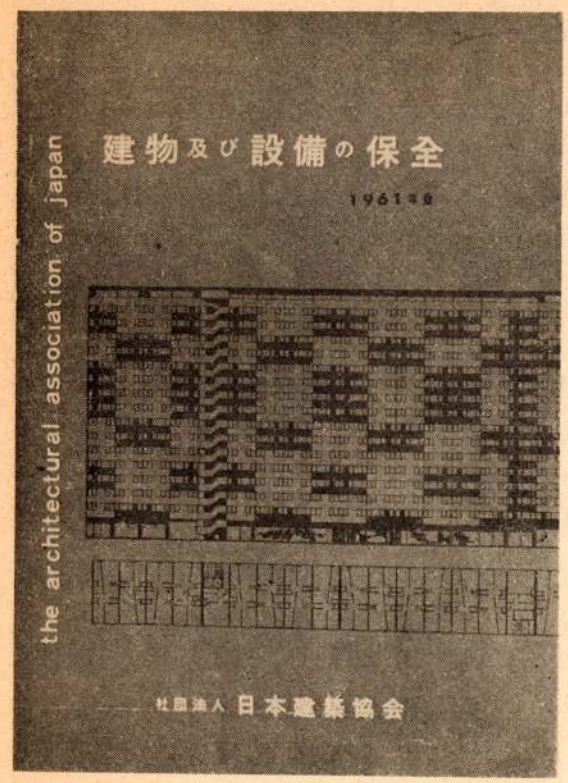
石膏ボード・石膏ラスボード規格

昭和35年12月1日より，石膏ボード材料規格の改正と，石膏ラスボード規格の制定が実施され，厚さが最低 7㎜ 厚へと改良されることになつた。したがつて，6㎜ 品は漸進的出荷中止となる見込。参考までに，右に日本石膏ボード協会の価格表をかかげる。

価　格　表　　日本石膏ボード協会

品名	日本工業規格No.	規格寸法	単位	設計価格
石膏ボード	A 6901	7㎜ 厚 3尺×6尺	1枚	225円
	A 6901	7㎜ 厚 1米×2米	1枚	300円
	A 6901	9㎜ 厚 3尺×6尺	1枚	325円
ラボース	A 6906	7㎜ 厚 1.5尺×3尺	8枚(坪)	450円
	A 6906	9㎜ 厚 1.5尺×3尺	8枚(坪)	650円

日本建築協會　好評の新刊図書案内



改訂版担当者
大井弘治郎
(本会出版委員
大井建築士事務所長)

目　次

第1章　清掃器材
第2章　室内仕上材の手入法
第3章　建具の保全
第4章　屋根の保全
第5章　外装の保全
第6章　木造建物の保全
第7章　便所衛生施設の保全
第8章　電気器具および電気系統の保全
第9章　消火装置の管理
第10章　給水給湯設備の保全
第11章　厨房設備の保全
第12章　ガス設備の保全
第13章　暖冷房の管理
第14章　エレベータの管理

■最近増々必要度を加えてきたビルの保全・管理についての恰好な手引き書としての内容を備えております。

定　価　150円
会員特価　130円
送料　25円
A5版　90頁

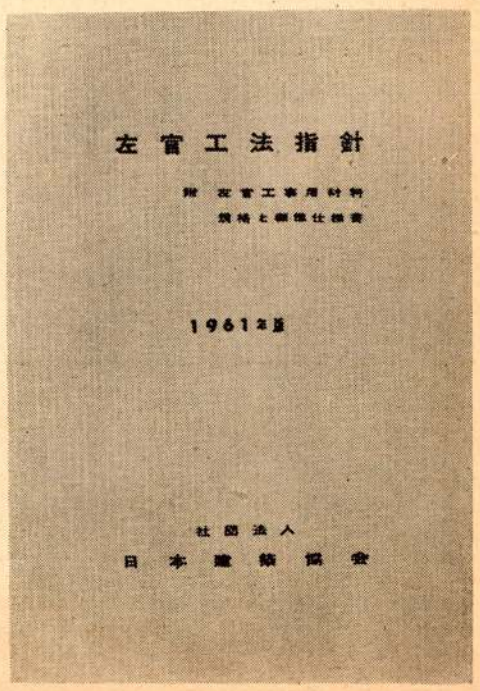
目　次

第1部　洋　壁
第1章　左官材料
第2章　塗下地
第3章　石膏プラスター塗
第4章　ドロマイトプラスター塗
第5章　しっくい塗
第6章　モルタル塗
第7章　施工上の一般問題点
第8章　塗壁の故障と対策
第2部　日本壁
第1章　下地の種類と性質
第2章　下塗から中塗までの材料と施工
第3章　上塗
第4章　日本壁におこりやすい欠陥とその防止方法
第5章　左官工事の見積についての一試案
第3部　資料
左官工事材料規格と標準仕用書

■左官工事は建物の最終的な仕上げの一要素として重要であり．それに関する建築技術者にこの図書は重要な指針の役目を果します。

執筆者
洋壁　谷口尚武
(大林組工務部次長)
日本壁　山田幸一
(大阪市大講師)

本文　101頁
規格と標準仕様書　53頁
定価　180円
会員特価　150円
送料　30円



会　　報（12 月 分）

理　事　会

14日　3時半―4時半　於会館会議室
出席者　尾崎会長外4理事　井手京都，栗林和歌山支部長，田辺監事
議　事（1）新年交礼会共催の件
（2）JISの制定を希望する事項申出での件
（3）講演会協賛の件
（イ）現代建築シンポジウム
（ロ）新建築家集団講演会
（4）事務局職員下期賞与支給の件
（5）入退会者承認の件
（6）報告事項

事業委員会

小委員会（忘年懇親会）
2日　12時―1時半　於会館集会室
出席者　政岡主査外9委員　会場側3人
忘年懇親会実施について具体的打合

小委員会（新建材資料作成）
7日　5時半―8時　於会館会議室
出席者　矢野主査外7委員

22日　5時半―8時半　於会館会議室
出席者　矢野主査外8委員
本文のレイアウト並に前文について検討

委　員　会
14日　5時―5時半　於阪神百貨店食堂
出席者　岩崎委員長外19委員
議　事（1）1月―3月の事業について
（2）欧米視察団の座談会企画について

編集委員会

幹　事　会
10日　2時―3時半　於会館会議室
出席者　森委員長外5氏
「長谷部鋭吉」特集号企画について審議

委　員　会
10日　4時―6時　於会館会議室
出席者　泉委員外3委員
議　事（1）経過報告
（イ）正月「アイデイア特集」号
（ロ）2月「居留地建築特集」号
（2）3月「長谷部鋭吉特集」号の企画審議
（3）4月「構造特集」号について
（4）昭和36年正月号よりの表紙について

幹　事　会
25日　1時半―4時　於会館会議室
出席者　上林副委員長外3委員
馬場幹事外3幹事
4月「構造特集」を「土の特集」号として企画審議

教育委員会

衛生設備図書出版準備会
9日　3時―6時　於会館会議室
出席者　田中主査外9委員
編集項目の審議を終り，準備会を解散して編集委員会を編成

エマルジョン壁塗料
日本ペイント
ビニレックス
5000級 スーパー
外部用・内部用
ビニール壁塗料
ビニレックス 5000
大阪・東京・名古屋
福岡・広島・金沢
新潟・仙台・札幌

出版委員会

鉄骨コンクリート計算実例集幹事会

27日　5半時—7時　於会館会議室
出席者　宮川幹事外2幹事
レイアウト並に今後の工程について審議

テレビ委員会

1日　5時半—8時　於会館会議室
出席者　佐野委員長外4委員　東リノ安田氏
今田プロデューサー外電通関係者
12月放送企画の内容検討

15日　6時—9時　於会館集会室
出席者　佐野委員長外5委員
今田プロデューサー
1960年の建築を語る番組の出演者並に対談内容の審議決定

近代建築調査委員会

8日　3時半—5時　於会館集会室
出席者　滝沢委員長外8委員
議　事（1）報告事項
（2）「居留地建築」特集号の件
（3）ボーリス氏に話を聞く企画の件

忘年懇親会

14日　6時—8時　於阪神百貨店大食堂
和歌山，京都，兵庫の各支部からも多数会員の出席があり，例年のとおり余興，会員有志寄贈品の福引などに興趣を盛り上げて盛況を極む。出席者 370名

テレビ放送

毎日曜日午前11時より20分間　毎日放送
提供者　大阪窯業セメントKK，東洋リノリュームKK，日本板硝子KK
12月4日　今年の建築　その1　新しい病院
11日　同　その2　新しい工場
18日　同　その3　日本工芸館その他
25日　1960—61年の建築

見学会

桂離宮見学会

5日　3時　4名　　6日　3時　4名
8日　11時　4名　　9日　11時　4名

修学院離宮見学会

7日　11時　15名　　8日　11時　15名

協賛した会

現代建築シンポジウム

1. 主　催　朝日新聞社
1. と　き　12月1日—3日　10時半—4時半
1. ところ　新朝日ビル　朝日文化ホール
1. 講　師　棚橋京大教授外9氏
1. 後　援　建設省，近畿六府県建築士会協議会
1. 協　賛　本会外4関係団体

新建築家集団講演会

1. 主　催　新建築家集団
1. と　き　12月16日　6時—9時
1. ところ　大阪建設会館
1. 講　師　京都大学助教授　西山卯三氏
「新中国の建築事情を聞く」
1. 協　賛　本会，大阪府建築士会

編集後記

本号の企画は，近代建築調査委員会の方でまとめられたものである。ご承知のように，近代建築調査委員会報告として，毎号1点づつ，発表を行なつてきた。今回は，その14回目に当るわけであるが，とくに，居留地建築について，ひとつの特集としてまとめられたものである。資料・原稿をまとめられた滝沢委員長ならびに，林野幹事，坂本委員その他の方々に厚くお礼申します。

特許 防火シャッター全般
小俣式
電動式～箱型・ウオーム・スパー
手動式～自動・鎖・オートマチック
ステンレス・アルミニウム・シャッター
株式会社小俣製作所大阪支店
大阪市北区若松町30　電話(34)9004・9016・4825
本社及工場・埼玉県与野町
東京事務所及工場・東京都北区田端町

屋根浪板
谷樋には **大島化学のひふくてっぱんを**

固定式通風器 連続式換気装置にも

耐酸スタンダードメタル

カラースタンダードメタル

PATENT Standard

大島応用化学工業株式会社

本 社 大阪市城東区野江東之町4の104 ㊱3679・4481・8471
支店新居浜・名古屋・四日市・広島

田中式 スカイライト・ベンチレーター
スチールサッシュ・ドアー
スチールシャッター・オペレーター

TNK **田中工業株式会社大阪出張所**

大阪出張所 兵庫県尼崎市南竹谷町2～89 TEL 大阪(40)6341(代表)・(40)6342

本社	東京第一工場	東京都墨田区錦糸町1～25	TEL 東京(623)代表0106～0108・(622)0790
	東京第二工場	東京都墨田区吾嬬町東4～122	TEL 東京(611)2118～9
	小倉工場	福岡県小倉市赤坂上の宿37	TEL 小倉0653・2833
	川崎工場	神奈川県川崎市東渡田3～43	TEL 川崎 ② 4540
	札幌出張所	北海道札幌市北上通東4丁目4	TEL 札幌 ③ 6762・0515
	盛岡代理店	岩手県盛岡市木伏49・東北建設(株)	TEL 盛岡 7642
	名古屋代理店	愛知県名古屋市西区西菊井町2～12・岡田建材KK	TEL 名古屋(53)0121・2057
	米子代理店	鳥取県米子市祇園町2～93・吉田工務店	TEL 米子 4683
	長崎代理店	長崎県長崎市要町11・関西工業(有)	TEL 長崎 ② 6046

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事

専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地 電話大阪(34)207～8・4836～7

暖・冷房・空気温湿度調整装置

設　計　施　工

高砂熱学工業株式会社大阪支店

大阪市北区中ノ島3丁目3番地（朝日ビル8階）
電　話　大　阪　㉓　7　6　4　1（大　代）
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設　計・製　作・施　工

東洋キヤリア工業株式会社
大　阪　支　店

大阪市北区堂島船大工町五三番地（毎日大阪会館内）
電　話　大　阪　㉞　局　8　3　5　6（代表）
本　社　東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
支　店　東　京・名古屋　　出張所　九　州
工　場　東　京　都　足　立　区　下　沼　田　町　3　6　0　番　地

給　排　水・衛　生
暖　冷　房・換　気　設計施工

株式会社 **大阪城口研究所**

代表取締役　城　口　庸　平

大阪市北区高垣町一・電話大阪㊲7575(代表)
京都市東山区大和大路大仏前・電話京都⑥4945(代表)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸④5892

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設　　計　　施　　工

株式会社 **大阪電気商会**
株式会社 **大阪暖房商会**

取締役社長　菅　谷　三　郎

本　　店　大阪市西区江戸堀南通一丁目三七番地
　　電　話　大　阪　㊹　大　代　表　8　2　3　1　番
支　　店　東　京・名　古　屋
出　張　所　京都・神戸・岡山・高松・広島・福岡
　　熊本・札幌・仙台・新潟・金沢・福井

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設　計　並　施　工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
（旧斎藤久孝事務所）

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市南区順慶町通一丁目四四番地
電話大阪㉘代表4496～8・4993～4番
本　店　東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
　　電話(281)局6505～8番
金沢営業所　金沢市高岡町三五　電話金沢②2074
福井出張所　福井市城之橋下町一〇　電話福井2436
高松出張所　高松市二番丁九　電話高松②5195

創　業　大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 **斎藤省三商店**

東　京　店　東京駅前丸ビル6階676区
　　電話東京(201)3761・3762・3763・3764
大　阪　店　大阪市西区土佐堀通大同ビル714号
　　電話大阪㊹1568・1569・2594
札　幌　店　札幌・北四・西四（札幌駅前）
　　電話札幌②0010・0956③4661
名古屋店　名古屋市中区南大津通一丁目千代
　　田ビル522号　電話中局㉔1766

暖冷房・環境衛生・水道・電気・厨房・築炉
鋼製建具・軽量間仕切・工事設計施工
鋼　管・荷　役　機　械・製　造　販　売

三機工業大阪支店

取締役社長　山田熊男
取締役支店長　池田英太郎

大阪市東区高麗橋三丁目壱番地　電話代表26局2951　3079
本　社　東京都千代田区有楽町壱丁目十番地
支　店・出張所　名古屋・福岡・札幌・広島
工　場　川　崎・鶴　見・中　津・六　郷

暖房・冷房・水道・衛生設備
設　計　施　工

須賀工業株式会社

大阪市西区土佐堀通1丁目14番地
電　話　㊹　代　表　5　1　7　1　番

東京支店　東京都港区芝田村町6丁目　電話(431)代表7121
名古屋支店　名古屋市中区材木町1丁目　電話㉓代表7856
京都支店　京都市下京区烏丸通松原下ル電話⑤1989・2255
神戸支店　神戸市生田区北長狭通2丁目　電話③代表5101
福岡支店　福岡市千代栄町電話㊽代表4731

給水・排水・衛生設備・暖房設備
汚水浄化装置・都市廃物処理装置

株式会社 **西原衛生工業所大阪店**

大阪市大淀区中津南通2丁目51　電話大阪㊺3415
東京事務所　東京都港区西芝浦3の1電話東京(451)5281
広島出張所　広島市空鞘町99の1　電話広島③7544
福岡出張所　福岡市下呉服町2の9　電話福岡②5389
　　祐徳ビル

空気調和装置・塗装乾燥装置
設　計　施　工

株式会社 **建　材　社**
大　阪　支　店

大阪市北区中ノ島二丁目（新朝日ビル5階）
電話大阪㉓6041（代）
本社及東京支店　東京都中央区八重洲三丁目七
営　業　所　名古屋市中区西万町二丁目一

暖冷房・温湿度調整
水道・衛生・環境衛生装置
設計施工

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀上通1丁目7
電㊹（代表）2613・（代表）9431
営業所　神戸市生田区北長狭通7丁目1の1
電④1778・4386
出張所　名古屋市中村区牧野町1－6　電話㊺0966
〃　東京都北区上十条1の10　電(911)2346
〃　広島市西魚屋町31　電②1375

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 **三晃商会**

本社　大阪市北区富田町一六　㉞7031㊱6793
出張所　東京都中央区宝町二・六(村幸ビル2階)(561)5441
名古屋市中区新栄町二丁目一　⑨1820
福井市宝永上町一〇五　1596
松江市東本町四丁目一四九　5098
広島市紙屋町八　②1938
福岡市養巴町二二　④1158

暖冷房・水道衛生工事
設計施工

株式会社 **栄興商会**

取締役社長　中山敏正

本店　大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話大阪㊺3391～5番
支店　東京都新宿区荒木町一九番地
電話(351)2177～8番
神戸出張所　神戸市生田区下山手通八丁目三三　電話元町④3035番
京都出張所　京都市中京区高倉通三条下ル　電話上③2869番
三沢出張所　青森県三沢市上久保三一　電話大三沢36番

暖房・冷房・水道・衛生
温湿度調整装置
設計施工

株式会社 **朝日工業社**

大阪市北区中之島4－39　電㊹6671～5

東京支店　東京都港区芝浜松町2－7　電(431)7341～5
北海道出張所　札幌市北四条西15丁目　電⑤0106
仙台出張所　仙台市元寺小路(五城ビル)　電②8061・③9261
名古屋出張所　名古屋市中区東陽町6－5　電㉔1270・1484
広島出張所　広島市大手町8—155　電③7947・②6438
福岡出張所　福岡市薬研町3　電④0788・⑤0296

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話大阪㉞{(代表)0977 {0978～9・0970
本社　東京都千代田区丸ノ内2－10
電話(281)2631－5
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話7332
名古屋出張所　名古屋市東区東門前町3－6
電話⑨2893

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役　市川進男

本社　京都市中京区両替町通リ姉小路上ル
電話㉒（代表)7975・(夜間専用)5532
大阪営業所　大阪市北区天満橋筋1-37(天満橋北詰)
電話㉟8829
四日市営業所　四日市市浜田西末広町　電話7503・3665
津営業所　津市栄町2－111　電話3610

暖冷房・換気・空気調和
給排水・衛生・電気
設計施工

日本熱学工業株式会社

取締役社長　牛田正郎

本社　大阪市東区唐物町5丁目10
電話大阪㉕(代)5171～3・3643
東京支店　東京都千代田区神田和泉町1
電話東京(866)7683・7716・2594
西部営業所　下関市大和町33　大和ビル23号室
電話②7306

煖房・冷房・温湿度調整・衛生設備
設計施工

大嘉熱工業株式会社

取締役社長　**嘉幡政四郎**

大阪　大阪市北区万才町四三浪速ビル六階
電話大阪㊱直通2085・5725
(代)9851～9・9951～9
東京　東京都千代田区西神田町一ノ八
電話東京(291)8002～3
出張所　愛媛県川之江市・九州福岡市

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市西区江戸堀北通3丁目46番地
電話大阪㊹（代表）3818
本社　東京都文京区元町2丁目17番地
電話(921)（代表）6294
支店出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

冷暖房・温湿度調整装置・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工

理研鋼機株式会社

大阪営業所　大阪市北区宗是町1（大ビル）
電　大阪代(44)8621番
本社・工場　東京都北区神谷3の10の3
電　東京代(901)3191番
本社・分室　東京都港区芝佐久間町1の46（大同ビル）
電　東京代(501)3156番
営業所　名古屋・仙台　**連絡所**　福岡

電気工事設計施工

工藤電気株式会社

大阪市北区野崎町八〇
電話・大阪㊱2891—5番
東京支店 東京都中央区西八丁堀二丁目十二
電話(551)8330・8303
営業所 名古屋・神戸・岡山・広島・福岡

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長 浅海正雄
本社 大阪市東区北浜二丁目六九
電話大阪㉓5273—5・5451—2
東京支社 東京都港区赤坂溜池町1
電話(481)1316・2536・4715・3573
営業所 名古屋・札幌・沖縄・福岡

電気工事設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗原信英
大阪市北区永楽町8番地(日産生命館)
電話 大阪㉞代表 1234～9
支社 東京都港区芝浜松町(大門ビル)
出張所 名古屋・舞鶴・広島・八幡
福岡・富山

電気工事全般設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長 今村騰
本社 大阪市北区梅ケ枝町二五番地
電話大阪㉞8131代表～4 ㊱7263
営業所 東京・名古屋・新宮・御坊

電動機自動操作用配電盤・分電盤・受電盤
自動遠方操作盤・電動機単逆相運転防止装置
温湿度自動装置監視盤・遠方監視自動装置
各種フロントスイッチ・スペースヒーター及び
ウォータヒーター・其の他特殊電気機器設計製作

森井電業株式会社

東京本社 東京都港区芝三田綱町一番地
電話 東京(451)9611～5番
工場 東京都港区麻布新広尾町一丁目一三四番地
電話 東京(451)0535番
大阪支店 大阪市北区常安町十六番地
電話大阪(44)9516～8番夜間専用(44)502番
名古屋出張所 名古屋市中村区長戸井町三丁目四十一番地
電話 笹島(54)6865・9495番
福岡出張所 福岡市東職人町二七番地
電話(4)7813番 (5)3516番
広島出張所 広島市三川町二六番地電話(4)2449番

各種電気工事設計施工

株式会社 **ヤマト電気商会**

取締役社長 山本龍太郎
本社 大阪市北区西堀川町15番地
電話 大阪㉞代3056
東京営業所 東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館607号室 電話東京(541)7464
出張所 大阪南・北海道・名古屋・四日市・福山・福岡

電気工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納伝三
本社 大阪市北区絹笠町50(堂ビル3階)
電話 (312)1471(代)～5
倉庫 大阪市大淀区浦江北2丁目51
電話 (45)5148・6646
支店 東京都中央区西八丁堀4丁目10番地
(後関ビル3階) 電話(551)5590～2
営業所 名古屋市中村区泥江町2ノ1
電話 (55)7146

電気工事
設計・施工

朝陽電気株式会社

取締役社長 山本博三
本社 大阪市北区中之島三丁目三 朝日ビル7階
電話 大阪局㉙9531(大代表)
営業所 大阪市西区土佐堀通り四丁目十一番地
電話 大阪局㊹5201番(代表)～3
出張所 京都市右京区西院今田町六番地
電話 京都局㉞3481番

電気工事設計施工

江東電気株式会社

取締役社長 猪飼幸次郎
本社 大阪市生野区勝山通9丁目72
電話 (716)4035(代)～8
支社 東京都新宿区淀橋533
電話 東京(371)6203
出張所 金沢・名古屋・高知・広島

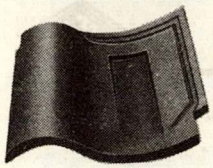
電気設備工事・設計・施工

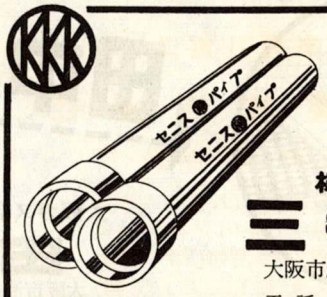
中本電気株式会社

取締役社長 中本正明
本社 大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話 ㉝5143・5373・9594・2134
機器工場 大阪市城東区野江西之町三丁目一一三
資材倉庫 電話 ㉝2193

電気工事設計施工
並架線金具製作販売
（日本工業規格表示工場）
八千代電設工業株式会社
取締役社長　梶本秀尾
大阪市東区森之宮東之町
電話大阪（94）6531（代）～5
支店　名古屋
出張所　東京・岡山・門司

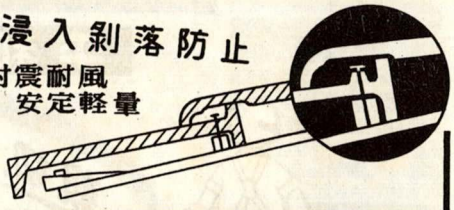
PAINTING CONTRACTOR
塗装工事請負
株式会社 林塗装店
TEL. 大阪 ㉕ 1756—7・東京 ㉙ 1335


大和洋瓦
雨風に強く緩勾配に最適
超軽量荷重（坪当37貫）
和型より安い
発売元
大仏組　大仏瓦，各種和洋瓦 工事請負一式
本店　京都市東山区今熊野池田町九　⑥ 3555
大阪営業所　大阪市東区内淡路町一丁目　㉔ 975



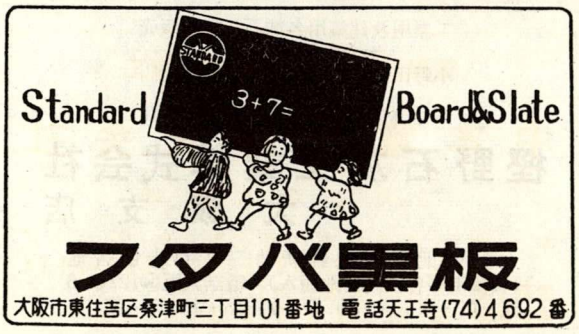
陶管・練瓦・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール
株式会社 三幸商會
大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電話 大阪 ㉞ 3145

コペンハーゲンリブ
商月報無料送呈
井田商事株式会社
大阪市浪速区西円手町一〇一七番地 湊町駅貨物入号門前
電話 (53) 4890　(54)0808~9

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町一丁目七四二 電話㉔五〇六五
ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾配最適軽量水止付（空葺）瓦

特許植物性　型枠離剝塗料
サンヒット
メタルフォーム用特号
関西代理店　株式会社 金剛商会
大阪市西淀川区野里町1231　阪神国道　野里電停前
製造元　東京サンヒット商会　電 大阪㊼0417・4091

奉仕感謝の店
タイル 衛生陶器
㊫ 株式会社 川岸窯業商店
大阪市西区靱南通２丁目21　市電靱南通り電停前
電話大阪・(54)2435・2788・8597番



フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地　電話天王寺(74)4692番

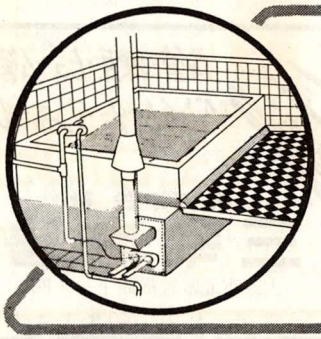
耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店

株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交叉点
電話 大阪㉞2403・3904

鈴木式防火シヤタア

株式会社 **鈴木シヤタア商会**

大阪市北区茶屋町33　電話㊲0098・5837・8729



田中のガス風呂

清

各種銅鉄風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・
ガス風呂

大阪ガス会社指定

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町1丁目742　但シ賑橋電停前　電話㊹5313・8128



平和式

親切・丁寧 ご御照会

軽量シヤッター

平和工業株式会社

大阪工場　大阪市浪速区河原町2丁目電(64)5750・8444
東京工場　東京都太田区糀谷町4丁目電(741)0160・1733

鋼製建具
製作・販売

栄進鋼業株式会社

大阪市城東区野江西之町2—2　電話 城東 ㉝ 8261～3番
支店・福岡　営業所・広島・長崎

リグノイド床・床材料

製造・販売・施工

福屋工業株式会社

本店　大阪市西区南堀江上通一丁目三一
電話　大阪 ㊸ 3426～7

工業用及建築用各種石灰製造販売
小野田 セメント / コンクリート / レディミクスト 特約販売店
セントラル硝子特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大阪支店

大阪市北区曽根崎新地三丁目十四番地
(桜橋電停曽根崎新地西入)　電話大阪㉞1274～6
支店・東京・神戸・姫路・徳島・高松

プリント合板
ビデオンボード

リブ付塗装合板
美装パネル

吸音多孔合板
ベニヤトーン

織物の壁貼材料
オーツカクロース

九つの特長を誇る
九徳天井板

綿條塗装合板
ラインボード

ビニール合板
ビニライト

立体塗装合板
カーベライト

クトク



浪速合板

大阪市浪速区 幸町通3丁目20
電話 新町(53) 2201−3番

工場 大阪市住吉区西加賀屋町4丁目81
電話 住吉(67) 5109

Acoustic Tex
吸音テックス



株式会社 室谷商店

本 社 神戸市生田区長狭通四ノ一地産ビル
TEL 神戸 ③ 0881〜3
支 店 大阪市北区絹笠町五〇 堂ビル5階
TEL 大阪(312) 2031〜4

燃えない建築資材
耐火ボード
タイガー印
石膏ラスボード
タイガートーン
絶対に亀裂を生じない劃期的下塗壁材
Y.N石膏プラスター
キーンスセメント
各種焼石膏

吉野石膏大阪支店

大阪支店 大阪市西区土佐堀通1−1(大同ビル)
電話 (44) 8912〜4
本 社 東京都丸ノ内・三菱東九号館四号
電話 東京 (281) 2391(代表)
福岡営業所 福岡市相生町1−1 電話 (58) 631〜3

木毛セメント板



東邦商会

本 社 大阪市東住吉区桑津町3丁目59
電話大阪 ⑭ 1296〜7
出張所 和歌山市新堀6丁目13
電話和歌山 ②0298・9435

軽量鉄骨
設計・施工

新鋼建設工業株式会社

取締役社長 吉田信武

本 社 大阪市西区新町通2丁目25
電話 ㊸ 7418・609・6575
工 場 神戸市東灘区本庄町青木古堂町53
電話 神戸 ⑧ 616
広島県御調郡向島町立花3010
電話 尾道2868 向島西19

諸官庁御指定
吹付及び掻落ソリジットスタイン
床材(合同リグノイド) マグネシート
外壁シリコン防水
製造。販売。責任施工

合同特許建材工業株式会社

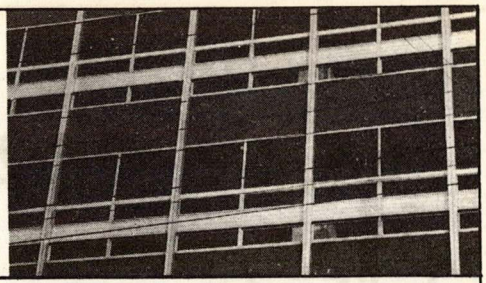
取締役社長 山下謙治

本 社 大阪市東住吉区田辺東之町3−109 電大阪 ㊻ 9086
営業所 大阪市東住吉区駒川町3−54 電大阪 ㉙ 4370・6760
出張所 広島市比治山本町1180 電広島 ④ 4967
出張所 東京都新宿区花園町46 電東京(351)5298・5264

SAK

アルミニウムの総合メーカー

昭和アルミの押出型材



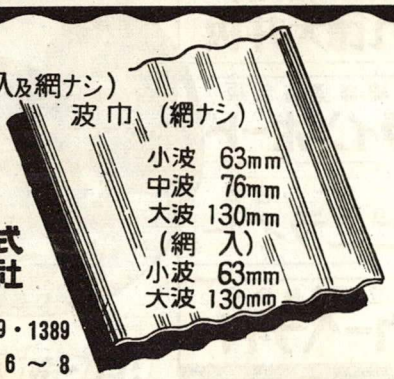
昭和アルミニウム株式会社

本　　社　堺市海山町6の224　電話　堺(3)1181(大代表)
大阪営業所　大阪市東区唐物町2の47　電話　大阪(26)1991～7
東京営業所　東京都中央区日本橋堀留町1の12　電話　東京(661) 6541(代表)

光り波型ガラス　(網入及網ナシ)

ダイニチライト

ポリエステル樹脂
硝子繊維強化板



製造元　大日本硝子工業株式会社

大阪支店　大阪市北区玉江町2—4（三菱倉庫ビル）電話　大阪　㊹3389・1389
本　　社　東京都中央区京橋3—6　電話(281)6926～8

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルタル工事

アスファルト専門工事

アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事

大阪耐酸工業所

大阪市北区浮田町82番地　電話大阪㊲1333番

N.G.C式

N.G.インシュライト工事責任施工
メタリヤンメッシュD.M38番責任施工
米国パブコ.コンパウンドアスファルト販売

内外工業株式会社

脇山静夫

本社　大阪市阿倍野区旭町一ノ五一　電話㊸3434～6
工場　大阪市阿倍野区旭町二ノ六六

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト
モルタル工事

N.G.インシュライト断熱材製造発売元

最良のコンクリートを保証する…

日曹マスタービルダーズ株式会社

設立御挨拶

セメント分散剤「ポゾリス」に関し毎々格別の御引立を賜わり有難く御礼申上げます

今般　皆様の御支援により日曹マスタービルダーズ株式会社は、お蔭様にて無事設立いたしました。　当社は従来日本曹達株式会社、日曹商事株式会社の「ポゾリス」関係業務を引継ぐと共に、ポリゾリスを始め輸入諸建材の国産化を図るべく12月1日より業務を開始いたしました

当社は　（1）　輸入各種建材の国産化
　　（2）　各工事に適応した高度の製品
　　（3）　テクニカルサービスの徹底

をモットーとして、日頃のご愛顧にお報い致したいと存じます

何卒弊社に対し倍旧の御指導御支援を賜わりますよう御願い申上げます

セメント分散剤
ポゾリス
ネオ・ポゾリス

モルタル
無収縮、注入剤
エムペコ

コンクリート表面
耐磨耗剤
マスタープレート

コンクリート表面
カラー耐磨耗剤
カラクロン

コンクリート・モルタル
防水　撥水剤
ステアロリス

コンクリートゼロスランプ
ウオカビリチイ増進剤
ルブリリス

其他諸製品

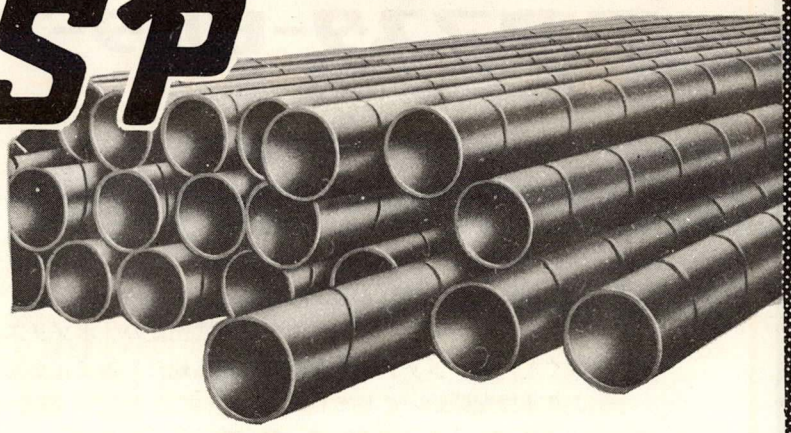
日曹マスタービルダーズ株式会社

本社　東京都千代田大手町2の4（新大手町ビル）

大阪出張所　大阪市東区北浜2の90（日産生命館）
名古屋出張所　名古屋市中区新栄町1の6（朝日生命館内）
福岡出張所　福岡市天神町8（西日本ビル内）
仙台出張所　仙台市一番丁11（東一ビル内）
札幌出張所　札幌市北三条西2丁目（桑沢商店内）
二本木出張所　新潟県中頸城郡中郷村（日曹二本木工場内）
高岡出張所　富山県高岡市向野本町（日曹高岡工場内）

丸和の
軽量螺旋鋼管

M-SP



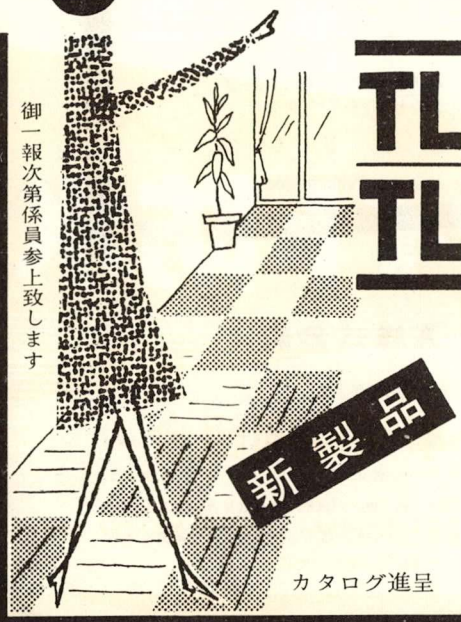
a 肉厚が極めて薄い
b 強度が高い
c 管の長さが自由に製作出来る
d 管の接続が簡便
e 最も経済的な価格

製造・販売元

㊀ 丸和工業株式会社

（カタログ進呈） 大阪市東淀川区三津屋南通5ノ1 電話 大阪（301）5369番

デラックス床材の決定版！



御一報次第係員参上致します

新製品

カタログ進呈

TLモザイク・フローリング
TLモザイク・ブロック

★**フローリング**はランパーコア合板式で狂いがなく簡単に張る事が出来ます寸法が一定していますから取扱が便利ですその上値段は寄木の½位の格安です
★**ブロック**はタイル式でコンクリートや板の上に接着剤で簡単に安価に豪華な寄木張の床が出来ます。
（各々樹種はなら、さくらがございます）

製造元 天塩川木材工業株式会社
関西総代理店 **太洋木材工業株式会社**
大阪市東区横堀6丁目21 電話 大阪㉕1025・5127

■ 防 水 工 事 施 工 に 望 む ■

防水工事は建築工事の最も枢要な部門の一つでありその良否は建築物の死命を制すると言っても過言ではない。

外部に見えないと言う理由で或は又その効果が年月を経てはじめて表われると言う理由で不当な競争の結果粗雑な工事に趨り或は一部に防水工事はいくらでも安く出来ると云う概念すらあることは極めて危険であり建築技術の向上を阻害すること甚しいものである。

アスファルト防水工事は今更こと新しく言うまでもなく適切な材料の選択は勿論その施工が最も大切であり、しかもそれは明確な責任を伴うものでなければならない。

斯界激讃の冊子

——アスファルト防水工事——

• 年限仕様の理論と実際 • ¥400 〒60

建築家に限り２割引

何よりも安心できる年限仕様

Ⓐ アスタイト防水

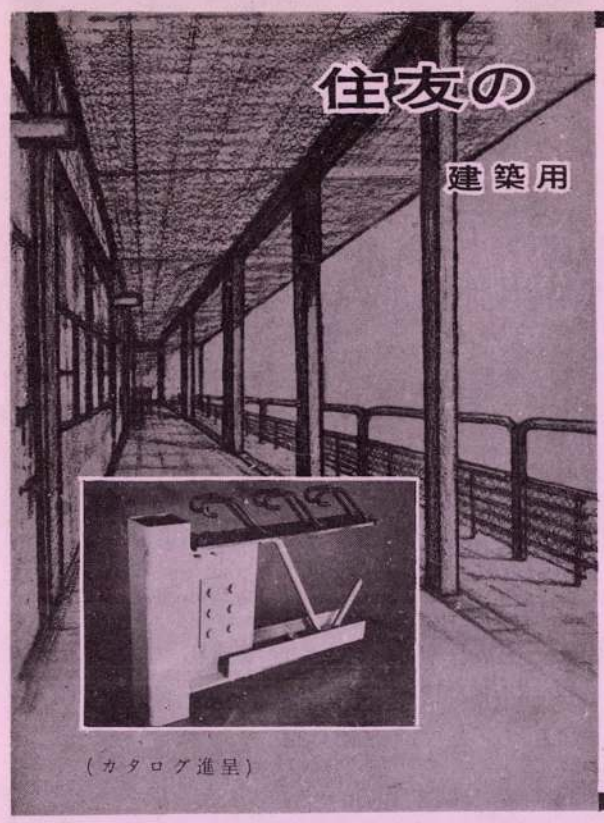
建設省阪建22号認可

出資金600万円

三星 西日本アスファルト事業協同組合

大阪市西区京町堀上通１ノ１４　TEL㊹代表5951　夜間管理人室用 ㊹ 9910

東京連絡所　東京都足立区小台町６３３(田島応用内)　TEL　㊾ 代表１１８１



（カタログ進呈）

角形鋼管

「鋼管を素管とした
継目角形鋼管」

形鋼を組合わせて溶接した角形鋼管と比べると
均質で、**軽量**で、**経済的**な(高級)継目角形鋼管

住友金属工業株式会社

本　社 大阪市東区瓦町4丁目31電話(大代表)大阪 (27) 2201
支　社 東京都千代田区丸ノ内1丁目8ノ6(新住友ビル)電話(大代表)東京(211)2211
福岡営業所　福岡市天神町58番（天神ビル8階）　電話福岡(5)5190・3582
広島営業所　広島市紙屋町8番地（広電ビル内）　電話広島(2)7471・7596
名古屋営業所　名古屋市東区久屋町5・9(住友商事名古屋ビル)　電話 名古屋(97)1490・6222
仙台営業所　仙台市東1番町11東1番丁ビル内　電話仙台(3)3501-(5)2643
札幌営業所　札幌市北大通西4丁目6(住友生命札幌ビル内)　電話 札幌(4) 0378

減らず・滑らず・美しい
モルタル打と同時仕上る 美装床材

カラー・コンク

超硬骨材に顔料、薬品等を配合した粉末剤でその儘水練り、金鏝仕上げの為特に技術を要せず、色ムラ、ノ口汚れ等の缺点がない耐磨耗性特に強大、表面滑らかで美しく清潔、耐水性に富み価格低廉であります。（**坪当り材料代¥ 950**）仕上り厚さ約2㎜程度
学校、工場、病院、事務所、商店、ガレーヂ、ガソリンスタンド、住宅の玄関、流し、浴室等に最適であります。

（求 代 理 店）

慧精（ケイセイ）工業株式会社

大阪市此花区四貫島旭町1－3
TEL　大阪（46）3594

青写真とマイクロフィルム

株式会社 内外写真

製図・トレース・複写写真

大阪市北区堂島北町16　TEL ㊱9055(代表)

電気工事設計施工

阪急電気工事株式会社

TEL 大阪 (301) 1757 (代)　名古屋 ⑨ 5980

トムレックス
吹付石綿
吸音断熱耐火材

日本アスベストの新建材

時代の要求は
・静かな！
・夏涼しく冬暖かい！
・燃えない！

軽い耐火板 建築基準法定不燃材料

ファイアボード

厚さ（mm） 4. 6. 8. 10. 12
大さ（mm） 910×1820
1210×2420
吸音板 303×303
大さ（mm） 910×1820
釘打・鋸引・取付……施工容易
重量……木材以下

本誌名記入お申越次第資料を送呈致します。

N.A.K.
日本アスベスト株式会社
本社 東京都中央区銀座西6丁目3番地
仮事務所 東京都港区芝公園5号地12番地9号
電話・銀座（571）5701（代表）
大阪支店 （25）5491・九州支店（4）1747
名古屋支店 （32）6591・札幌出張所（3）520

小野田防水ブロック
美しくて、強くて経済的な唯一の化粧目地、仕上用防水ブロック

特許 小野田NN防水剤
透水比も吸水率も低く、耐久的な防水モルタル、防水コンクリートをつくるには唯一不可欠な防水剤

小野田パーライト
粒状・均質・純粋で軽量性・断熱性・耐火性・吸音性の卓れた経済的なパーライト

特許 小野田CXモルタル
耐薬品性・防水性・防滑性・耐震動性・接着力の卓れた特殊弾性（ゴムセメント）モルタル

小野田 パール・フォーム・ボード
小野田パーライトの特性を活かした軽量・断熱・耐火・吸音防湿の諸点が特に卓れた強化気泡コンクリート板

特許 小野田K6セメント
塗装によって人造大理石が簡易にできる特殊着色セメント

小野田ブロック株式会社
本社・東京都千代田区丸の内1の1 第一鉄鋼ビル
電話・東京（201）1311・1411内線365～7

御問合せは最寄り工場へ
東京工場 東京都江東区深川豊州1の1
神戸工場 神戸市灘区灘浜町3
名古屋工場 名古屋市港区丸池町1の1

アスファルト防水の材料と工事は

（アイウエオ順）

◀製造業社

協和建材工業k.k.	大阪市東淀川区田川通5丁目91	(301) 6437・6438
k.k.工英社	大阪市西成区橘通9丁目24	(66) 8861～2
k.k.工盛社	大阪市城東区西鴫野6丁目43	(97) 4460・8288
田島応用化工k.k.大阪出張所	大阪市西区京町堀上通1丁目14	(44) 代5951
大恵工業k.k.	大阪市西淀川区姫島町1690	(47) 3131～2
東亜工業k.k.	八尾市字太子堂629	八尾 (029) 2308・3039
日瀝化学工業k.k.大阪営業所	大阪市東淀川区堀上通3丁目39	(39) 0924～5・2045
日新工業k.k.大阪営業所	大阪市西区新町北通1丁目40	(53) 5281～3

◀販売業社

浅野物産k.k.大阪支店	大阪市東区瓦町2(三和ビル)	(23) 1731代・2931代
井上工材k.k.	大阪市西区京町堀上通2丁目4	(44) 代8581～5
池田商事k.k.	大阪市福島区鷺州本通1丁目48ノ3	(45) 7601～5
内田商会	大阪市北区万才町47	(312) 0871～8
梅本石油k.k.	大阪市東淀川区新高南通1丁目28	(39) 2080・2207・0238
枝松商会	大阪市北区道本町41	(36) 5858～9・5850
大阪朝日瀝青k.k.	大阪市西区南堀江一番町14	(53) 4520・8401
三友アスファルトk.k.	大阪市東住吉区矢田住道町913	(79) 4427
川崎物産k.k.大阪営業所	大阪市北区絹笠町50（堂ビル二階）	(36) 0774
中西瀝青産業k.k.大阪営業所	大阪市北区老松町2丁目7	(34) 4305
k.k.長野商店	大阪市西区京町堀上通3丁目40	(44) 5195～6
日本建設興業k.k.	大阪市東区北浜4丁目19	(23) 2771～2
前田商店	大阪市西区江戸堀北通5丁目36	(44) 5224
村井工業所	大阪市生野区生野田島町94	(73) 2514
山文商事k.k.	大阪市西区土佐堀通1丁目13	(44) 0255代・5392代

◀工事業社

旭化建工業k.k.	大阪市北区茶屋町38	(37) 6555～7
k.k.井上浄夫商店	大阪市西区江戸堀下通1丁目7	(44) 3520・4564・1005
k.k.石田建材店	大阪市東淀川区元今里北通1丁目31	(37) 3340・3505
大阪耐酸工業所	大阪市北区浮田町82	(37) 1333
大島応用化学工業k.k.	大阪市城東区野江東之町4丁目104	(33) 3679・4481・8471
大野産業k.k.	大阪市北区同心町1丁目33	(35) 3845
k.k.カナヱ商会	大阪市北区空心町1丁目30	(35) 2922
共栄瀝青工業k.k.	大阪市東区船越町2丁目34	(94) 5561～2
k.k.木下謹三商店	大阪市西区江戸堀南通5丁目35	(44) 5408・5486
k.k.久保商店	大阪市北区真砂町5	(34) 0207～8・4836～7
坂口興業k.k.	大阪市北区木幡町18	(34) 1105・8640
清水興業k.k.	大阪市北区鶴野町34	(37) 0251～3
k.k.新光商店	大阪市南区塩町2丁目13	(26) 7195代
関本建材k.k.	高槻市大字高槻146	高槻（5）1646～7
k.k.大和商会	大阪市南区高津四番丁73	(63) 6221～4
谷中建材工業k.k.	京都市下京区西七条比輪田町28	京都（5）9954
友田工業株式会社	大阪市都島区都島中通6丁目41	(35) 4779・0997
内外工業k.k.	大阪市阿倍野区旭町1丁目51	(64) 3434～6
日新工材k.k.	大阪市西区新町北通1丁目52	(54) 3785～6
日本瀝青工業k.k.大阪支店	大阪市北区富田町40	(34) 1804
フタバ興業所	大阪市福島区上福島北4丁目24	(45) 6089
k.k.双葉商会	大阪市東淀川区木川西ノ町2丁目6	(37) 3375
松本瀝青工業k.k.大阪支店	大阪市北区伊勢町40	(35) 9231
マルヱス工業k.k.	大阪市福島区上福島南通1丁目152	(45) 2360・2030
k.k.明正社	大阪市東区高麗橋詰町21	(94) 8125～8
米田工業所	大阪市天王寺区南玉造町43	(75) 7271・0871
石井建材有限会社	神戸市兵庫区荒田町1丁目	神戸（5）2697
k.k.中出商会	神戸市兵庫区上沢通6丁目9	神戸（5）4630
三信工業所	神戸市兵庫区神田町439	神戸（4）6930
中村瀝青工業株式会社	神戸市生田区北長狭通6神鐵共栄ビル	神戸（4）5884
日建瀝青工業k.k.	神戸市兵庫区水木町8丁目5	神戸（6）0505
有限会社小野甚商店	岡山市内山下30ノ10	岡山（2）4272
k.k.浜原豊商店	尾道市若宮町	尾道 2760
青盛建材k.k.	広島市鉄砲町108	広島（2）2881～2
古市断熱工業k.k.	高松市宮脇町960	高松（3）5034
正和商事k.k.	松山市一番町	松山 0525・1159・2159
k.k.山本商会	松山市萱町2丁目95	松山 2717

▶賛助会員

丸善石油k.k.	大阪市南区長堀橋筋3丁目	(27) 1251(代)

広告目次 (50音順)

建築と社会 昭和36年 Vol. 42 No. 2

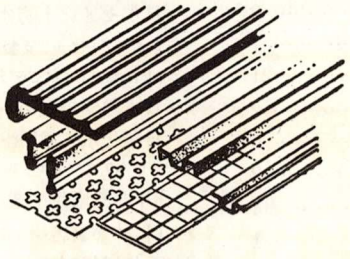
ア アスファルト……14
浅海電気kk……4
kk 朝日工業社……3
伊奈製陶kk……中挟
井田商事kk……5
kk 岩住鉄工所……前付
岩元工業kk……16
kk 栄興商会……13
栄進鋼業kk……6
ＡＢＣ商会……中挟
荏原製作所……表4
オリエンタルメタル製造KK……中挟
大阪建材工業kk……22
kk 大阪城口研究所……2
kk 大阪電気暖房商会……2
大阪耐酸工業所……8
大島応用化工業kk……1
kk 奥村重兵衛商店……本文
奥山化工業kk……21
織本建築事務所……19
小野田ブロックkk……13
小俣製作所……本文
カ 樫野石灰工業kk……6
kk 川岸窯業……5
川口ゴム工業kk……前付
関西暖房工業kk……17
関西三星タイル会……前付
関西ペイント……前付
柏原瀝青……中挟
工藤電気kk……4
kk 久保商店……1
久保田建材工業kk……中挟
kk 工英社……表2
栗原工業kk……4
kk 建材社……2
慧精工業kk……12
江東電気kk……4
合同特許建材工業kk……7
恒和化学工業……本文
kk 金剛商会……5
サ 斎久工業kk……2
サンエス石膏kk……18
kk 斎藤省三商店……2
「材料と設計」……本文
三機工業kk……2
kk 三幸商会……5
kk 三晃商会……3
三宝電機kk……4
kk 三和シヤッター製作所…前付
敷島金物kk……前付
昭和アルミニウムkk……8
新鋼建設工業kk……7
kk 新興建材工業所……21
須賀工業kk……2
鈴木シヤタア商会……6
住友金属工業kk……12
タ 田島応用化工kk……表4
田中工業kk……1
kk 田中風呂製作所……6
田辺工業kk……本文
田村商会建材部……16
kk 谷山製作所……本文
第一企業kk……3
第一工業kk……3
大嘉熱工業kk……3
大日本硝子工業kk……8
太洋木材工業kk……10
大仏組……5
高砂熱学工業kk……2
kk 武智工務所……本文
淡陶kk……挟込
中央電気工業kk……4
朝陽電気kk……4
東京鋼板工業kk……17
東洋キヤリア工業kk……2
東洋陶器kk……前付
東洋リノリュームkk……前付
東洋レーヨンkk……前付
ナ ナニワ瓦kk……5
内外工業kk……8
内外建材kk……18
内外写真……12
中本電気kk……4
浪速合板……7
浪速建材工業kk……20
日共冷熱機材kk……前付
日曹マスタービルダーズkk…9
日本アスベストkk……13
日本管工業kk……3
kk 日本金具製作所……前付
日本サッシ協会関西支部…前付
kk 日本シヤッター製作所…表3
日本セメント防水剤製造所…表3
日本ドアーチエツク製造KK……中挟
kk日本ドアーチエツク製作所……17
日本熱学工業kk……3
日瀝化学工業kk……前付
西日本アスファルト事業協同組合……11
kk 西原衛生工業所……2
ハ kk 林塗装店……5
阪急電気工事……12
kk 日立製作所……表2
kk 平川鉄工所……前付
平田タイル……18
フタバ黒板……5
福屋工業kk……6
藤森建材kk……前付
平和工業kk……6
北陸軽金属工業……20
マ 前田白蟻……挟込
丸和工業kk……10
水谷ペイントkk……本文・17
kk 三高製作所……19
美素工業所……前付
kk 室谷商店……7
森井電業kk……4
ヤ 山田工業kk……3
八幡エコンスチール……前付
八幡製鉄……前付
kk ヤマト電気商会……4
八千代電設工業kk……5
kk 山本建材社……22
kk 油脂化工社……表3
kk 吉田芳雄商店……5
吉野石膏kk……7
kk 寄木商店……16
ラ 理研鋼機kk……3

特別広告 (順不同)

清水建設kk……3
日本板硝子kk……4
kk 小俣製作所……5
日本エヤーブレーキkk……6
kk 矢橋大理石商店……6
日本ハードボード工業kk……6
東洋リノリュームkk……7
kk 石渡康三郎塗装店……7
ヤマト電気商会……8
東光電気工事kk 大阪支店……9
日本金具製作所……9
浅海電気kk……10
三機工業kk……10
kk 片山鉄工所……11
東洋キャリア工業kk……11
大阪機工kk……12
kk 諏訪商店……12

タムラ 最高の品質・新しい建築資材

金属建材



田村式メタルシーリング
田村式金属タイル
田村式ジョイナー
モリソン式ボードサッシュ
ノンスリップ・目地棒
コーナービード・パンチング

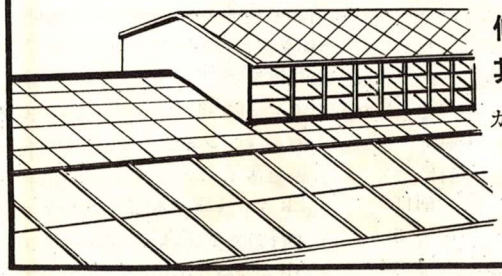
創業明治24年
貿易・木材・建材

田村商會 建材部

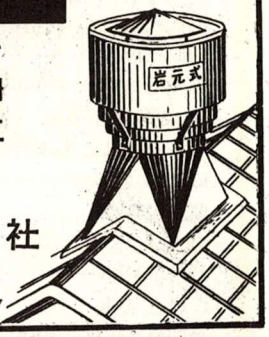
本店　神戸市生田区京町72（クレセントビル）　電話　代表神戸㊴0881
支店　東京都中央区八重洲一丁目一西河岸橋西詰　電話　東京(271)　6181・6182

岩元式

スカイライト 並 固定筒型 コンチニアス ベンチレーター



サッシュ、ドアー、シヤッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工



カタログ進呈

岩元工業株式会社

本社　大阪市東成区東今里町4の40
電話㊽0616・0617

寄木貼床板
フローリング　施工請負
ブロック
ベニヤフラッシュドアー　造作取付
グラインダー床削

株式会社 寄木商会

営業所　大阪市東区横堀6—49
電話　㉕3731・3960
工場　大阪市浪速区勘助町1

アルミニウム
サッシ・ドアー
ステンレス
スチールシヤッター

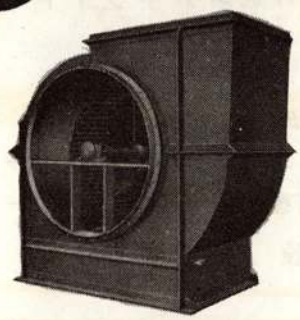
東京鋼板工業株式会社

本社及工場　東京都荒川区尾久町5ノ1000
電話　(891) 8131～7
大阪支店　大阪市北区絹笠町18番地(聚嘻ビル3階)
電話　㊱ 9154～7
名古屋支店　名古屋市中区大池町24(丸菱ビル) ㉔3048・4593
福岡出張所　福岡市橋口町15番地の1(サンビル3階) ④8825

KANDAN

煖冷房温湿度調整

設計　施工



各種送排風機

設計　製作

関西煖房工業株式会社

本社　大阪市住吉区万代東6丁目3番地
電話　大阪　67－6751(代表)～4・1590
堺工場　堺市浜寺石津町中二丁目二四〇番地
電話　堺 ①1213 ③1322
出張所　福岡　徳島

（特許出願済・受付番号35—4984）

塵を吸着する新型の塗料

防塵塗料

●コンクリート等の床面に塗装すると塵が飛散しない
●耐磨耗性・耐薬品性である
●弱電機工場・精密機械工場・病院・事務所等に適当
●塗装した床面の清掃が容易である
●好みの色に塗装できる
●費用はビニールタイルの約¼で経済的である

水谷ペイント

御照会は企画課へ

本社・工場　大阪市東淀川区西三国町5—185　TEL ㊴0821～4・0832
東京支社・工場　東京都大田区西六郷3—60　TEL (731)5038・5868
支店・名古屋・福岡　出張所・広島・高松・札幌



タイル・衛生陶器

株式會社

平田タイル

内外式　バーチカル
ベンチレーター

電気扇付　屋上強制換気装置

内外建材株式会社

旧名（株）内外土木建材社

大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）TEL（44）3983
工場　大阪市城東区天王田町1の141　TEL（98）1149

建築基準法にフリーパスのガラス屋根

内外式スカイライト

工場・プラットホーム・
体育館・アーケードに最適

内外式
コンチニアスベンチレーター
筒型各種ベンチレーター

設計　施工

新発売!!　定評ある　SSS印

遂に完成……石膏の色壁

SSSカラープラスター

色むらのない　変色しない　ペイント代節減

パーライトには

SSSパーライト用プラスター

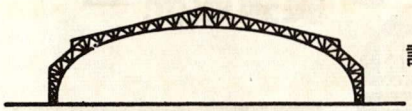
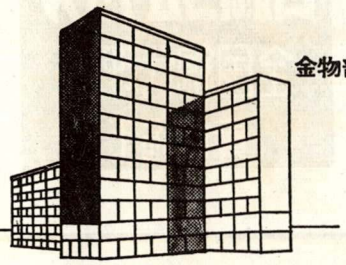
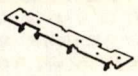
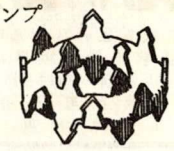
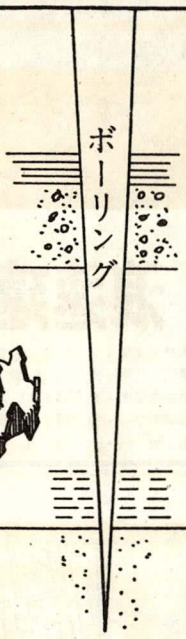
軽量天井　吸音　保温　断熱に

不燃石膏ボード　ボード用(S·B)プラスター
ラスボード　混合プラスター
吸音ボード　純石膏プラスター
ハードプラスター(SHP)

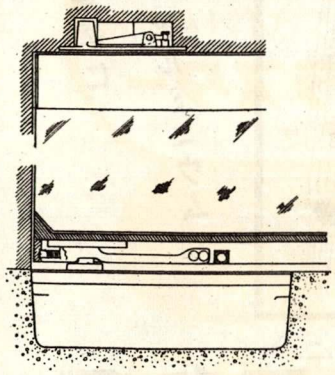
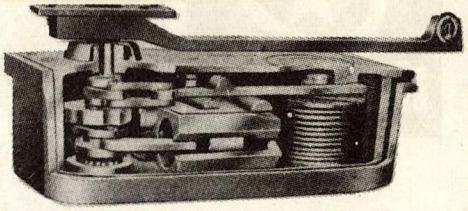
サンエス石膏株式会社

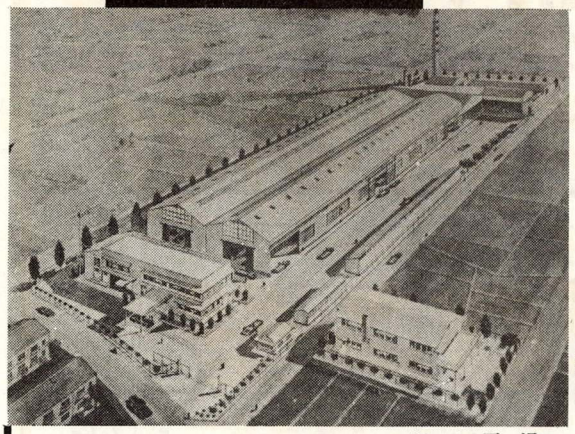
本　社	姫路市神屋町4－77	TEL姫路134·1220市外専用43
大阪営業所	西区京町堀通1丁目52番地(東亜ビル4階)	〃㊹0094(直通)9280·9314·9463
東京　〃	新宿区三光町22みくにビル内	〃　(351)　0396·(341)　3542
名古屋　〃	名古屋市東区駿河町1～18	〃　㊼　4675
福岡　〃	福岡市下名島町29	〃　㊹　8358

三高式 サッシュ.ドアー.シヤッター
オペレーター
ドアーハンガー
TRADE MARK
M.T.K.S
株式会社 三高製作所
本社工場 大阪市東淀川区西中島町7－69
電 話 大 阪 37—1 7 5 4（代 表）

綜合建築設計への道

設計部 1.各種鉄骨・鉄筋コンクリート造建築の設計監理
2.ダイヤモンドトラス・ジグザグトラス・平行トラス等
各種大張間鉄骨造の設計監理

金物部 耐震耐風木材接合金具の製造販売
PAT.O式（織本式）ヂベル及クランプ


地質部 ボーリング・建築物基礎工事の為の土質調査


株式会社 織本建築事務所 所長 織本道三郎
（旧織本建築設計々算事務所・織本特殊構造研究所・合体）
東京都中央区日本橋かきがら町３の２ 電話（671）6443・7007・7062

登録 NEWS 商標

ニュース印フロアーヒンヂ

営業品目
ニュース印 ドアーチェック
〃 フロアーヒンヂ
〃 ピボットヒンヂ
〃 ラバトリーヒンヂ
カタログ進呈
株式会社 日本ドアーチェック製作所
尼崎市金楽寺２丁目24番地・電話 大阪（48）5855・7273番



第二工場

浪速式

アルミサッシュ・ドアー
スチールサッシュ・ドアー
シヤッター・オペレーター
パーカライジングの処理工場完成
―製造販売―

NANIWA
大正十四年
創業

日満ゴムタイル
全国總代理店
責任施工

浪速建材工業株式会社

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地　電話 大阪㉝1171～3番
第二工場・大阪市城東区茨田横堤町四一番地　電話大阪㉝6153・6824番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館 607号室　電話　東京(541)4611番
福岡営業所・福岡市天神町三番地(サンビル内)電話 福岡 ④ 8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地電話 大分 1366番



●カタログ進呈

■近代建築にアルミニウム！

ホクセイ

■内外装に　アルミニウム モールデイング

■屋根に　特許 アルミ瓦

北陸軽金属工業株式会社
本社工場　富山県高岡市金屋町168　電話 代表　2045
東京出張所　東京都中央区築地4―4(築地会館内)　電話(541)4005～7



塗りつける

織物壁

★化学繊維の特長を生かした高級化粧壁材！

パピロン壁

（カタログのお申込みは全国有名建材店へ）

★純和壁の最高級……

日本壁

★日本座敷に優美な……

錦上壁

★近代文化建築の塗壁材……

いすゞ壁

株式会社 新興建材工業所

本　　社　大阪市西区四ッ橋　TEL（54）5756～9番
九州出張所　福岡市西唐人町1番地　TEL福岡(4)4651番

COPPER-BOSUITAI TRADE・MARK OAM

● 黄綬褒章受賞

陸屋根防水には

特許 絶縁工法を

カッパー防水帯

コーパータイト

特許 奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

奥山化工業株式會社

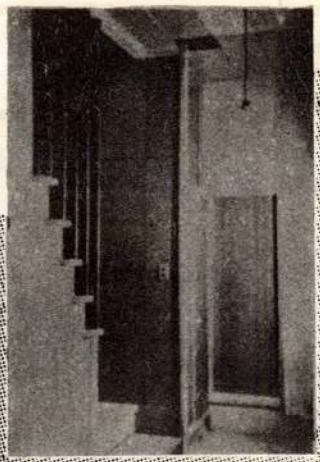
東京都中央区銀座西8の3
TEL 銀座（571）2703～4・2370・4064・0264

● 御申越次第カタログ進呈

• アルマイト吸音板
• スギメラス
• 木毛セメント特殊板
新 防火材

• メラミン樹脂製品
• ボード特殊合板
• プラスチック製品
建 化粧板

• スロール天井板
• 吸音ボード
• スロール断熱板
材 吸音断熱



ロマン格
ちモア
生きる近代建築に
魂ある文化材

30メーカー代理店

モデルハウス展示
すまいの開拓
西区立売堀2丁目(53)2843

大阪・四ツ橋
株式会社 山東建材社
TEL (54) 1861～5・2131・2233



近代建築に....
大建の
アルミサッシ
住友軽金属工業株式会社と提携

■錆びないスチールサッシは
オートメーション焼付塗装ラインに依る
大建の 2重焼付塗装で
■部材で1回、成品で1回

建
大阪建材工業株式会社
営業所 大阪市南区九郎右衛門町21番地 TEL 大阪 ㉕ 0836～9
本社工場 堺市松屋町1丁目6番地 TEL 堺 ② 3323～7
出張所 名古屋 TEL 名古屋 ⑨ 4884 金沢TEL金沢 ③ 3427～8

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

ウォータイトB号

CEMENT WATER-PROOF WOTAITO

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28－1　電話　宝　塚(079)　2153
大阪連絡所　大阪市東区船越町2－31（船越ビル）　電話 ㊾ 2626(直通)
出張所電話　東　京　(431)　0874　・名古屋 ㉜ 1331
ウォータイト式防水工事　仙台 ③ 0721・札　幌 ⑤ 7171
代行店電話　大三工業高松②8697安藤工事　福　岡 ③ 5765
豊永建材　広　島 ④ 3567

仕様書型録贈呈

紫綬褒章に輝く

JIS合格モルタルコンクリート用

特許 特マノール防水剤

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

八幡メタルホームKK推奨品

責任・施工・請負

株式会社 油脂化工社

本社 東京都品川区二葉町1－441　電話東京(781) 1715
取締役社長　矢中龍次郎　大阪営業所 大阪市東成区西今里町2－48 電話 ㊼ 4765・0063

防火シヤッター

甲種

乙種

パイプシヤッター

電動式・手動式・バランス

株式会社 日本シヤッター製作所

本社工場　大阪市東淀川区田川通6丁目38番地　電話(大阪)(301)3656～9番
東京工場　川崎市新丸子東3丁目1159番地　電話中原局(047)6325～7番
九州工場　福岡市種田町1268番地　電話 ② 4647番
名古屋支店　名古屋市中区宮出町23番地　電話 中 ㊱ 4811番
高松営繕所　高松市丸ノ内10番地(井筒ビル内)　電話 ② 4008番
岡山営繕所　岡山市内山下30ノ7番地　電話 ② 7219番
高知営繕所　高知市西組屋町10番地　電話 ② 7349番
神戸連絡事務所　神戸市生田区中山手通3丁目18番地　電話 ② 2650番

(呈カタログ・資料)

代行販売店

中博光商店	札幌市北1条通東1丁目(浦川通)	電話代表(4)0281番
理研興業株式会社	小樽市色内町5／45番地	電話(2)0872・2656・7523番
三協建材株式会社	東京都中央区八重洲3／1(広瀬ビル2階)	電話(271)2165～6番
栄進鉄工所	沼津市大岡南小林3400	電話 沼津 955番
佐野鋼材株式会社	清水市江尻竹下町8	電話 (2) 3628・4618番
石本金属株式会社	新潟市古町五番町624	電話(2)3181～5番
福田商店	高山市桐生町8番地	電話代表8541市外9
鍛田金属工業株式会社	広島市研屋町25	電話(41)8271～4番
永見金属株式会社	松江市朝日町駅南口通	電話3224・5452番
三京交易株式会社	福岡市下呉口町23番地	電話 (3) 0144 (2) 4647番
〃 小倉出張所	小倉市旅芳町72ノ1	電話 (5) 3673番
〃 長崎出張所	長崎市千馬町1ノ9	電話 (2) 0890番
大石産業株式会社	八幡市通町207丁目	電話(61)195～6番
中村金物株式会社	鹿児島市武町570番地	電話代表6650～3番
〃 熊本支店	熊本市組屋町1／30	電話 (2) 1231・4664番
田中鉄工株式会社	丸亀市城西町142	電話329・1221番
小川建材店	千葉市汐見ヶ丘24番地	電話 (2) 0897番
橋本工作所	福島県郡山市北田町16	電話 郡山 2830番

昭和二十四年三月十九日
第三種郵便物認可

昭和三十六年二月二十日印刷
昭和三十六年二月廿五日発行
（毎月廿五日発行）

エハラ・ポンプ
ターボ冷凍機



株式會社
荏原製作所



新しい製品！

●色柄がずっと豪華版な……

三星ソフトンタイル

足ざわりも歩いた気分も

ソフトな弾力

ソフトンタイルは，まるで美しい織物のように，
複雑な絵模様を出すのに成功しました　それに，
姉妹品プラスタイルPに比べ，弾力もつよく，す
べりも少くなりました
ご家庭やホテル・喫茶店，会社・官庁などに，……

●三星プラスタイル　●三星アスファルトタイル
●三星Pタイル　●三星マチスタイル

三星ルーフィングの

田島応用化工株式会社

工場・小台営業所・東京都足立区小台町633　TEL（911）1181（代）
本社・神田営業所・東京都千代田区神田岩本町13　TEL（865）6148（代）
大阪出張所・大阪市西区京町堀上通1－14　TEL（44）5951（代）
夜間管理人室用　TEL　440　9910

売価　一部　金百五十円（送料共）

御入会の御申込は……
「建築と社会」発行所　社団法人 日本建築協会 大阪市東区北浜3－37　電話北浜㉓9648・9649・9640
振替口座 大阪39975番